

原子力防災に関する住民意識調査報告書

令和4年3月

福井大学附属国際原子力工学研究所

敦 賀 市

目次

1. 調査の概要	1
2. 調査結果	2
2.1 回答者に関する調査結果	2
2.2 原子力防災に関する意識調査結果	8
2.3 原子力災害時における避難等についての意識調査結果	36
2.4 放射線に関する基礎知識についての調査結果	121
2.5 市や大学からの情報提供調査結果	141

1. 調査の概要

(1) 調査目的

本アンケート調査は、平成25年に実施した原子力防災に関する住民意識調査後の、福井大学附属国際原子力工学研究所における防災・危機管理部門の開発・研究の取組や、敦賀市における原子力防災対策の取組等を踏まえ、住民の防災に関する認識や意識及び行動実態の変化等を調査、分析することにより、研究所における防災・危機管理部門の推進と、市における原子力防災対策のあり方や今後の防災啓発活動に関する方向性や改善点を見いだすことを目的として実施した。

(2) 調査対象及び調査方法

調査対象	敦賀市民
調査方法	郵送による調査票の配布・回収
調査時期	令和4年1月7日～令和4年2月14日

(3) 配布数及び回収結果

配布数	1,200 (令和3年12月31日現在で敦賀市在住の20歳以上の市民から無作為抽出)
有効回収数	425
有効回収率	35.4%

(4) 本調査結果報告書の留意点

本報告書を理解する上で、次の点に留意する必要がある。

- 比率は百分率(%)で表し、小数点以下2位を四捨五入して算出している。従って、合計が100%を上下する場合もある。
- 設問の終わりに「あてはまるものすべてに○」とある問は、1人の回答者が複数の回答を出してもよい問のため、各回答の合計比率は100%を超える場合がある。
- 設問の終わりに「○は1つ」や「○は3つまで」とある問で、選択肢の上限を超える○をつけている回答は無回答として扱っている。
- 直前の設問の一部の回答者を対象としている問で、直前の設問に回答がない場合や直前の設問の回答と矛盾する場合は無回答として扱っている。
- 文中、グラフ中の選択肢の文言は一部簡略化している。

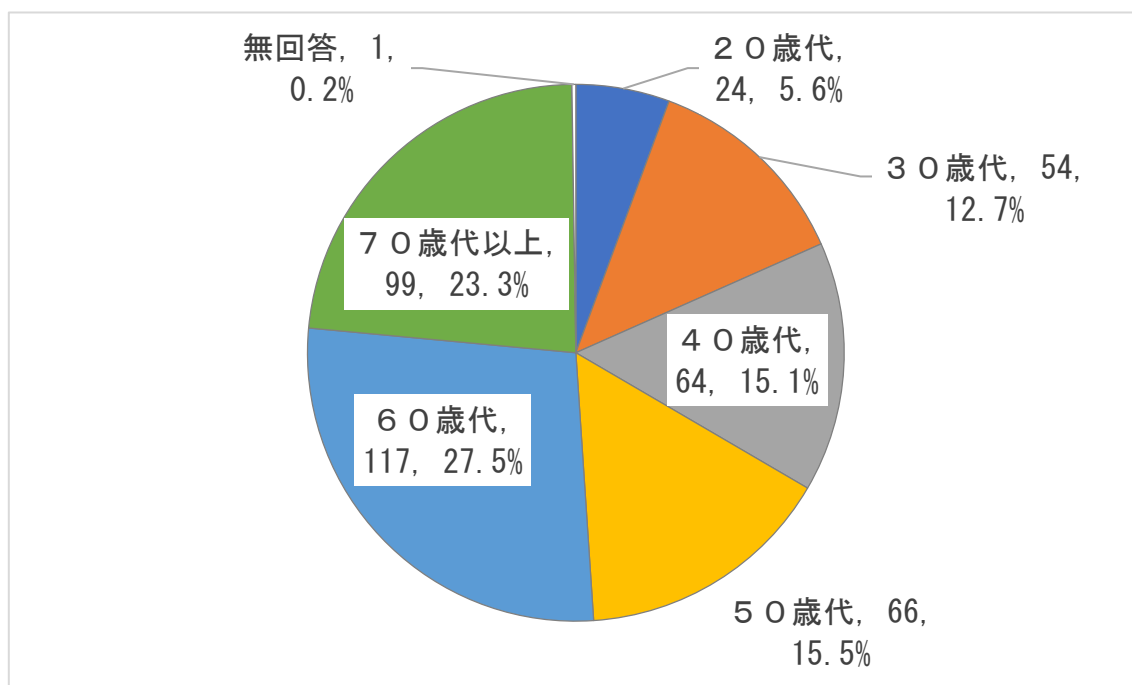
2. 調査結果

2.1 回答者に関する調査結果

問1 あなたの年齢をお答えください（○は1つ）。

● 結果の概要

- ・ 回答者の年代は60歳代が27.5%と最も多く、次いで70歳代以上が23.3%と年齢層が高めになっている。
- ・ 60歳代は市全体の人口比に対して、他の世代よりも回答率が高くなっている。前回調査でも同様の傾向が見られている。



● 集計表

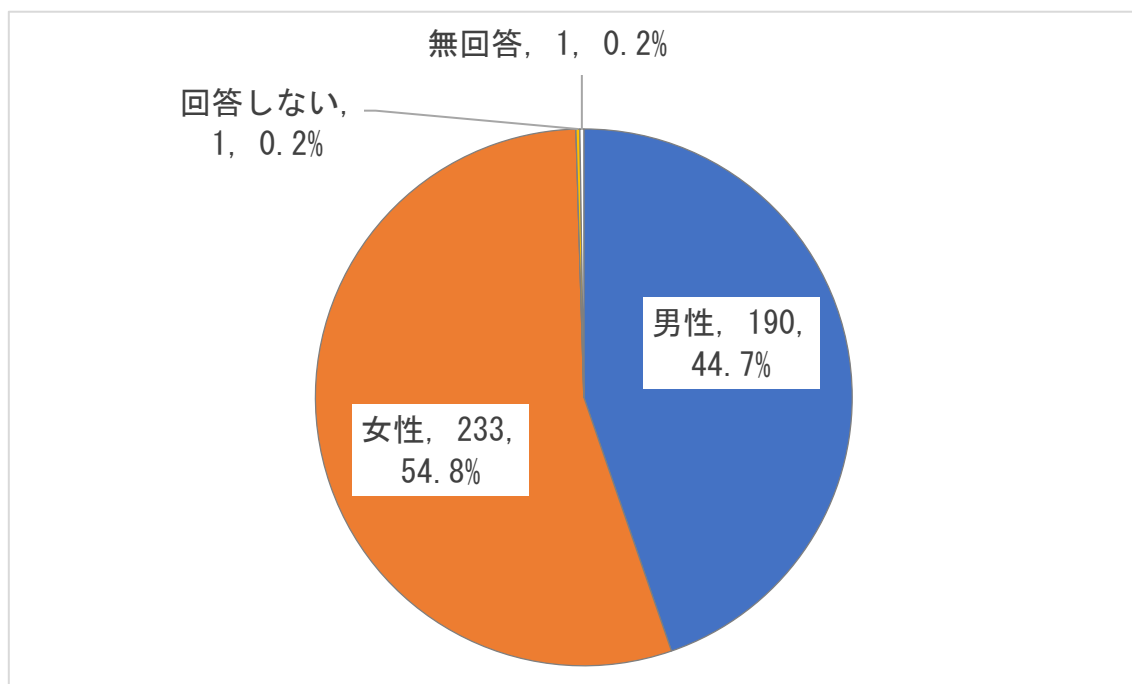
分類	件数	%
20歳代	24	5.6%
30歳代	54	12.7%
40歳代	64	15.1%
50歳代	66	15.5%
60歳代	117	27.5%
70歳代以上	99	23.3%
無回答	1	0.2%
調査数	425	100.0%

市全体の人口比 (20歳代以上)
11.0%
13.1%
17.2%
15.7%
16.1%
26.9%
100.0%

問2 あなたの性別をお答えください（○は1つ）。

● 結果の概要

- ・ 回答者の性別は、男性 44.7%、女性 54.8%であり、女性の方が若干多くなっている。
- ・ 市全体の男女比と比較してこの回答率を見ると、女性の回答率の方が若干高くなっている。前回調査でも同様の傾向が見られている。



● 集計表

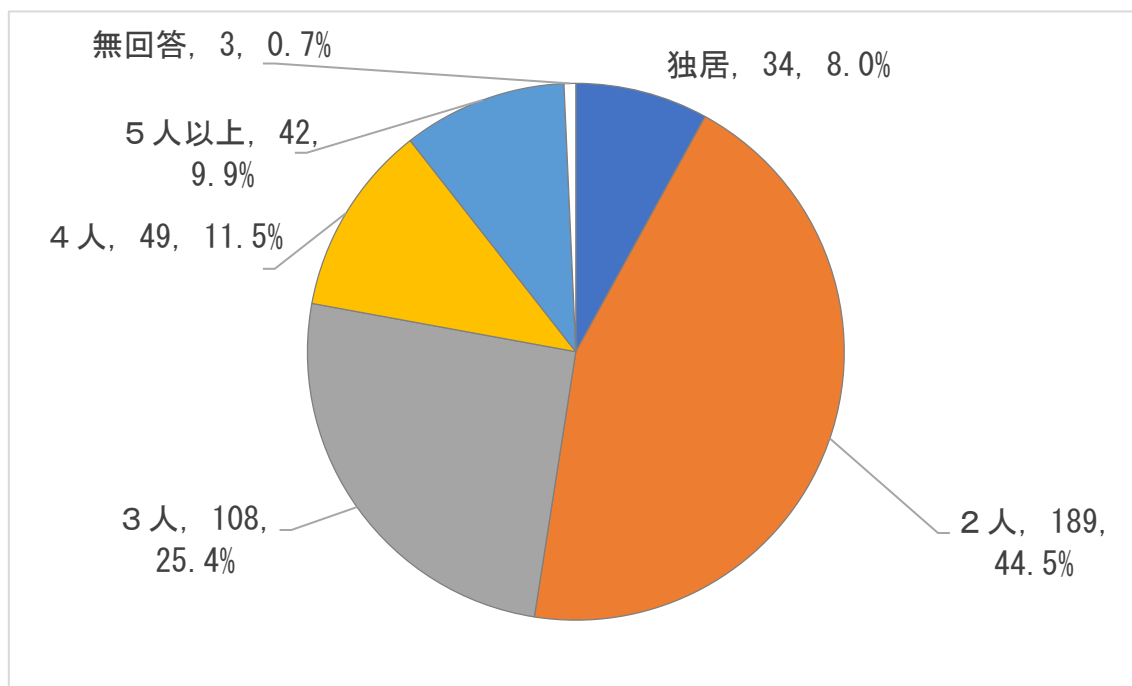
分類	件数	%
男性	190	44.7%
女性	233	54.8%
その他	0	0.0%
回答しない	1	0.2%
無回答	1	0.2%
調査数	425	100.0%

市全体の男女比 (R3.9時点)
49.3%
50.7%
100.0%

問3 あなたと同居しているご家族の人数をお答えください（○は1つ）。

● 結果の概要

- ・ 回答者の同居している家族の人数は、2人が 44.5%で最も多く、次いで3人が 25.4%である。前回調査においても同様の傾向が見られた。



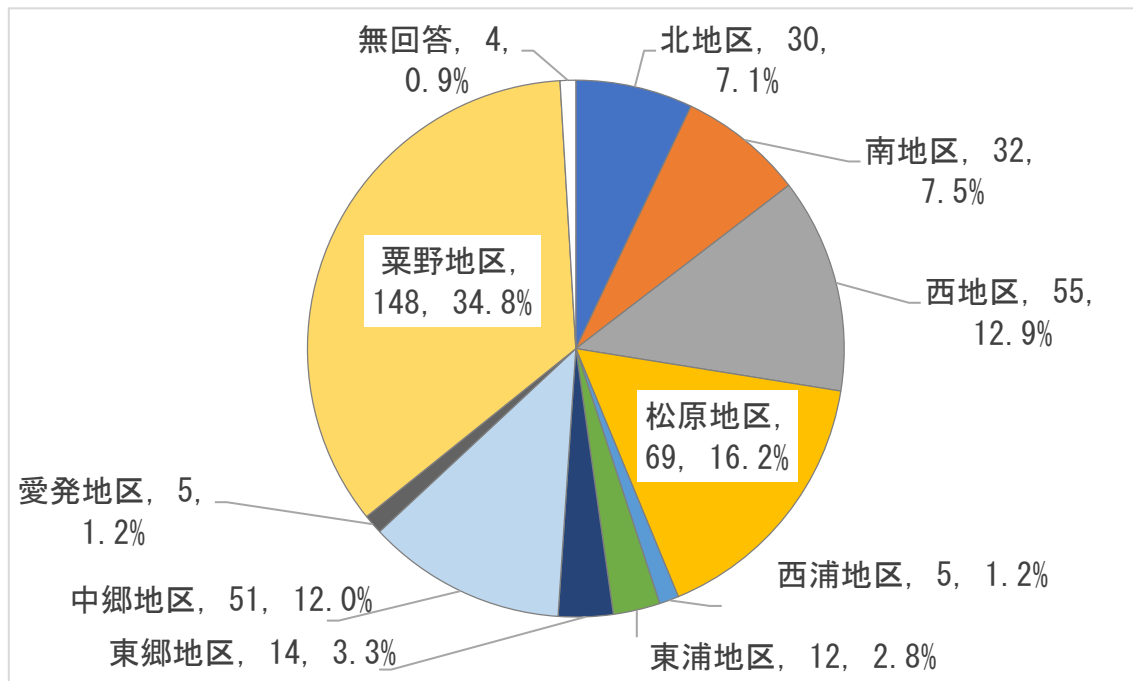
● 集計表

分類	件数	%
独居	34	8.0%
2人	189	44.5%
3人	108	25.4%
4人	49	11.5%
5人以上	42	9.9%
無回答	3	0.7%
調査数	425	100.0%

問4 あなたのお住まいの地域の地区名をお答えください（○は1つ）。

● 結果の概要

・ 地区ごとの回答率は、概ね市全体の人口比と同様になっている。



● 集計表

分類	件数	%
北地区	30	7.1%
南地区	32	7.5%
西地区	55	12.9%
松原地区	69	16.2%
西浦地区	5	1.2%
東浦地区	12	2.8%
東郷地区	14	3.3%
中郷地区	51	12.0%
愛発地区	5	1.2%
栗野地区	148	34.8%
無回答	4	0.9%
調査数	425	100%

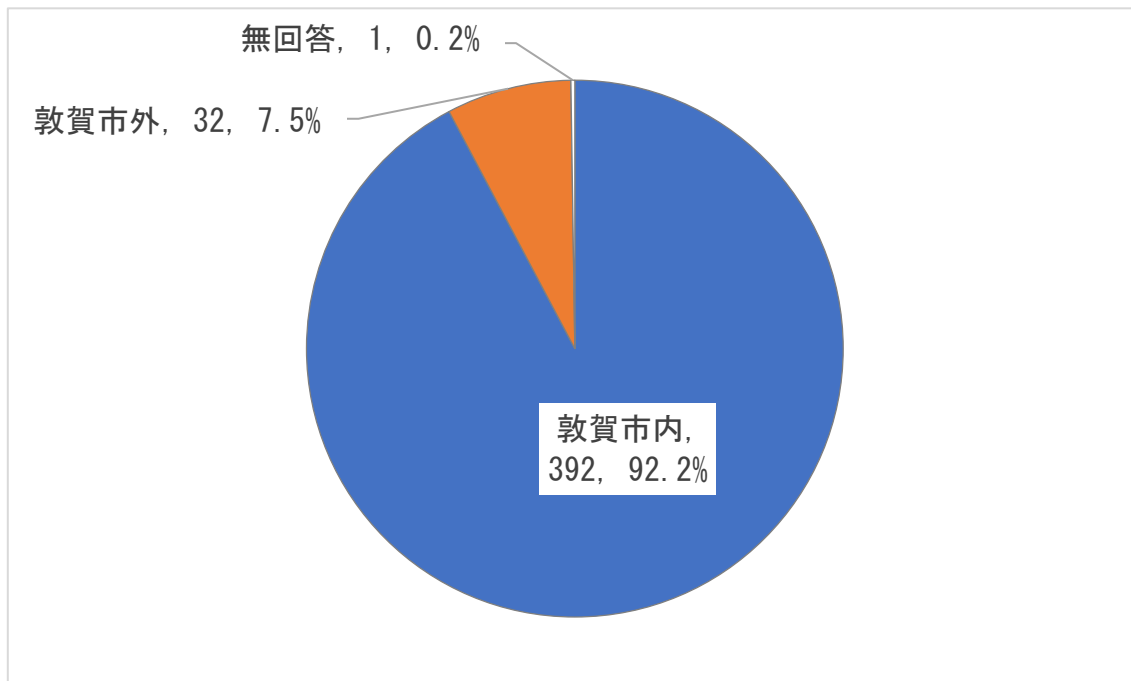
市全体の人口比
5.5%
9.3%
12.0%
19.2%
0.8%
2.1%
3.4%
11.4%
1.0%
35.3%
100.0%

原子力発電所からの距離
10km 以遠
10km 以遠
10km 以遠
5-10km 以内該当
5km 以内または5-10km 以内
5-10km 以内
10km 以遠
10km 以遠
10km 以遠
10km 以遠

問5 あなたが日中最も長く滞在している場所についてお答えください。(〇は1つ)。

● 結果の概要

- ・ 回答者のうち92.2%は日中も敦賀市内に滞在している。



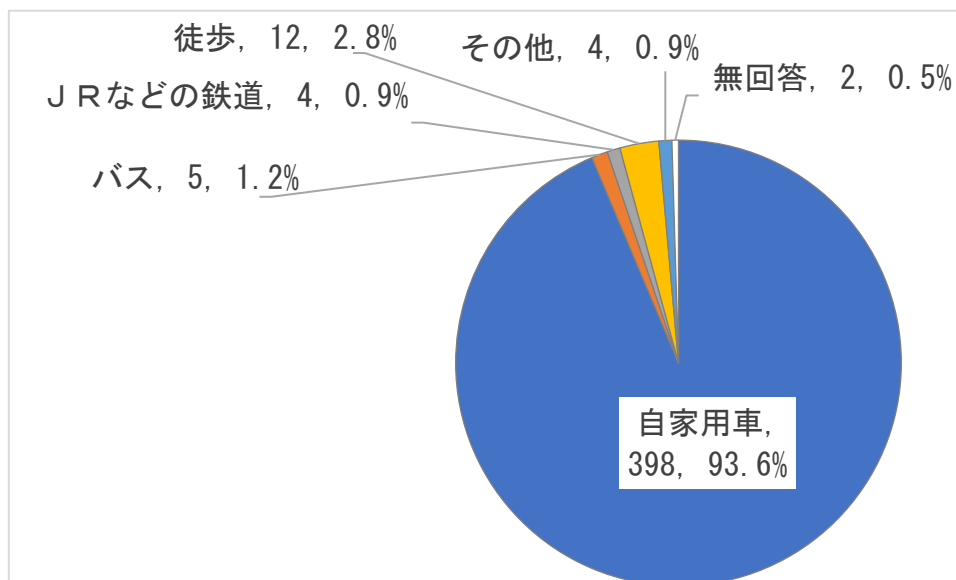
● 集計表

分類	件数	%
敦賀市内	392	92.2%
敦賀市外	32	7.5%
無回答	1	0.2%
調査数	425	100.0%

問6 普段利用する移動手段をお答えください。(〇は1つ)。

● 結果の概要

- ・ 回答者の 93.6%が普段の交通手段に自家用車を利用している。前回調査においても最も多い回答は自家用車(84.7%)であったが、その割合は増加している。要因としては、一般的に車両保有率が低い 20 歳代の回答者が減ったことや、感染症の影響で公共交通機関の利用が減ったことなどが考えられる。



● 集計表

分類	件数	%
自家用車	398	93.6%
バス	5	1.2%
JRなどの鉄道	4	0.9%
徒歩 (自家用車、交通機関はほとんど利用しない)	12	2.8%
その他	4	0.9%
無回答	2	0.5%
調査数	425	100.0%

- その他の回答(上記の選択肢に含まれるものでも、回答者の意思を尊重し、「その他」として集計している)

- ・ 2km以上、又は荷物あるときは車、近くは徒歩か自転車
- ・ 自転車
- ・ 病気のため、家にいます。
- ・ タクシー

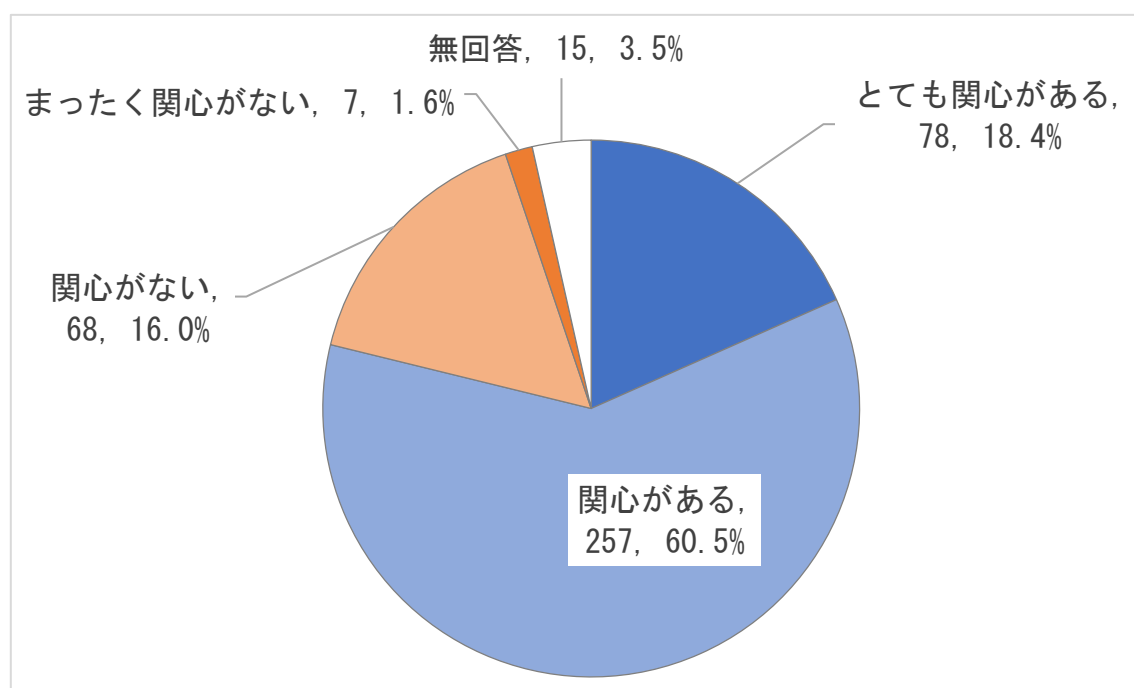
2.2 原子力防災に関する意識調査結果

問7 原子力防災の関心の程度についてお答えください（○は1つ）。

◆ 単純集計結果

● 結果の概要

- ・ 原子力防災に対して、回答者のうち 18.4%が「とても関心がある」、60.5%が「関心がある」と回答している。
- ・ 前回調査では、回答者のうち 26.1%が「とても関心がある」、59.6%が「関心がある」と回答しており、前回調査時点よりも原子力防災への関心は低下していると考えられる。また調査票の回収率が、前回調査（42.4%）と比較して今回調査は 35.4%と低下していることから、前回調査時点よりも原子力防災への関心は低下していると考えられる。



● 集計表

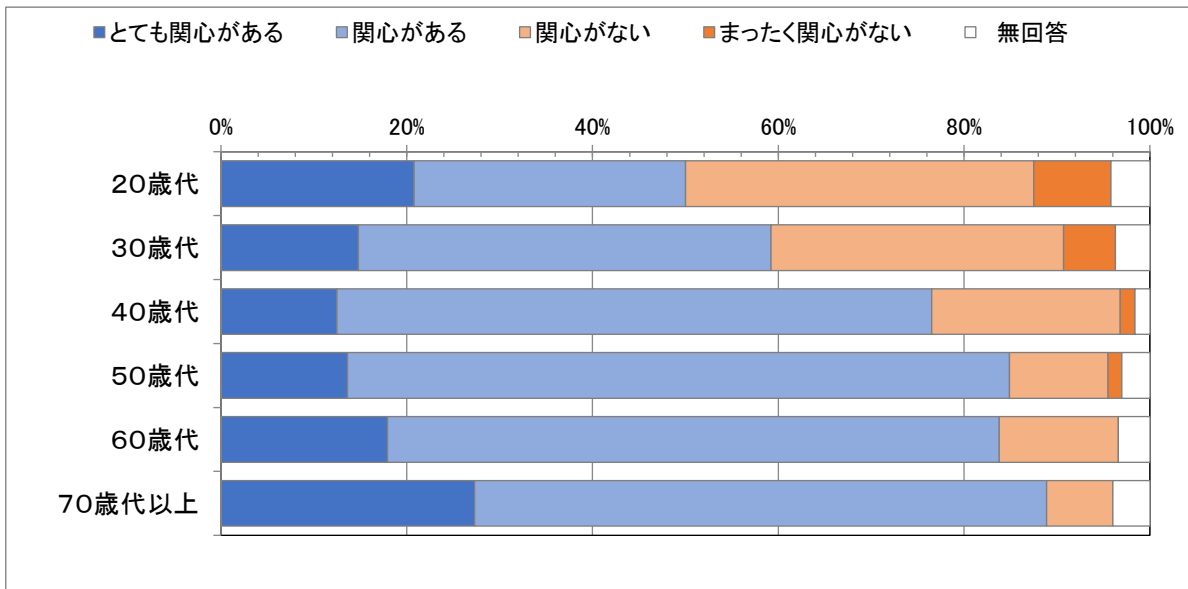
分類	件数	%
とても関心がある	78	18.4%
関心がある	257	60.5%
関心がない	68	16.0%
まったく関心がない	7	1.6%
無回答	15	3.5%
調査数	425	100.0%

クロス集計結果

年代

● 結果の概要

- 年代別に見ると、年齢が高いほど関心が高い傾向にある。この結果については、前回調査と同様の傾向である。



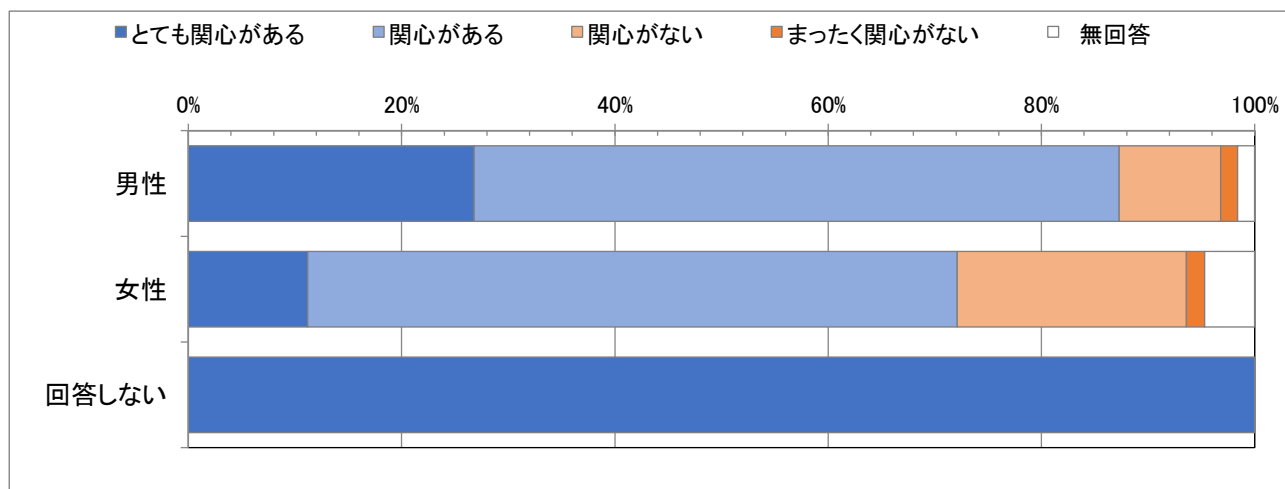
● 集計表

			関心の程度					
			全体	最も関心がある	関心がある	関心がない	まったく関心がない	無回答
年齢	全体	件数	425	78	257	68	7	15
		%	100.0	18.4	60.5	16.0	1.6	3.5
	20歳代	件数	24	5	7	9	2	1
		%	100.0	20.8	29.2	37.5	8.3	4.2
	30歳代	件数	54	8	24	17	3	2
		%	100.0	14.8	44.4	31.5	5.6	3.7
	40歳代	件数	64	8	41	13	1	1
		%	100.0	12.5	64.1	20.3	1.6	1.6
	50歳代	件数	66	9	47	7	1	2
		%	100.0	13.6	71.2	10.6	1.5	3.0
60歳代	件数	117	21	77	15	-	4	
	%	100.0	17.9	65.8	12.8	-	3.4	
70歳代以上	件数	99	27	61	7	-	4	
	%	100.0	27.3	61.6	7.1	-	4.0	

性別

● 結果の概要

- ・ 男女別に見ると、男性の方が女性よりも関心が高い傾向にある。この結果については、前回調査も同様の傾向である。



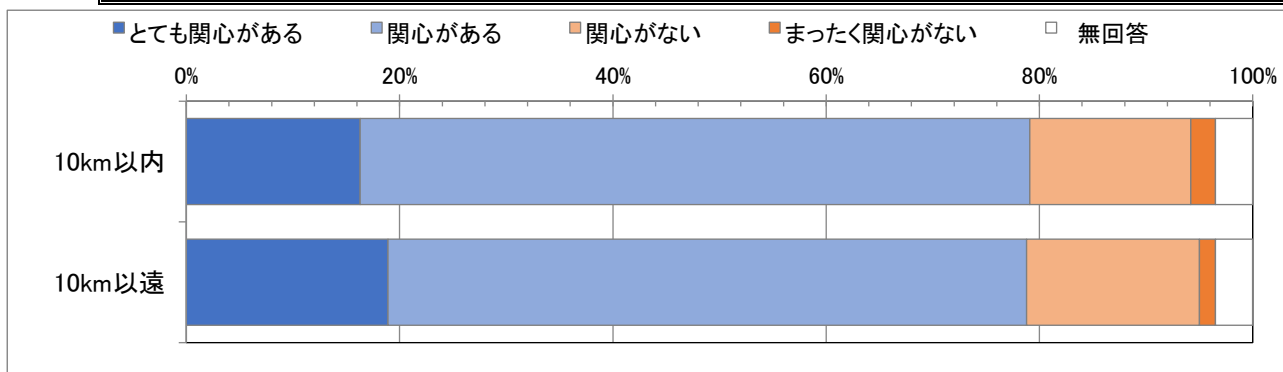
● 集計表

			関心の程度					
			全体	とても関心がある	関心がある	関心がない	まったく関心がない	無回答
性別	全体	件数	425	78	257	68	7	15
		%	100.0	18.4	60.5	16.0	1.6	3.5
	男性	件数	190	51	115	18	3	3
		%	100.0	26.8	60.5	9.5	1.6	1.6
	女性	件数	233	26	142	50	4	11
		%	100.0	11.2	60.9	21.5	1.7	4.7
	その他	件数	-	-	-	-	-	-
		%	-	-	-	-	-	-
	回答しない	件数	1	1	-	-	-	-
		%	100.0	100.0	-	-	-	-

居住地域（原子力発電所からの距離）

● 結果の概要

- ・ 松原地区、西浦地区、東浦地区の3地区を原子力発電所から10km以内、その他の地区を原子力発電所から10km以遠として、両者の関心の程度を比較したが、大きな差は見られない。この結果については、前回調査と同様の傾向である。



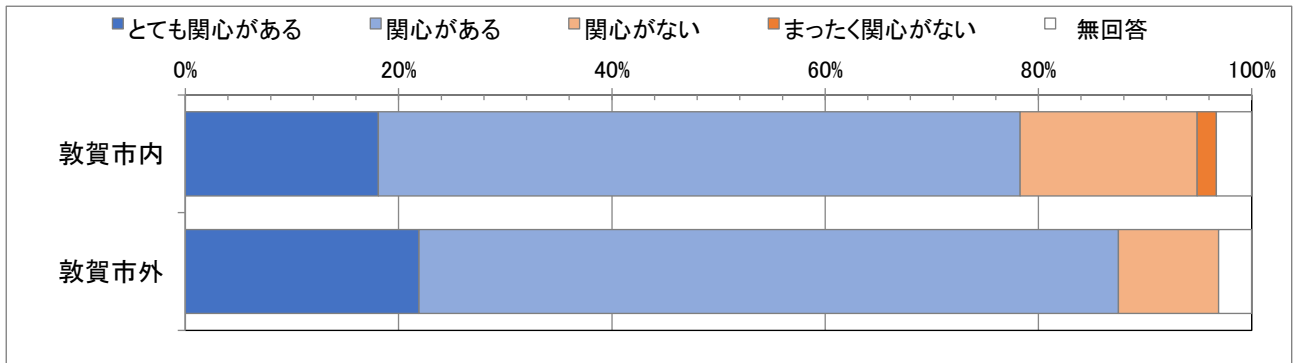
● 集計表

			関心の程度					
			全体	とても関心がある	関心がある	関心がない	まったく関心がない	無回答
発電所からの距離	全体	件数	425	78	257	68	7	15
		%	100.0	18.4	60.5	16.0	1.6	3.5
	10km以内	件数	86	14	54	13	2	3
		%	100.0	16.3	62.8	15.1	2.3	3.5
	10km以遠	件数	339	64	203	55	5	12
		%	100.0	18.9	59.9	16.2	1.5	3.5

日中の滞在場所

● 結果の概要

- ・ 日中の滞在場所別に見ると、敦賀市外に滞在している方が敦賀市内に滞在している方よりも関心が高い傾向にある。この結果については、前回調査（市外勤務者の関心の程度）と同様の傾向である。



● 集計表

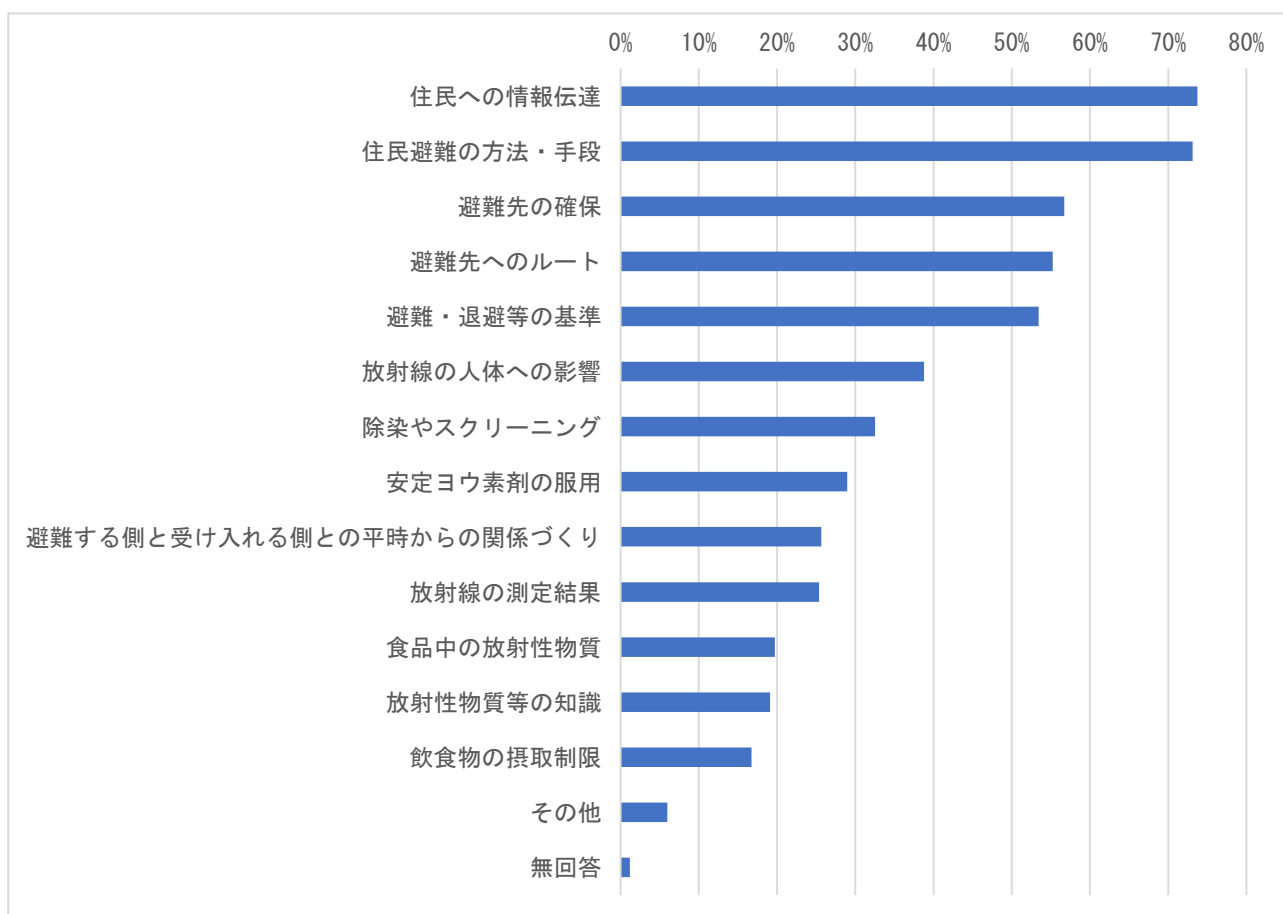
			関心の程度					
			全体	とても関心がある	関心がある	関心がない	まったく関心がない	無回答
日中の滞在場所	全体	件数	425	78	257	68	7	15
		%	100.0	18.4	60.5	16.0	1.6	3.5
	敦賀市内	件数	392	71	236	65	7	13
		%	100.0	18.1	60.2	16.6	1.8	3.3
	敦賀市外	件数	32	7	21	3	-	1
		%	100.0	21.9	65.6	9.4	-	3.1

問8 関心がある項目について、お答えください（あてはまるものすべてに○）。
 （※問7で選択肢1～2と回答した方のみ回答）

◆ 単純集計結果

● 結果の概要

- ・ 「住民への情報伝達」が73.7%、「住民避難の方法・手段」が73.1%、「避難先の確保」が56.7%、「避難先へのルート」が55.2%、「避難・退避等の基準」が53.4%と、避難に係る事項の回答率が高い。この結果については、前回調査も同様の傾向である。
- ・ 前回調査と比較して多くの選択肢で回答率が低い傾向にある。特に、「飲食物の摂取制限」については、30.6%から16.7%と大きく回答率が下がっている。
- ・ 一方で、「住民避難の方法・手段」は38.8%から73.1%、「除染やスクリーニング」は28.7%から32.5%、「安定ヨウ素剤の服用」は28.5%から29.0%と前回調査と比較して回答率が上がっている。



● 集計表

分類	件数	%
住民への情報伝達	247	73.7%
住民避難の方法・手段	245	73.1%
避難先の確保	190	56.7%
避難先へのルート	185	55.2%
避難・退避等の基準	179	53.4%
放射線の人体への影響	130	38.8%
除染やスクリーニング	109	32.5%
安定ヨウ素剤の服用	97	29.0%
避難する側と受け入れる側との平時からの関係づくり	86	25.7%
放射線の測定結果	85	25.4%
食品中の放射性物質	66	19.7%
放射性物質等の知識	64	19.1%
飲食物の摂取制限	56	16.7%
その他	20	6.0%
無回答	4	1.2%
調査数	335	100.0%

- その他の回答（上記の選択肢に含まれるものでも、回答者の意思を尊重し、「その他」として集計している）

- ・ どこへ？交通手段は？市民全員（最低 50%以上の市民）で避難訓練したらどうかしてほしい
- ・ 毎日の日常生活中に災害（原子力）が発生した時の町内におけるいったい誰に従って、行動すれば良いのか？
- ・ ペットの避難
- ・ 限りなく100%に近い発電所自体の防災設備の構築
- ・ 風評被害
- ・ コロナ禍での避難、安全の確保
- ・ 敦賀市内にまき散らされる発電所の放射能
- ・ 避難先での保存食料、生活用品
- ・ 避難における新型コロナ感染対策
- ・ 避難原因から避難実行までの時間設定
- ・ 避難先からペットの世話に出来る状態づくり
- ・ 安定ヨウ素剤見た事もないのでわからない（現物）どんな物なのか？
- ・ 国の係わり方。国の管理責任。
- ・ 気中、水中の放射性物質（濃度）測定結果
- ・ 住めなくなった場合の土地などの保障
- ・ 避難先の食料・水の備蓄量
- ・ 地震による影響被害想定
- ・ 「4. 住民避難の方法・手段」の身体の不自由な人の避難や乳幼児を持つ家庭など
- ・ 敦賀市の自然災害の歴史
- ・ ハイロはいつか
- ・ 若い時とちがって自由に働く事が出来ない事が心配

◆ クロス集計結果

年代

● 結果の概要

- ・ 年代別に見ると、40歳代以上は20歳代・30歳代と比較して「住民への情報伝達」への関心が高い。前回調査でも同様の傾向が見られたが、より強まっている。
- ・ 「放射線の人体への影響」は20歳代・30歳代が他の世代と比較して関心が高い傾向にある。
- ・ 30歳代では他の世代と比較して、「放射線の測定結果」への関心が高い傾向にある。前回調査では見られなかった傾向である。
- ・ 70歳代では他の世代と比較して、「食品中の放射性物質」への関心が高い傾向にある。この結果については、前回調査と同様の傾向である。また、前回調査では「避難・退避等の基準」の項目については、他の世代と比較すると、回答率が低かったが、今回はその傾向は見られない。

● 集計表

			関心がある項目															
			全体	住民への情報伝達	住民避難の方法・手段	避難先の確保	避難先へのルート	避難・退避等の基準	放射線の人体への影響	除染やスクリーニング	安定ヨウ素剤の服用	避難する側と受け入れる側との平時からの関係づくり	放射線の測定結果	食品中の放射性物質	放射性物質等の知識	飲食物の摂取制限	その他	無回答
年齢	全体	件数	335	247	245	190	185	179	130	109	97	86	85	66	64	56	20	4
		%	100.0	73.7	73.1	56.7	55.2	53.4	38.8	32.5	29.0	25.7	25.4	19.7	19.1	16.7	6.0	1.2
	20歳代	件数	12	7	9	5	7	7	6	7	6	3	3	1	4	2	-	-
		%	100.0	58.3	75.0	41.7	58.3	58.3	50.0	58.3	50.0	25.0	25.0	8.3	33.3	16.7	-	-
	30歳代	件数	32	19	25	22	20	19	18	8	9	5	13	4	6	5	1	-
		%	100.0	59.4	78.1	68.8	62.5	59.4	56.3	25.0	28.1	15.6	40.6	12.5	18.8	15.6	3.1	-
	40歳代	件数	49	34	33	23	28	25	18	18	11	12	11	8	7	6	-	1
		%	100.0	69.4	67.3	46.9	57.1	51.0	36.7	36.7	22.4	24.5	22.4	16.3	14.3	12.2	-	2.0
	50歳代	件数	56	41	39	37	27	29	21	18	12	12	14	10	7	6	4	1
		%	100.0	73.2	69.6	66.1	48.2	51.8	37.5	32.1	21.4	21.4	25.0	17.9	12.5	10.7	7.1	1.8
	60歳代	件数	98	78	75	57	50	51	34	35	31	27	20	17	19	17	11	1
		%	100.0	79.6	76.5	58.2	51.0	52.0	34.7	35.7	31.6	27.6	20.4	17.3	19.4	17.3	11.2	1.0
	70歳代以上	件数	88	68	64	46	53	48	33	23	28	27	24	26	21	20	4	1
		%	100.0	77.3	72.7	52.3	60.2	54.5	37.5	26.1	31.8	30.7	27.3	29.5	23.9	22.7	4.5	1.1

同居家族

● 結果の概要

- ・ 同居家族人数別に見ると、独居の回答者は、2人以上の家族と比較して、ほとんどの選択肢で回答率が高く、災害時の不安などから原子力防災への関心が高いことが示唆される。
- ・ 5人以上の同居家族がいる回答者は、4人以下の家族と比較して、多くの選択肢で回答率が低い。
- ・ 同居家族人数による回答率の差が、前回調査と比較すると大きくなっている選択肢が多い。

● 集計表

			関心がある項目															
			全体	住民への情報伝達	住民避難の方法・手段	避難先の確保	避難先へのルート	避難・退避等の基準	放射線の人体への影響	除染やスクリーニング	安定ヨウ素剤の服用	避難する側と受け入れる側の平時からの関係づくり	放射線の測定結果	食品中の放射性物質	放射性物質等の知識	飲食物の摂取制限	その他	無回答
同居家族	全体	件数	335	247	245	190	185	179	130	109	97	86	85	66	64	56	20	4
		%	100.0	73.7	73.1	56.7	55.2	53.4	38.8	32.5	29.0	25.7	25.4	19.7	19.1	16.7	6.0	1.2
	独居	件数	29	26	26	24	18	16	17	15	12	8	15	9	7	10	1	-
		%	100.0	89.7	89.7	82.8	62.1	55.2	58.6	51.7	41.4	27.6	51.7	31.0	24.1	34.5	3.4	-
	2人	件数	152	122	114	84	83	85	57	44	42	37	36	34	33	28	10	1
		%	100.0	80.3	75.0	55.3	54.6	55.9	37.5	28.9	27.6	24.3	23.7	22.4	21.7	18.4	6.6	0.7
	3人	件数	83	54	62	45	47	45	35	28	25	23	16	16	16	11	4	2
		%	100.0	65.1	74.7	54.2	56.6	54.2	42.2	33.7	30.1	27.7	19.3	19.3	19.3	13.3	4.8	2.4
	4人	件数	35	22	22	21	21	17	11	10	8	7	8	4	4	5	2	-
		%	100.0	62.9	62.9	60.0	60.0	48.6	31.4	28.6	22.9	20.0	22.9	11.4	11.4	14.3	5.7	-
	5人以上	件数	34	22	20	15	16	15	10	11	10	11	8	2	3	2	3	1
		%	100.0	64.7	58.8	44.1	47.1	44.1	29.4	32.4	29.4	32.4	23.5	5.9	8.8	5.9	8.8	2.9

居住地域（発電所からの距離）

● 結果の概要

- ・ 原子力発電所からの距離別に見ると、総じて 10km 以内の回答者と 10km 以遠の回答者との回答率に大きな差異が見られない。この結果については、前回調査も同様の傾向である。
- ・ 「避難先へのルート」「放射線の人体への影響」「安定ヨウ素剤の服用」「放射線の測定結果」「食品中の放射性物質」については、10km 以内の回答者は 10km 以遠の回答者と比較して、若干回答率が高くなっている。

● 集計表

			関心がある項目															
			全体	住民への情報伝達	住民避難の方法・手段	避難先の確保	避難先へのルート	避難・退避等の基準	放射線の人体への影響	除染やスクリーニング	安定ヨウ素剤の服用	避難する側と受け入れる側との平時からの関係づくり	放射線の測定結果	食品中の放射性物質	放射性物質等の知識	飲食物の摂取制限	その他	無回答
発電所からの距離	全体	件数	425	247	245	190	185	179	130	109	97	85	86	66	64	56	20	94
		%	100.0	58.1	57.6	44.7	43.5	42.1	30.6	25.6	22.8	20.0	20.2	15.5	15.1	13.2	4.7	22.1
	10km 以内	件数	86	47	50	37	43	33	33	20	24	19	22	17	13	12	3	19
		%	100.0	54.7	58.1	43.0	50.0	38.4	38.4	23.3	27.9	22.1	25.6	19.8	15.1	14.0	3.5	22.1
	10km 以遠	件数	339	200	195	153	142	146	97	89	73	66	64	49	51	44	17	75
		%	100.0	59.0	57.5	45.1	41.9	43.1	28.6	26.3	21.5	19.5	18.9	14.5	15.0	13.0	5.0	22.1

放射線に関する基礎知識 (a. 外部被ばくと内部被ばくの違い)

● 結果の概要

- 外部被ばくと内部被ばくの違いの認知度別に見ると、「よく知っている」と回答している方は、他の回答者と比較して「放射線の人体への影響」の回答率が低い。

● 集計表

		関心がある項目																
		全体	住民への情報伝達	住民避難の方法・手段	避難先の確保	避難先へのルート	避難・退避等の基準	放射線の人体への影響	除染やスクリーニング	安定ヨウ素剤の服用	避難する側と受け入れる側との平時からの関係づくり	放射線の測定結果	食品中の放射性物質	放射性物質等の知識	飲食物の摂取制限	その他	無回答	
外部被ばくと内部被ばくの違い	全体	件数	335	247	245	190	185	179	130	109	97	86	85	66	64	56	20	4
		%	100.0	73.7	73.1	56.7	55.2	53.4	38.8	32.5	29.0	25.7	25.4	19.7	19.1	16.7	6.0	1.2
	よく知っている	件数	51	32	34	28	29	24	10	18	16	16	15	5	9	10	4	1
		%	100.0	62.7	66.7	54.9	56.9	47.1	19.6	35.3	31.4	31.4	29.4	9.8	17.6	19.6	7.8	2.0
	知っている	件数	114	91	82	65	66	61	36	35	25	25	27	17	16	16	9	1
		%	100.0	79.8	71.9	57.0	57.9	53.5	31.6	30.7	21.9	21.9	23.7	14.9	14.0	14.0	7.9	0.9
	知らない	件数	115	87	87	71	60	62	60	38	36	31	28	27	26	21	6	1
		%	100.0	75.7	75.7	61.7	52.2	53.9	52.2	33.0	31.3	27.0	24.3	23.5	22.6	18.3	5.2	0.9
	まったく知らない	件数	46	31	36	23	27	30	19	16	17	11	12	14	10	9	1	-
		%	100.0	67.4	78.3	50.0	58.7	65.2	41.3	34.8	37.0	23.9	26.1	30.4	21.7	19.6	2.2	-

放射線に関する基礎知識 (b. 被ばくと汚染の違い)

● 結果の概要

- ・ 被ばくと汚染の違いの認知度別に見ると、「よく知っている」と回答している方は、他の回答者と比較して「放射線の人体への影響」の回答率が低い。

● 集計表

		関心がある項目																
		全体	住民への情報伝達	住民避難の方法・手段	避難先の確保	避難先へのルート	避難・退避等の基準	放射線の人体への影響	除染やスクリーニング	安定ヨウ素剤の服用	避難する側と受け入れる側との平時からの関係づくり	放射線の測定結果	食品中の放射性物質	放射性物質等の知識	飲食物の摂取制限	その他	無回答	
被ばくと汚染の違い	全体	件数	335	247	245	190	185	179	130	109	97	86	85	66	64	56	20	4
		%	100.0	73.7	73.1	56.7	55.2	53.4	38.8	32.5	29.0	25.7	25.4	19.7	19.1	16.7	6.0	1.2
	よく知っている	件数	44	30	31	26	25	20	8	13	12	14	13	4	8	10	5	-
		%	100.0	68.2	70.5	59.1	56.8	45.5	18.2	29.5	27.3	31.8	29.5	9.1	18.2	22.7	11.4	-
	知っている	件数	139	110	100	77	77	72	48	50	36	30	31	27	22	23	7	2
		%	100.0	79.1	71.9	55.4	55.4	51.8	34.5	36.0	25.9	21.6	22.3	19.4	15.8	16.5	5.0	1.4
	知らない	件数	106	73	78	63	58	63	49	32	34	30	29	22	20	17	7	1
		%	100.0	68.9	73.6	59.4	54.7	59.4	46.2	30.2	32.1	28.3	27.4	20.8	18.9	16.0	6.6	0.9
	まったく知らない	件数	35	26	29	19	21	22	18	12	12	9	9	10	10	6	1	-
		%	100.0	74.3	82.9	54.3	60.0	62.9	51.4	34.3	34.3	25.7	25.7	28.6	28.6	17.1	2.9	-

放射線に関する基礎知識 (c. 大人と子どもへの放射線の影響の違い)

● 結果の概要

- ・ 大人と子どもへの放射線の影響の違いの認知度別に見ると、「まったく知らない」と回答している方は、他の回答者と比較して「住民への情報伝達」の回答率が低い。
- ・ 「よく知っている」と回答している方は、他の回答者と比較して「放射線の測定結果」の回答率が高い。

● 集計表

			関心がある項目															
			全体	住民への情報伝達	住民避難の方法・手段	避難先の確保	避難先へのルート	避難・退避等の基準	放射線の人体への影響	除染やスクリーニング	安定ヨウ素剤の服用	避難する側と受け入れる側との平時からの関係づくり	放射線の測定結果	食品中の放射性物質	放射性物質等の知識	飲食物の摂取制限	その他	無回答
大人と子どもへの放射線の影響の違い	全体	件数	335	247	245	190	185	179	130	109	97	86	85	66	64	56	20	4
		%	100.0	73.7	73.1	56.7	55.2	53.4	38.8	32.5	29.0	25.7	25.4	19.7	19.1	16.7	6.0	1.2
	よく知っている	件数	32	21	21	18	16	13	8	10	11	9	13	3	10	6	4	1
		%	100.0	65.6	65.6	56.3	50.0	40.6	25.0	31.3	34.4	28.1	40.6	9.4	31.3	18.8	12.5	3.1
	知っている	件数	96	75	77	58	54	52	32	38	33	21	24	19	14	20	5	1
		%	100.0	78.1	80.2	60.4	56.3	54.2	33.3	39.6	34.4	21.9	25.0	19.8	14.6	20.8	5.2	1.0
	知らない	件数	155	118	108	90	90	87	68	47	36	45	39	30	33	25	9	-
		%	100.0	76.1	69.7	58.1	58.1	56.1	43.9	30.3	23.2	29.0	25.2	19.4	21.3	16.1	5.8	-
	まったく知らない	件数	40	23	31	19	19	23	15	12	14	7	6	11	5	5	2	1
		%	100.0	57.5	77.5	47.5	47.5	57.5	37.5	30.0	35.0	17.5	15.0	27.5	12.5	12.5	5.0	2.5

放射線に関する基礎知識 (d. 放射線から身を守るための三原則)

● 結果の概要

- ・ 放射線から身を守るための三原則の認知度別に見ると、「よく知っている」と回答している方は、他の回答者と比較して「放射線の測定結果」の回答率が高い。

● 集計表

			関心がある項目															
			全体	住民への情報伝達	住民避難の方法・手段	避難先の確保	避難先へのルート	避難・退避等の基準	放射線の人体への影響	除染やスクリーニング	安定ヨウ素剤の服用	避難する側と受け入れる側との平時からの関係づくり	放射線の測定結果	食品中の放射性物質	放射性物質等の知識	飲食物の摂取制限	その他	無回答
放射線から身を守るための三原則	全体	件数	335	247	245	190	185	179	130	109	97	86	85	66	64	56	20	4
		%	100.0	73.7	73.1	56.7	55.2	53.4	38.8	32.5	29.0	25.7	25.4	19.7	19.1	16.7	6.0	1.2
	よく知っている	件数	44	31	29	24	23	20	7	13	12	15	13	3	8	8	3	1
		%	100.0	70.5	65.9	54.5	52.3	45.5	15.9	29.5	27.3	34.1	29.5	6.8	18.2	18.2	6.8	2.3
	知っている	件数	125	98	94	69	66	66	45	39	32	25	30	20	21	20	10	1
		%	100.0	78.4	75.2	55.2	52.8	52.8	36.0	31.2	25.6	20.0	24.0	16.0	16.8	16.0	8.0	0.8
	知らない	件数	114	82	83	73	73	68	54	42	37	35	32	29	24	22	6	1
		%	100.0	71.9	72.8	64.0	64.0	59.6	47.4	36.8	32.5	30.7	28.1	25.4	21.1	19.3	5.3	0.9
	まったく知らない	件数	45	31	35	21	21	24	19	13	14	9	8	11	9	6	1	-
		%	100.0	68.9	77.8	46.7	46.7	53.3	42.2	28.9	31.1	20.0	17.8	24.4	20.0	13.3	2.2	-

放射線に関する基礎知識 (e. 普段の自宅周辺の放射線量)

● 結果の概要

・ 身の回りの放射線量の認知度別に見ると、「よく知っている」と回答している方は、他の回答者と比較して「放射線の測定結果」の回答率が高い。

● 集計表

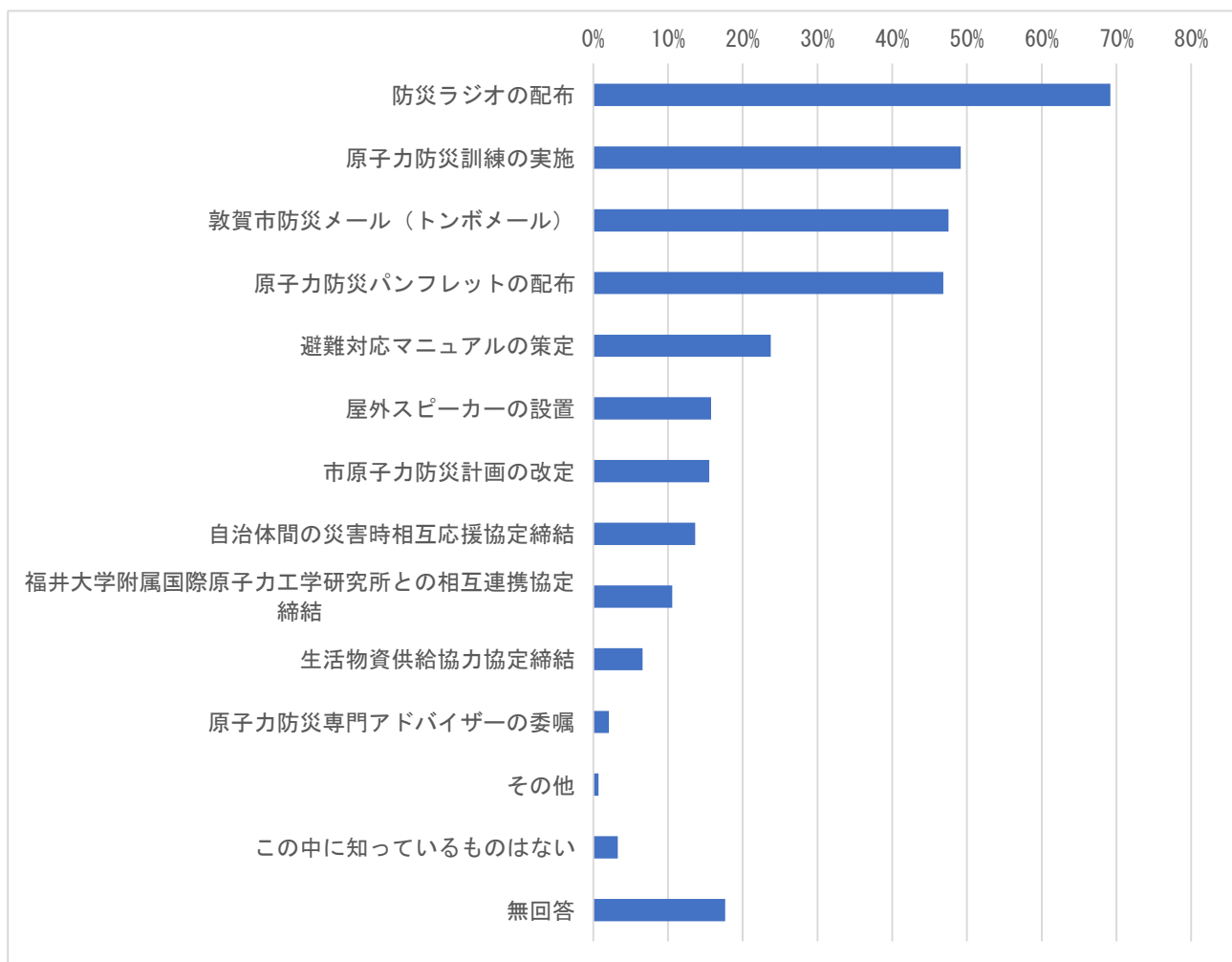
			関心がある項目															
			全体	住民への情報伝達	住民避難の方法・手段	避難先の確保	避難先へのルート	避難・退避等の基準	放射線の人体への影響	除染やスクリーニング	安定ヨウ素剤の服用	避難する側と受け入れる側との平時からの関係づくり	放射線の測定結果	食品中の放射性物質	放射性物質等の知識	飲食物の摂取制限	その他	無回答
放射線量	全体	件数	335	247	245	190	185	179	130	109	97	86	85	66	64	56	20	4
		%	100.0	73.7	73.1	56.7	55.2	53.4	38.8	32.5	29.0	25.7	25.4	19.7	19.1	16.7	6.0	1.2
	よく知っている	件数	44	31	29	24	23	20	7	13	12	15	13	3	8	8	3	1
		%	100.0	70.5	65.9	54.5	52.3	45.5	15.9	29.5	27.3	34.1	29.5	6.8	18.2	18.2	6.8	2.3
	知っている	件数	125	98	94	69	66	66	45	39	32	25	30	20	21	20	10	1
		%	100.0	78.4	75.2	55.2	52.8	52.8	36.0	31.2	25.6	20.0	24.0	16.0	16.8	16.0	8.0	0.8
	知らない	件数	114	82	83	73	73	68	54	42	37	35	32	29	24	22	6	1
		%	100.0	71.9	72.8	64.0	64.0	59.6	47.4	36.8	32.5	30.7	28.1	25.4	21.1	19.3	5.3	0.9
	まったく知らない	件数	45	31	35	21	21	24	19	13	14	9	8	11	9	6	1	-
		%	100.0	68.9	77.8	46.7	46.7	53.3	42.2	28.9	31.1	20.0	17.8	24.4	20.0	13.3	2.2	-

問9 敦賀市が実施している原子力防災に関する取り組みのうち、ご存じなものはありますか（あてはまるものすべてに○）。

◆ 単純集計結果

● 結果の概要

- ・ 市の実施している原子力防災に関する取り組みのうち、「防災ラジオの配布」（69.2%）、「原子力防災訓練」（49.2%）、「敦賀市防災メール（トンボメール）」（47.5%）、「原子力防災パンフレットの配布」（46.8%）といった取り組みが比較的よく知られている。これに比べ、外部との連携状況についての認知度は低い。この結果については、前回調査も同様の傾向であり、周知方法を検討する必要がある。
- ・ 前回調査と比較して多くの選択肢で回答率が低くなっている傾向にある。ただし、「原子力防災パンフレットの配布」は45.6%から46.9%（令和3年度に配布）、「敦賀市防災メール（トンボメール）」は40.9%から46.8%、「避難対応マニュアルの策定」は、20.5%から23.8%と若干回答率が上がっている。



● 集計表

分類	件数	%
防災ラジオの配布	294	69.2%
原子力防災訓練の実施	209	49.2%
敦賀市防災メール（トンボメール）	202	47.5%
原子力防災パンフレットの配布	199	46.8%
避難対応マニュアルの策定	101	23.8%
屋外スピーカーの設置	67	15.8%
市原子力防災計画の改定	66	15.5%
自治体間の災害時相互応援協定締結	58	13.6%
福井大学附属国際原子力工学研究所との相互連携協定締結	45	10.6%
生活物資供給協力協定締結	28	6.6%
原子力防災専門アドバイザーの委嘱	9	2.1%
その他	3	0.7%
この中に知っているものはない	14	3.3%
無回答	75	17.6%
調査数	425	100.0%

- その他の回答（上記の選択肢に含まれるものでも、回答者の意思を尊重し、「その他」として集計している）

<ul style="list-style-type: none"> ・ 知ってるものは少ない!! ・ ヨウソ剤の備え ・ 社会福祉施設等との連携
--

◆ クロス集計結果

年代

● 結果の概要

<ul style="list-style-type: none"> ・ 年齢別に見ると、多くの選択肢で50歳代の回答率が高く、20歳代・30歳代の回答率が低い傾向にある。前回調査でも同様の傾向が見られている。 ・ 「防災ラジオの配布」は、前回調査から全ての年代で低下傾向が見られるが、20歳代が63.5%から50.0%、30歳代が77.0%から61.1%、40歳代が91.2%から76.6%と特に大きく低下している世代がある。 ・ 「原子力防災パンフレットの配布」は40歳代以下の回答率と50歳代以上の回答率に差が見られる。前回調査では、20歳代のみが低かったが30歳代、40歳代でも回答率が低い。ただし、20歳代は12.7%から29.2%と回答率は高くなっている。 ・ 前回調査では「敦賀市防災メール（トンボメール）」は70歳代以上の回答者の割合が他の年代に比べて低かったが、今回も70歳代以上は他の年代に比較して低くなっている。 ・ 「原子力防災訓練の実施」については前回調査と同様に50歳代が他の年代に比較して高くなっている。また、前回調査と比較すると、20歳代が41.3%から33.3%、40歳代が60.8%から43.8%と回答率が大きく下がっている世代がある。

● 集計表

			知っている取組														
			全体	防災ラジオの配布	原子力防災訓練の実施	敦賀市防災メール(トンポメール)	原子力防災パンフレットの配布	避難対応マニュアルの策定	屋外スピーカーの設置	市原子力防災計画の改定	自治体間の災害時相互応援協定締結	福井大学附属国際原子力工学研究所との相互連携協定締結	生活物資供給協力協定締結	原子力防災専門アドバイザーの委嘱	その他	この中に知っているものはない	無回答
年齢	全体	件数	425	294	209	202	199	101	67	66	58	45	28	9	3	14	61
		%	100.0	69.2	49.2	47.5	46.8	23.8	15.8	15.5	13.6	10.6	6.6	2.1	0.7	3.3	14.4
	20歳	件数	24	12	8	10	7	7	3	4	2	1	1	-	-	3	2
		%	100.0	50.0	33.3	41.7	29.2	29.2	12.5	16.7	8.3	4.2	4.2	-	-	12.5	8.3
	30歳	件数	54	33	20	26	13	8	8	5	2	1	1	-	-	3	8
		%	100.0	61.1	37.0	48.1	24.1	14.8	14.8	9.3	3.7	1.9	1.9	-	-	5.6	14.8
	40歳	件数	64	49	28	38	23	16	10	7	7	9	3	1	-	3	6
		%	100.0	76.6	43.8	59.4	35.9	25.0	15.6	10.9	10.9	14.1	4.7	1.6	-	4.7	9.4
	50歳	件数	66	56	42	38	41	23	14	13	11	10	4	4	-	-	4
		%	100.0	84.8	63.6	57.6	62.1	34.8	21.2	19.7	16.7	15.2	6.1	6.1	-	-	6.1
	60歳	件数	117	80	59	54	63	31	20	23	18	13	9	3	3	1	22
		%	100.0	68.4	50.4	46.2	53.8	26.5	17.1	19.7	15.4	11.1	7.7	2.6	2.6	0.9	18.8
	70歳以上	件数	99	64	52	36	52	16	12	14	18	11	10	1	-	4	18
		%	100.0	64.6	52.5	36.4	52.5	16.2	12.1	14.1	18.2	11.1	10.1	1.0	-	4.0	18.2

居住地地域（発電所からの距離）

● 結果の概要

- ・ 原子力発電所からの距離別に見ると、「屋外スピーカーの設置」が10km以内の回答者が比較的高い回答率となっており、10km以内の設置率が高いことが回答に反映されていると考えられる。その他の選択肢については大きな差異が見られない。

● 集計表

			知っている取組														
			全体	防災ラジオの配布	原子力防災訓練の実施	敦賀市防災メール（トンボメール）	原子力防災パンフレットの配布	避難対応マニュアルの策定	屋外スピーカーの設置	市原子力防災計画の改定	自治体間の災害時相互応援協定締結	福井大学附属国際原子力工学研究所との相互連携協定締結	生活物資供給協力協定締結	原子力防災専門アドバイザーの委嘱	その他	この中に知っているものはない	無回答
発電所からの距離	全体	件数	425	294	209	202	199	101	67	66	58	45	28	9	3	14	61
		%	100.0	69.2	49.2	47.5	46.8	23.8	15.8	15.5	13.6	10.6	6.6	2.1	0.7	3.3	14.4
	10km以内	件数	86	61	42	46	38	22	29	11	15	10	8	1	1	2	11
		%	100.0	70.9	48.8	53.5	44.2	25.6	33.7	12.8	17.4	11.6	9.3	1.2	1.2	2.3	12.8
	10km以上	件数	339	233	167	156	161	79	38	55	43	35	20	8	2	12	50
		%	100.0	68.7	49.3	46.0	47.5	23.3	11.2	16.2	12.7	10.3	5.9	2.4	0.6	3.5	14.7

日中の滞在場所

● 結果の概要

- ・ 日中滞在する場所別に見ると、敦賀市外の回答者は「防災ラジオの配布」の回答率が比較的高い。前回調査の類似の問である勤務地別では、見られなかった傾向である。
- ・ 敦賀市外の回答者は「原子力防災訓練の実施」の回答率が比較的高い。市外の母数が少ないことのほか、市外で他の地域の人と交流することを通じて防災パンフレットなどの取り組みを認識した可能性が考えられる。前回調査の類似の問である勤務地別で、市外勤務者の方の回答率が高い傾向にあったのと同様の傾向である。
- ・ 敦賀市外の回答者は「避難対応マニュアルの策定」の回答率が比較的高い。前回調査の類似の問である勤務地別では、市内勤務者の方の回答率が高い傾向にあり、今回の結果とは相反する傾向である。

● 集計表

			知っている取組														
			全体	防災ラジオの配布	原子力防災訓練の実施	敦賀市防災メール(トンボメール)	原子力防災パンフレットの配布	避難対応マニュアルの策定	屋外スピーカーの設置	市原子力防災計画の改定	自治体間の災害時相互応援協定締結	福井大学附属国際原子工学研究所との相互連携協定締結	生活物資供給協力協定締結	原子力防災専門アドバイザーの委嘱	その他	この中に知っているものはない	無回答
日中滞在する場所	全体	件数	425	294	209	202	199	101	67	66	58	45	28	9	3	14	61
		%	100.0	69.2	49.2	47.5	46.8	23.8	15.8	15.5	13.6	10.6	6.6	2.1	0.7	3.3	14.4
	敦賀市内	件数	392	263	187	186	183	90	64	61	53	40	27	9	3	14	60
		%	100.0	67.1	47.7	47.4	46.7	23.0	16.3	15.6	13.5	10.2	6.9	2.3	0.8	3.6	15.3
	敦賀市外	件数	32	31	22	16	16	11	3	5	5	5	1	-	-	-	-
		%	100.0	96.9	68.8	50.0	50.0	34.4	9.4	15.6	15.6	15.6	3.1	-	-	-	-

原子力防災への関心

● 結果の概要

- ・ 原子力防災への関心の程度別に見ると、「とても関心がある」「関心がある」と回答したの方が、各取組への認知度が高い傾向にある。この結果については、前回調査も同様の傾向である。
- ・ 「とても関心がある」と回答した方でも、「生活物資供給協力協定締結」が 9.0%、「原子力防災専門アドバイザーの委嘱」が 3.8%と取り組みの認知度は低い。この結果については、前回調査も同様の傾向である。
- ・ 「関心がない」と回答した方でも、「防災ラジオの配布」「原子力防災訓練の実施」の取り組みの認知度は高い。

● 集計表

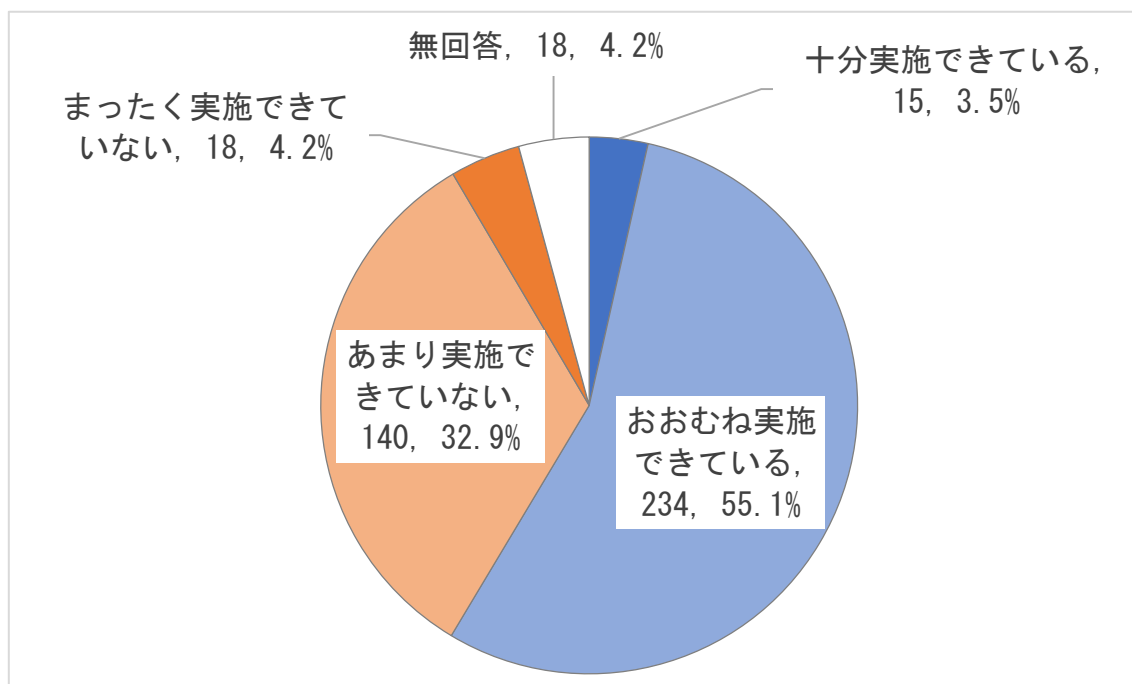
		知っている取組															
		全体	防災ラジオの配布	原子力防災訓練の実施	敦賀市防災メール(トンボメール)	原子力防災パンフレットの配布	避難対応マニュアルの策定	屋外スピーカーの設置	市原子力防災計画の改定	自治体間の災害時相互応援協定締結	福井大学附属国際原子力工学研究所との相互連携協定締結	生活物資供給協力協定締結	原子力防災専門アドバイザーの委嘱	その他	この中に知っているものはない	無回答	
関心の程度	全体	件数	425	294	209	202	199	101	67	66	58	45	28	9	3	14	61
		%	100.0	69.2	49.2	47.5	46.8	23.8	15.8	15.5	13.6	10.6	6.6	2.1	0.7	3.3	14.4
	とても関心がある	件数	78	58	39	44	42	25	14	23	15	16	7	3	1	4	6
		%	100.0	74.4	50.0	56.4	53.8	32.1	17.9	29.5	19.2	20.5	9.0	3.8	1.3	5.1	7.7
	関心がある	件数	257	168	118	133	127	62	35	39	39	25	19	6	2	4	50
		%	100.0	65.4	45.9	51.8	49.4	24.1	13.6	15.2	15.2	9.7	7.4	2.3	0.8	1.6	19.5
	関心がない	件数	68	58	38	25	24	12	12	3	1	2	1	-	-	-	2
		%	100.0	85.3	55.9	36.8	35.3	17.6	17.6	4.4	1.5	2.9	1.5	-	-	-	2.9
	まったく関心がない	件数	7	1	1	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	4	-
		%	100.0	14.3	14.3	-	14.3	-	14.3	-	-	-	-	-	-	57.1	-

問10 敦賀市が実施している原子力防災に関する取り組みは、どの程度できていると評価しますか（○は1つ）。

◆ 単純集計結果

● 結果の概要

・ 敦賀市が実施している原子力防災に関する取り組みに対して、回答者のうち「十分実施できている」と回答した方が 3.5%、「おおむね実施できている」と回答した方が 55.1%となっており、両者の合計（肯定的評価の割合）は、前回調査の 48.1%から 58.6%に増加している。



● 集計表

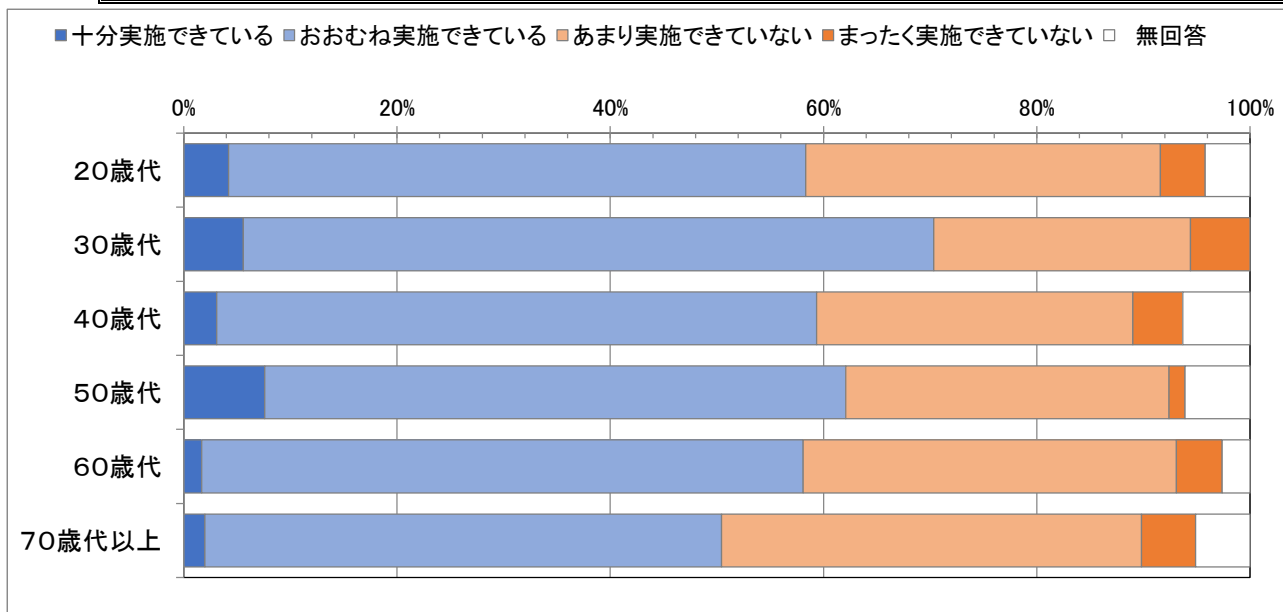
分類	件数	%
十分実施できている	15	3.5%
おおむね実施できている	234	55.1%
あまり実施できていない	140	32.9%
まったく実施できていない	18	4.2%
無回答	18	4.2%
調査数	425	100.0%

◆ クロス集計結果

年代

● 結果の概要

・ 年齢別に見ると、年齢層が低い方が「十分実施できている」「おおむね実施できている」を選択し、年齢層が高くなると「あまり実施できていない」や「まったく実施できていない」を選択する傾向が見られる。前回調査でも同様の傾向が見られた。



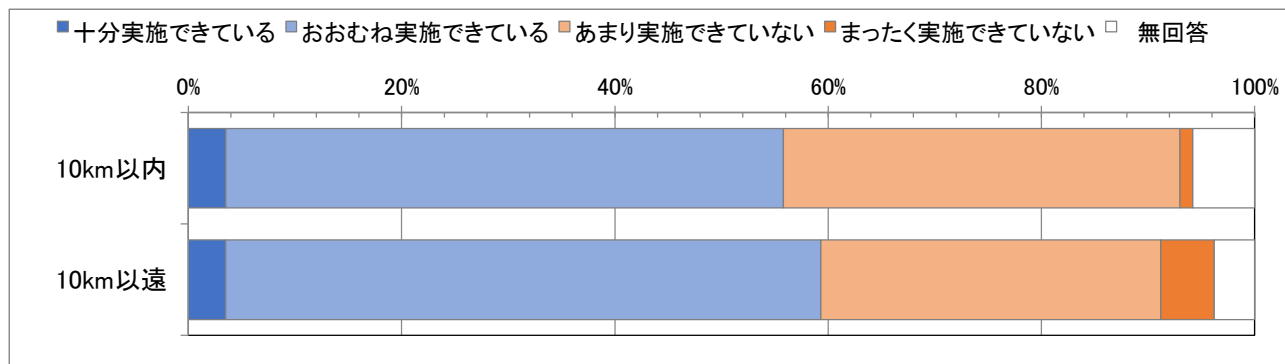
● 集計表

			取組の評価					
			全体	十分実施 できている	おおむね実施 できている	あまり実施 できていない	まったく実施 できていない	無回答
年齢	全体	件数	425	15	234	140	18	18
		%	100.0	3.5	55.1	32.9	4.2	4.2
	20歳代	件数	24	1	13	8	1	1
		%	100.0	4.2	54.2	33.3	4.2	4.2
	30歳代	件数	54	3	35	13	3	-
		%	100.0	5.6	64.8	24.1	5.6	-
	40歳代	件数	64	2	36	19	3	4
		%	100.0	3.1	56.3	29.7	4.7	6.3
	50歳代	件数	66	5	36	20	1	4
		%	100.0	7.6	54.5	30.3	1.5	6.1
	60歳代	件数	117	2	66	41	5	3
		%	100.0	1.7	56.4	35.0	4.3	2.6
	70歳代以上	件数	99	2	48	39	5	5
		%	100.0	2.0	48.5	39.4	5.1	5.1

居住地域（発電所からの距離）

● 結果の概要

- ・ 発電所からの距離別に見ると、10km 以内の回答者の方が、10km 以遠の回答者と比較して「あまり実施できていない」や「まったく実施できていない」を選択する傾向が見られる。



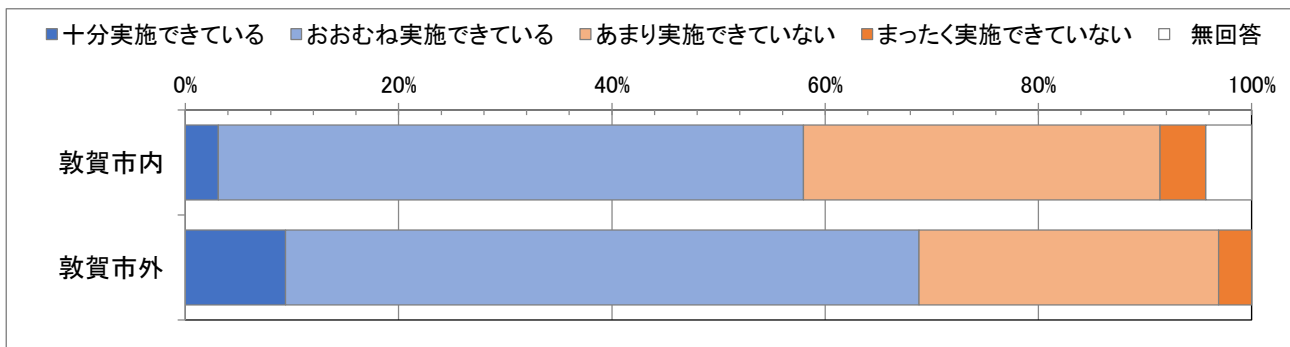
● 集計表

			取組の評価					
			全体	十分実施 できている	おおむね実施 できている	あまり実施 できていない	まったく実施 できていない	無回答
発電所からの距離	全体	件数	425	15	234	140	18	18
		%	100.0	3.5	55.1	32.9	4.2	4.2
	10km 以内	件数	86	3	45	32	1	5
		%	100.0	3.5	52.3	37.2	1.2	5.8
	10km 以遠	件数	339	12	189	108	17	13
		%	100.0	3.5	55.8	31.9	5.0	3.8

日中の滞在場所

● 結果の概要

- ・ 日中滞在する場所別に見ると、敦賀市内の回答者の方が、敦賀市外の回答者と比較して「あまり実施できていない」や「まったく実施できていない」を選択する傾向が見られる。市外の母数が少ないことのほか、市外との交流の有無が結果の要因と考えられる。
- ・ 前回調査の類似の問である勤務地別では、市内勤務者の方が「あまり実施できていない」や「まったく実施できていない」を選択する傾向があったが、今回はそれと相反する傾向となった。



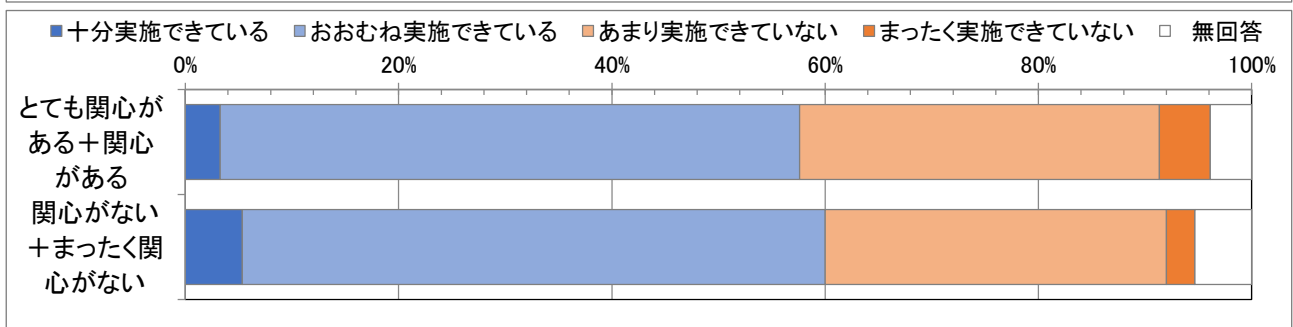
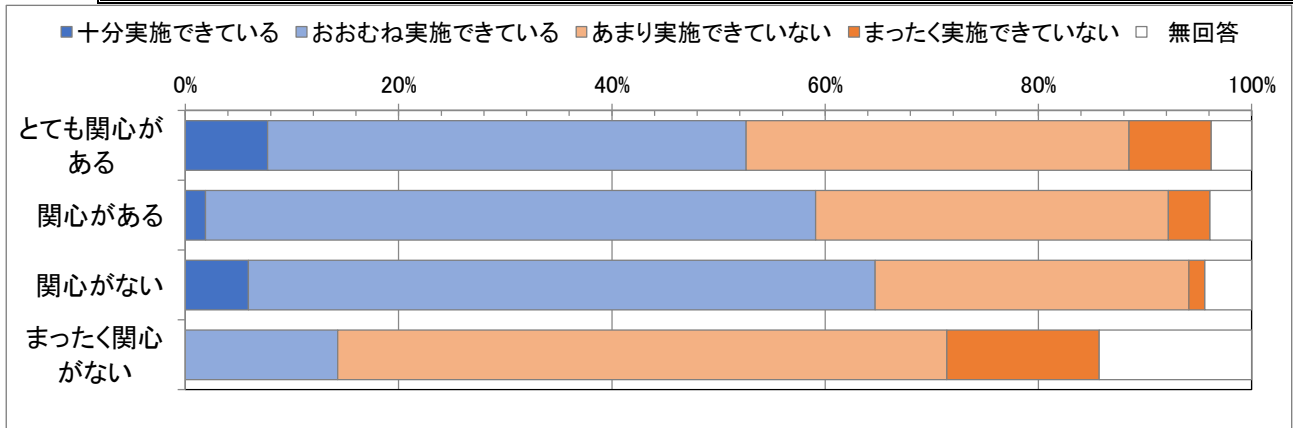
● 集計表

			取組の評価					
			全体	十分実施 できている	おおむね実施 できている	あまり実施 できていない	まったく実施 できていない	無回答
日中の 滞在場所	全体	件数	425	15	234	140	18	18
		%	100.0	3.5	55.1	32.9	4.2	4.2
	敦賀市内	件数	392	12	215	131	17	17
		%	100.0	3.1	54.8	33.4	4.3	4.3
	敦賀市外	件数	32	3	19	9	1	-
		%	100.0	9.4	59.4	28.1	3.1	-

原子力防災への関心

● 結果の概要

- ・ 原子力防災への関心の程度別に見ると、若干ではあるが、関心の程度が高いほど、否定的な回答をする傾向が強い。
- ・ 「とても関心がある」と「関心がある」、「関心がない」と「まったく関心がない」を統合すると、関心の程度に関わらず、半数以上が実施できていると評価している。



● 集計表

			取組の評価					
			全体	十分実施 できている	おおむね実施 できている	あまり実施 できていない	まったく実施 できていない	無回答
関心の 程度	全体	件数	425	15	234	140	18	18
		%	100.0	3.5	55.1	32.9	4.2	4.2
	とても関心 がある	件数	78	6	35	28	6	3
		%	100.0	7.7	44.9	35.9	7.7	3.8
	関心があ る	件数	257	5	147	85	10	10
		%	100.0	1.9	57.2	33.1	3.9	3.9
	関心がな い	件数	68	4	40	20	1	3
		%	100.0	5.9	58.8	29.4	1.5	4.4
まったく関 心がない	件数	7	-	1	4	1	1	
	%	100.0	-	14.3	57.1	14.3	14.3	

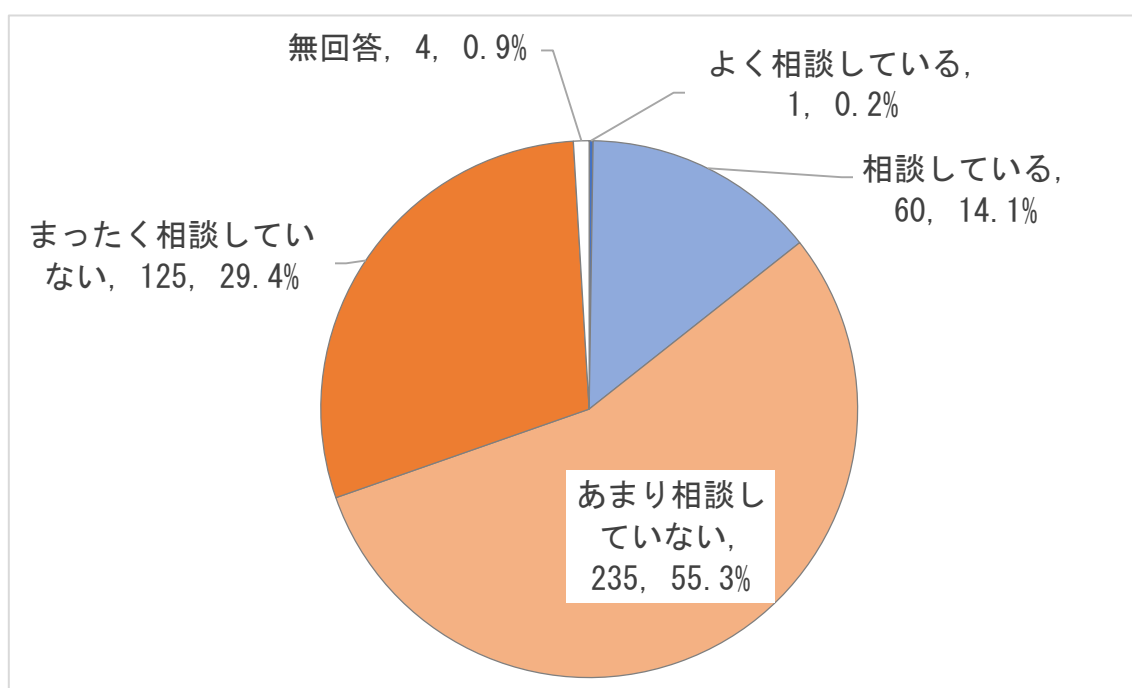
2.3 原子力災害時における避難等についての意識調査結果

問11 あなたは、原子力災害により屋内退避や避難の指示があった場合の行動について、ご家族等と相談したことがありますか（〇は1つ）。

◆ 単純集計結果

● 結果の概要

- ・ 「よく相談している」0.2%、「相談している」14.1%と、程度の差こそあれ相談している家庭は全体の14.3%であるのに対し、「あまり相談していない」55.3%、「まったく相談していない」29.4%で、両者合わせて全体の84.7%と、大半の家庭で相談されていない。相談していない家庭は、前回調査の72.9%から10%以上増加している。



● 集計表

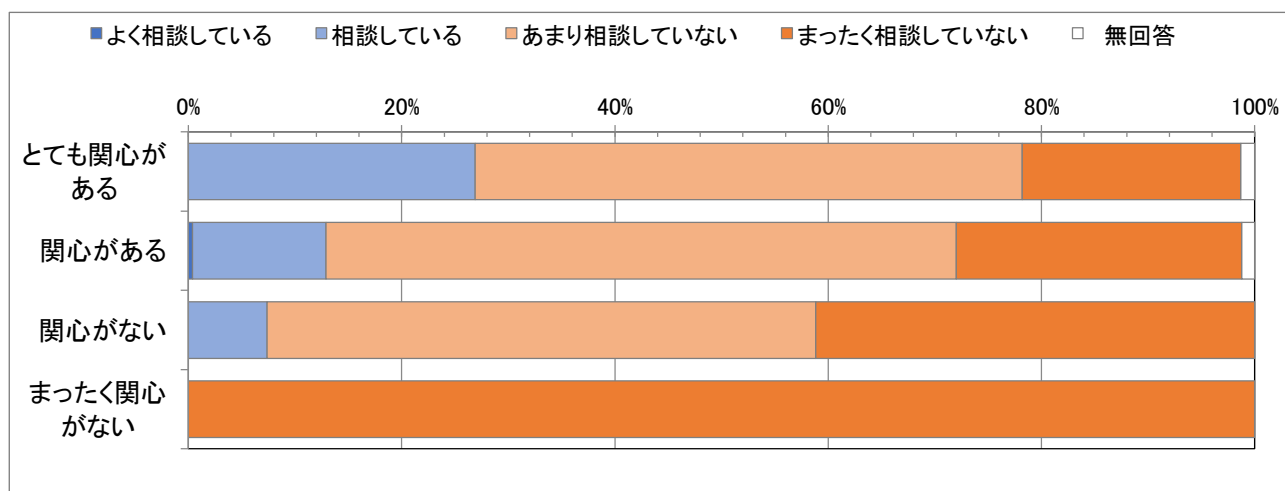
分類	件数	%
よく相談している	1	0.2%
相談している	60	14.1%
あまり相談していない	235	55.3%
まったく相談していない	125	29.4%
無回答	4	0.9%
調査数	425	100.0%

◆ クロス集計結果

● 結果の概要

原子力防災への関心

- ・ 原子力防災への関心の程度別に見ると、関心のある回答者ほど、家庭内で相談している傾向が見られる。この結果は、前回調査と同様の傾向である。
- ・ 「とても関心がある」や「関心がある」と回答した方でも、家庭で相談していないことが分かる。この結果は、前回調査と同様の傾向である。



● 集計表

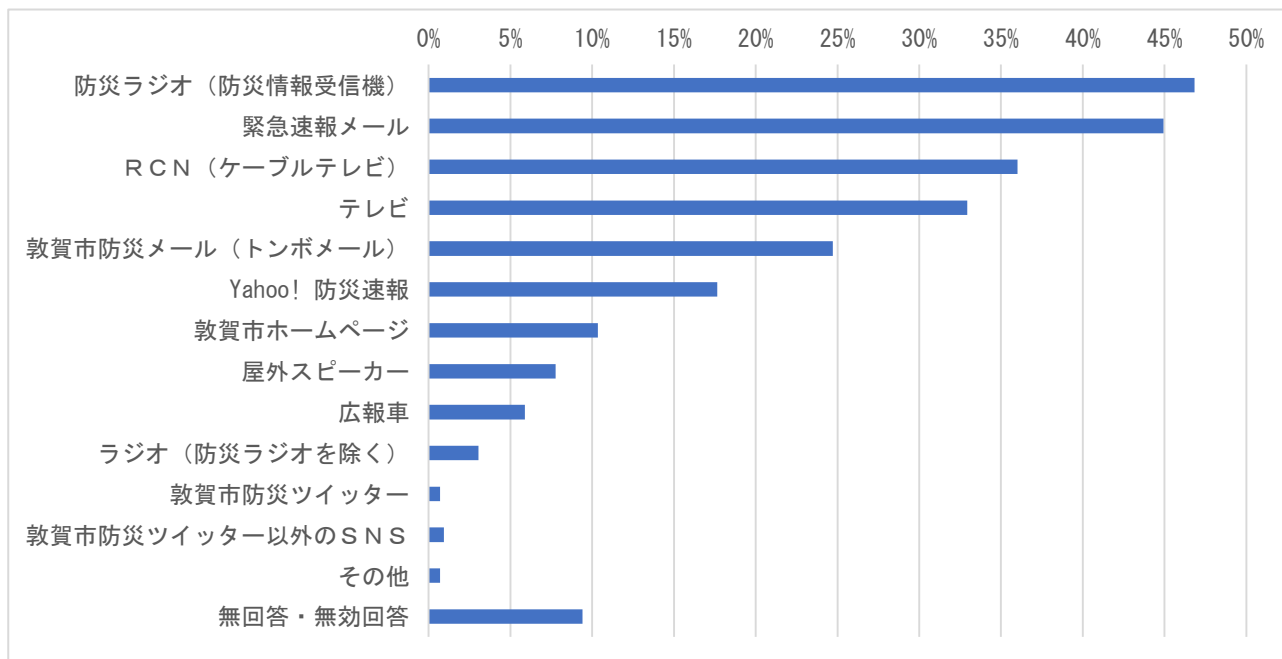
			家族との相談					
			全体	よく相談している	相談している	あまり相談していない	まったく相談していない	無回答
関心の程度	全体	件数	425	1	60	235	125	4
		%	100.0	0.2	14.1	55.3	29.4	0.9
	とても関心がある	件数	78	-	21	40	16	1
		%	100.0	-	26.9	51.3	20.5	1.3
	関心がある	件数	257	1	32	152	69	3
		%	100.0	0.4	12.5	59.1	26.8	1.2
	関心がない	件数	68	-	5	35	28	-
		%	100.0	-	7.4	51.5	41.2	-
	まったく関心がない	件数	7	-	-	-	7	-
		%	100.0	-	-	-	100.0	-

問 1 2 屋内退避や避難指示等、原子力災害に関する情報を、どのような手段で入手しますか。あなたがよく利用すると思われるものを3つまでお答えください（〇は3つまで）。

◆ 単純集計結果

● 結果の概要

- ・ 防災ラジオ、緊急速報メール、RCN（ケーブルテレビ）、テレビなどの、プッシュ情報かつ比較的速報性の高い情報入手手段を利用する傾向がある。



● 集計表

分類	件数	%
防災ラジオ（防災情報受信機）	199	46.8%
緊急速報メール	191	44.9%
R C N（ケーブルテレビ）	153	36.0%
テレビ	140	32.9%
敦賀市防災メール（トンボメール）	105	24.7%
Yahoo! 防災速報	75	17.6%
敦賀市ホームページ	44	10.4%
屋外スピーカー	33	7.8%
広報車	25	5.9%
ラジオ（防災ラジオを除く）	13	3.1%
敦賀市防災ツイッター	3	0.7%
敦賀市防災ツイッター以外のSNS	4	0.9%
その他	3	0.7%
無回答・無効回答	40	9.4%
調査数	425	100.0%

- その他の回答（上記の選択肢に含まれるものでも、回答者の意思を尊重し、「その他」として集計している）

- ・ 近所の方達との話し合い
- ・ 障害者なのでできません。身近にいる者から入手する。
- ・ 情報について聞いたことがない。発しているの？
- ・ 福井県のサイト・事業者（原電など）のサイト

◆ クロス集計結果

年代

● 結果の概要

- ・ 20歳代、30歳代では他の世代と比較して「防災ラジオ(防災情報受信機)」と回答している割合が低い。
- ・ 70歳代以上では他の世代と比較して「Yahoo!防災速報」と回答している割合が低い。
- ・ 年代により、最も良く利用している手段が異なるため、多様な手段での情報伝達を行う必要があると考えられる。

● 集計表

		情報入手手段															
		全体	防災ラジオ(防災情報受信機)	緊急速報メール	RCN(ケーブルテレビ)	テレビ	敦賀市防災メール(トンポメール)	Yahoo! 防災速報	敦賀市ホームページ	屋外スピーカー	広報車	ラジオ(防災ラジオを除く)	敦賀市防災ツイッター以外のSNS	敦賀市防災ツイッター	その他	無回答	
年齢	全体	件数	425	199	191	153	140	105	75	44	33	25	13	4	3	3	40
		%	100.0	46.8	44.9	36.0	32.9	24.7	17.6	10.4	7.8	5.9	3.1	0.9	0.7	0.7	9.4
	20歳代	件数	24	6	9	7	5	3	4	4	2	-	-	-	2	1	5
		%	100.0	25.0	37.5	29.2	20.8	12.5	16.7	16.7	8.3	-	-	-	8.3	4.2	20.8
	30歳代	件数	54	9	32	13	17	11	20	7	6	1	1	3	1	-	3
		%	100.0	16.7	59.3	24.1	31.5	20.4	37.0	13.0	11.1	1.9	1.9	5.6	1.9	-	5.6
	40歳代	件数	64	23	31	22	16	19	14	10	2	3	-	-	-	-	8
		%	100.0	35.9	48.4	34.4	25.0	29.7	21.9	15.6	3.1	4.7	-	-	-	-	12.5
	50歳代	件数	66	38	30	26	20	23	9	2	7	4	2	1	-	-	3
		%	100.0	57.6	45.5	39.4	30.3	34.8	13.6	3.0	10.6	6.1	3.0	1.5	-	-	4.5
	60歳代	件数	117	54	59	43	40	31	22	13	13	10	5	-	-	1	9
		%	100.0	46.2	50.4	36.8	34.2	26.5	18.8	11.1	11.1	8.5	4.3	-	-	0.9	7.7
	70歳代以上	件数	99	68	30	42	41	18	5	8	3	7	5	-	-	1	12
		%	100.0	68.7	30.3	42.4	41.4	18.2	5.1	8.1	3.0	7.1	5.1	-	-	1.0	12.1

居住地域（発電所からの距離）

● 結果の概要

- 原子力発電所からの距離別に見ると、「RCN(ケーブルテレビ)」に10km以遠が比較的高い回答率となっている。RCNの利用率は居住地域による差は無いと考えられるため、10km以内の回答者がRCN以外の手段の選択肢を回答した(回答可能数が3つまで)ためと考えられる。その他選択肢については大きな差異が見られない。

● 集計表

		情報入手手段															
		全体	防災ラジオ(防災情報受信機)	緊急速報メール	RCN(ケーブルテレビ)	テレビ	敦賀市防災メール(トンポメール)	Yahoo! 防災速報	敦賀市ホームページ	屋外スピーカー	広報車	ラジオ(防災ラジオを除く)	敦賀市防災ツイッター以外のSNS	敦賀市防災ツイッター	その他	無回答	
地区	全体	件数	425	199	191	153	140	105	75	44	33	25	13	4	3	3	40
		%	100.0	46.8	44.9	36.0	32.9	24.7	17.6	10.4	7.8	5.9	3.1	0.9	0.7	0.7	9.4
	10km以内	件数	86	36	34	23	27	26	12	7	11	5	5	1	-	-	12
		%	100.0	41.9	39.5	26.7	31.4	30.2	14.0	8.1	12.8	5.8	5.8	1.2	-	-	14.0
	10km以遠	件数	339	163	157	130	113	79	63	37	22	20	8	3	3	3	28
		%	100.0	48.1	46.3	38.3	33.3	23.3	18.6	10.9	6.5	5.9	2.4	0.9	0.9	0.9	8.3

原子力防災への関心

● 結果の概要

- ・ 原子力防災への関心の程度別に見ると、「とても関心がある」または「関心がある」と回答した方は、「防災ラジオ(防災情報受信機)」が48.7%、「テレビ」が34.3%で、「関心がない」または「まったく関心がない」と回答した方と比較して、回答率が高い傾向にある。
- ・ 「関心がない」または「まったく関心がない」と回答した方は、「緊急速報メール」が57.3%で「とても関心がある」または「関心がある」と回答した方と比較して、回答率が高い傾向にある。
- ・ 関心がある層は自ら情報入手手段を利用しようとする(プル型情報取得)のに対し、関心が薄い層は情報が送られて来る(プッシュ型情報取得)手段に依存する傾向があることが伺える。

● 集計表

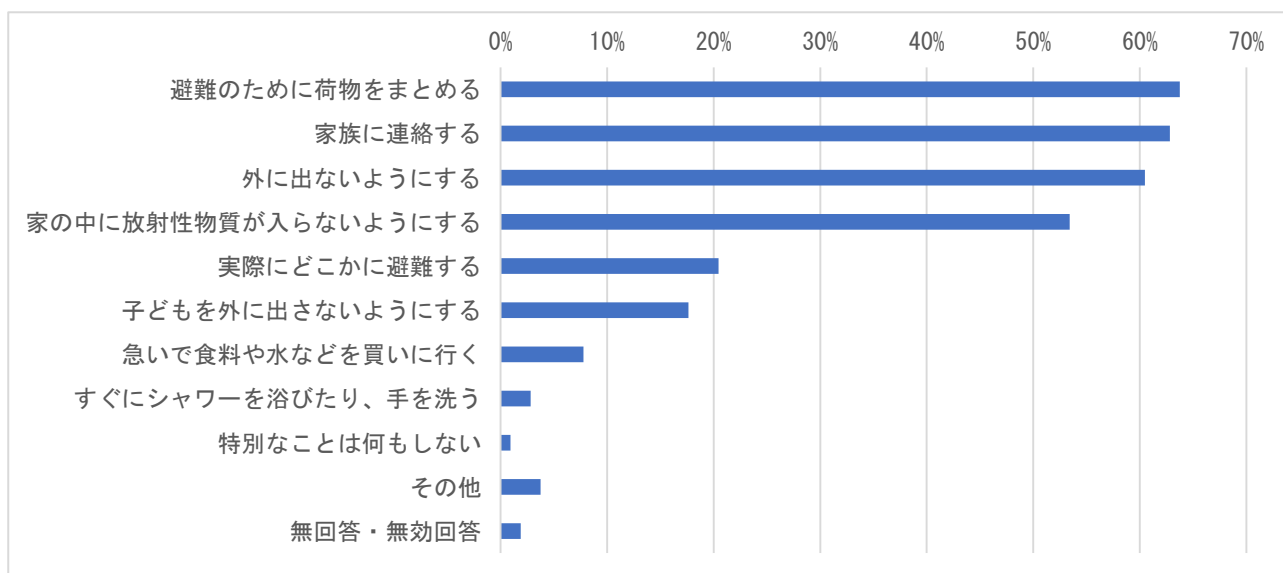
			情報入手手段															
			全体	防災ラジオ(防災情報受信機)	緊急速報メール	RCN(ケーブルテレビ)	テレビ	敦賀市防災メール(トンボメール)	Yahoo! 防災速報	敦賀市ホームページ	屋外スピーカー	広報車	ラジオ(防災ラジオを除く)	敦賀市防災ツイッター以外のSNS	敦賀市防災ツイッター	その他	無回答	
関心の程度	全体	件数	425	199	191	153	140	105	75	44	33	25	13	4	3	3	40	
		%	100.0	46.8	44.9	36.0	32.9	24.7	17.6	10.4	7.8	5.9	3.1	0.9	0.7	0.7	9.4	
	とても関心がある+関心がある	件数	335	163	141	126	115	88	58	33	21	20	13	2	2	2	2	32
		%	100.0	48.7	42.1	37.6	34.3	26.3	17.3	9.9	6.3	6.0	3.9	0.6	0.6	0.6	0.6	9.6
	関心がない+まったく関心がない	件数	75	25	43	23	19	14	16	9	10	5	-	1	2	1	1	7
		%	100.0	33.3	57.3	30.7	25.3	18.7	21.3	12.0	13.3	6.7	-	1.3	2.7	1.3	1.3	9.3

問13 原子力災害が起こったとき、あなたはどのような行動を取りますか（あてはまるものすべてに○）。

◆ 単純集計結果

● 結果の概要

- ・ 「避難のために荷物をまとめる」が69.8%、「家族に連絡する」が62.8%、「外に出ないようにする」が60.5%、「家の中に放射性物質が入らないようにする」が53.4%と、とるべき行動について概ね理解していると考えられる。
- ・ ただし、「急いで食料や水などを買いに行く」のように混乱を招く可能性がある対応を回答している方が7.8%、「特別なことは何もしない」と回答している方が0.9%おり、原子力災害時にとるべき対応についての啓発等は引き続き必要である。
- ・ その他の回答では、情報を収集する旨の記述が多く見られた。原子力災害時には適切な情報発信が重要であると考えられる。



● 集計表

分類	件数	%
避難のために荷物をまとめる	271	63.8%
家族に連絡する	267	62.8%
外に出ないようにする	257	60.5%
家の中に放射性物質が入らないようにする	227	53.4%
実際にどこかに避難する	87	20.5%
子どもを外に出さないようにする	75	17.6%
急いで食料や水などを買いに行く	33	7.8%
すぐにシャワーを浴びたり、手を洗う	12	2.8%
特別なことは何もしない	4	0.9%
その他	16	3.8%
無回答・無効回答*	8	1.9%
調査数	425	100.0%

※「特別なことは何もしない」と他の選択肢を複数回答したものについては「無回答・無効回答」して集計した。

- その他の回答（上記の選択肢に含まれるものでも、回答者の意思を尊重し、「その他」として集計している）

- ・ 正確な情報を調べる
- ・ 情報収集
- ・ まずは情報収集に努める
- ・ 情報（正確な）を知る
- ・ ネットやテレビなどで情報収集により、判断する
- ・ 詳細で、正確な情報入手して判断する。レベルで変る。
- ・ 風向、風速を調べる
- ・ 市（防災関係）からの指示を待つ
- ・ 敦賀市の指示を待つ
- ・ 次の行動をどうしたら良いか指示を待つ
- ・ 上記「1.避難のために荷物をまとめる」、「7.家の中に放射性物質が入らないようにする」の後で指示・情報により行動する
- ・ 家族全員の安否確認、県外でも
- ・ 市外へ避難する（嶺北）
- ・ 学校等コンクリートで出来た建物に避難する
- ・ 防災グッズ持ってにげる。
- ・ 災害がおきるとパニックになって何も出来ないと思う
- ・ わからない!!

◆ クロス集計結果

年代

● 結果の概要

- ・ 年代別に見ると、「避難のために荷物をまとめる」と回答しているのは、40 歳代が他の世代より比較的多く、70 歳代以上は比較的少ない。
- ・ 「家族に連絡する」と回答しているのは、70 歳代以上が他の世代より比較的少ない。
- ・ 「外に出ないようにする」と回答しているのは、30 歳代が他世代より比較的少ない。
- ・ 「家の中に放射性物質が入らないようにする」と回答しているのは、20 歳代と 30 歳代が他の世代より比較的少ない。
- ・ 「実際にどこかに避難する」と回答しているのは、20 歳代が他の世代より比較的少ない。
- ・ 「子どもを外に出さないようにする」と回答しているのは、30 歳代と 40 歳代が他の世代より比較的多い。この年代が子育て世代であることが反映されている。

● 集計表

		原子力災害時の行動												
		全体	避難のために荷物をまとめる	家族に連絡する	外に出ないようにする	家の中に放射性物質が入らないようにする	実際にどこかに避難する	子どもを外に出さないようにする	子どもを外に出さないようにする	く	急いで食料や水などを買いに行	洗う	すぐにシャワーを浴びたり、手を	特別なことは何もしない
年齢	全体	件数	425	271	267	257	227	87	75	33	12	4	16	8
		%	100.0	63.8	62.8	60.5	53.4	20.5	17.6	7.8	2.8	0.9	3.8	1.9
	20歳代	件数	24	17	13	13	10	2	4	2	-	1	1	-
		%	100.0	70.8	54.2	54.2	41.7	8.3	16.7	8.3	-	4.2	4.2	-
	30歳代	件数	54	32	37	23	23	15	21	5	1	1	2	-
		%	100.0	59.3	68.5	42.6	42.6	27.8	38.9	9.3	1.9	1.9	3.7	-
	40歳代	件数	64	50	41	39	31	12	22	3	3	-	2	-
		%	100.0	78.1	64.1	60.9	48.4	18.8	34.4	4.7	4.7	-	3.1	-
	50歳代	件数	66	44	48	40	32	13	8	7	3	2	2	1
		%	100.0	66.7	72.7	60.6	48.5	19.7	12.1	10.6	4.5	3.0	3.0	1.5
	60歳代	件数	117	74	81	78	72	23	10	10	4	-	3	1
		%	100.0	63.2	69.2	66.7	61.5	19.7	8.5	8.5	3.4	-	2.6	0.9
	70歳代以上	件数	99	53	46	63	59	22	10	6	1	-	6	6
		%	100.0	53.5	46.5	63.6	59.6	22.2	10.1	6.1	1.0	-	6.1	6.1

性別

● 結果の概要

- 性別による顕著な差は見られないが、「避難のために荷物をまとめる」「実際にどこかに避難する」「急いで食料や水などを買いに行く」などは男性の回答率が若干高い。

● 集計表

		原子力災害時の行動												
		全体	避難のために荷物をまとめる	家族に連絡する	外に出ないようにする	家の中に放射性物質が入らないようにする	実際にどこかに避難する	子どもを外に出さないようにする	急いで食料や水などを買いに行く	すぐにシャワーを浴びたり、手を洗う	特別なことは何もしない	その他	無回答	
性別	全体	件数	425	271	267	257	227	87	75	33	12	4	16	8
		%	100.0	63.8	62.8	60.5	53.4	20.5	17.6	7.8	2.8	0.9	3.8	1.9
	男性	件数	190	124	118	109	94	46	31	18	3	1	9	4
		%	100.0	65.3	62.1	57.4	49.5	24.2	16.3	9.5	1.6	0.5	4.7	2.1
	女性	件数	233	146	148	146	132	41	44	14	9	3	7	4
		%	100.0	62.7	63.5	62.7	56.7	17.6	18.9	6.0	3.9	1.3	3.0	1.7
	その他	件数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		%	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	回答しない	件数	1	-	-	1	1	-	-	1	-	-	-	-
		%	100.0	-	-	100.0	100.0	-	-	100.0	-	-	-	-

同居家族

● 結果の概要

- ・ 同居家族人数別に見ると、「避難のために荷物をまとめる」は、4 人家族が他と比較して回答率が高い傾向にある。
- ・ 「家の中に放射性物質が入らないようにする」と回答しているのは 4 人家族以上が他の世代と比較して回答率が低い傾向にある。家族の人数が多いほど、家の外から中へ入る人が多くなるため、この対応が取りにくくなると認識されている可能性がある。
- ・ 「子どもを外に出さないようにする」と回答しているのは 4 人家族以上が他の世代と比較して回答率が高い傾向にある。4 人家族以上の場合、家族に子どもが含まれている場合が多いことの影響と考えられる。

● 集計表

		原子力災害時の行動											
		全体	避難のために荷物をまとめる	家族に連絡する	外に出ないようにする	家の中に放射性物質が入らないようにする	実際にどこかに避難する	子どもを外に出さないようにする	急いで食料や水などを買いに行く	すぐにシャワーを浴びたり、手を洗う	特別なことは何もしない	その他	無回答
同居家族	全体	425	271	267	257	227	87	75	33	12	4	16	8
		100.0	63.8	62.8	60.5	53.4	20.5	17.6	7.8	2.8	0.9	3.8	1.9
	独居	34	19	17	20	16	9	1	5	-	-	-	1
		100.0	55.9	50.0	58.8	47.1	26.5	2.9	14.7	-	-	-	2.9
	2人	189	118	110	128	115	37	16	9	4	2	8	2
		100.0	62.4	58.2	67.7	60.8	19.6	8.5	4.8	2.1	1.1	4.2	1.1
	3人	108	71	76	55	60	27	22	10	5	1	2	2
		100.0	65.7	70.4	50.9	55.6	25.0	20.4	9.3	4.6	0.9	1.9	1.9
	4人	49	38	35	28	20	8	20	6	1	-	1	1
		100.0	77.6	71.4	57.1	40.8	16.3	40.8	12.2	2.0	-	2.0	2.0
	5人以上	42	24	28	25	16	6	16	3	2	-	4	2
		100.0	57.1	66.7	59.5	38.1	14.3	38.1	7.1	4.8	-	9.5	4.8

日中の滞在場所

● 結果の概要

- ・ 日中の滞在場所別に見ると、敦賀市外の回答率が高い選択肢があるが、回答者数が少ないため偏りが出ている可能性がある。

● 集計表

		原子力災害時の行動											
		全体	避難のために荷物をまとめる	家族に連絡する	外に出ないようにする	家の中に放射性物質が入らないようにする	実際にどこかに避難する	子どもを外に出さないようにする	急いで食料や水などを買いに行く	すぐにシャワーを浴びたり、手を洗う	特別なことは何もしない	その他	無回答
日中の滞在場所	全体	425	271	267	257	227	87	75	33	12	4	16	8
		100.0	63.8	62.8	60.5	53.4	20.5	17.6	7.8	2.8	0.9	3.8	1.9
	敦賀市内	392	251	239	233	207	81	67	29	11	4	16	8
		100.0	64.0	61.0	59.4	52.8	20.7	17.1	7.4	2.8	1.0	4.1	2.0
	敦賀市外	32	19	27	23	20	6	8	4	1	-	-	-
		100.0	59.4	84.4	71.9	62.5	18.8	25.0	12.5	3.1	-	-	-

「屋内退避」の理解度

● 結果の概要

- ・ 「屋内退避」の理解度別に見ると、「解除されるまで一切外出できない」と回答している方は、「不要不急の外出のみ避ければよい」と回答している方と比較して、「外に出ないようにする」の回答率が高い。
- ・ 「不要不急の外出のみ避ければよい」と回答している方は、「解除されるまで一切外出できない」と回答している方と比較して、「実際にどこかに避難する」「急いで食料や水などを買いに行く」の回答率が高い。

● 集計表

			原子力災害時の行動												
			全体	避難のために荷物をまとめる	家族に連絡する	外に出ないようにする	家の中に放射性物質が入らないようにする	実際にどこかに避難する	子どもを外に出さないようにする	急いで食料や水などを買いに行く	すぐにシャワーを浴びたり、手を洗う	特別なことは何もしない	その他	無回答	
屋内退避「の理解度	全体	件数	425	271	267	257	227	87	75	33	12	4	16	8	
		%	100.0	63.8	62.8	60.5	53.4	20.5	17.6	7.8	2.8	0.9	3.8	1.9	
	いつもと同じように外出できる	件数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		%	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	不要不急の外出のみ避ければよい	件数	54	34	32	23	22	16	12	10	-	1	2	2	
		%	100.0	63.0	59.3	42.6	40.7	29.6	22.2	18.5	-	1.9	3.7	3.7	
	解除されるまで一切外出できない	件数	363	234	232	231	201	69	63	23	12	2	13	5	
		%	100.0	64.5	63.9	63.6	55.4	19.0	17.4	6.3	3.3	0.6	3.6	1.4	
	その他	件数	5	2	2	1	2	2	-	-	-	1	1	-	
		%	100.0	40.0	40.0	20.0	40.0	40.0	-	-	-	20.0	20.0	-	

放射線に関する基礎知識 (a. 外部被ばくと内部被ばくの違い)

● 結果の概要

- ・ 外部被ばくと内部被ばくの違いの認知度別に見ると、「まったく知らない」と回答している方は、他と比較して「避難のための荷物をまとめる」の回答率が高い。
- ・ 「知らない」「まったく知らない」と回答している方は、「よく知っている」「知っている」と回答している方と比較して「家の中に放射性物質が入らないようにする」の回答率が低い。

● 集計表

		原子力災害時の行動												
		全体	避難のために荷物をまとめる	家族に連絡する	外に出ないようにする	家の中に放射性物質が入らないようにする	実際にどこかに避難する	子どもを外に出さないようにする	急いで食料や水などを買いに行く	すぐにシャワーを浴びたり、手を洗う	特別なことは何もしない	その他	無回答	
外部被ばくと内部被ばくの違い	全体	件数	425	271	267	257	227	87	75	33	12	4	16	8
		%	100.0	63.8	62.8	60.5	53.4	20.5	17.6	7.8	2.8	0.9	3.8	1.9
	よく知っている	件数	59	37	37	34	36	12	7	9	1	1	4	-
		%	100.0	62.7	62.7	57.6	61.0	20.3	11.9	15.3	1.7	1.7	6.8	-
	知っている	件数	135	84	84	87	82	28	25	6	6	1	6	-
		%	100.0	62.2	62.2	64.4	60.7	20.7	18.5	4.4	4.4	0.7	4.4	-
	知らない	件数	154	97	99	87	70	33	30	13	4	-	4	7
		%	100.0	63.0	64.3	56.5	45.5	21.4	19.5	8.4	2.6	-	2.6	4.5
	まったく知らない	件数	65	47	40	39	31	13	11	4	1	2	1	1
		%	100.0	72.3	61.5	60.0	47.7	20.0	16.9	6.2	1.5	3.1	1.5	1.5

放射線に関する基礎知識 (b. 被ばくと汚染の違い)

● 結果の概要

・ 被ばくと汚染の違いの認知度別に見ると、認知度が高いほど「家の中に放射性物質が入らないようにする」の回答率が高くなる。

● 集計表

		原子力災害時の行動												
		全体	避難のために荷物をまとめる	家族に連絡する	外に出ないようにする	家の中に放射性物質が入らないようにする	実際にどこかに避難する	子どもを外に出さないようにする	急いで食料や水などを買いに行く	すぐにシャワーを浴びたり、手を洗う	特別なことは何もしない	その他	無回答	
被ばくと汚染の違い	全体	件数	425	271	267	257	227	87	75	33	12	4	16	8
		%	100.0	63.8	62.8	60.5	53.4	20.5	17.6	7.8	2.8	0.9	3.8	1.9
	よく知っている	件数	51	31	30	28	32	10	4	8	1	1	4	-
		%	100.0	60.8	58.8	54.9	62.7	19.6	7.8	15.7	2.0	2.0	7.8	-
	知っている	件数	163	106	104	102	94	34	28	7	6	1	8	2
		%	100.0	65.0	63.8	62.6	57.7	20.9	17.2	4.3	3.7	0.6	4.9	1.2
	知らない	件数	146	92	95	84	71	29	33	13	4	1	3	4
		%	100.0	63.0	65.1	57.5	48.6	19.9	22.6	8.9	2.7	0.7	2.1	2.7
	まったく知らない	件数	51	35	30	32	22	13	8	4	1	1	-	1
		%	100.0	68.6	58.8	62.7	43.1	25.5	15.7	7.8	2.0	2.0	-	2.0

放射線に関する基礎知識 (c. 大人と子どもへの放射線の影響の違い)

● 結果の概要

- ・ 大人と子どもへの放射線の影響の違いの認知度別に見ると、認知度が高いほど「避難のために荷物をまとめる」の回答率が低くなる。
- ・ 「知らない」「まったく知らない」と回答している方は、「よく知っている」「知っている」と回答している方と比較して「家の中に放射性物質が入らないようにする」の回答率が低い。

● 集計表

			原子力災害時の行動											
			全体	避難のために荷物をまとめる	家族に連絡する	外に出ないようにする	家の中に放射性物質が入らないようにする	実際にどこかに避難する	子どもを外に出さないようにする	急いで食料や水などを買いに行く	すぐにシャワーを浴びたり、手を洗う	特別なことは何もしない	その他	無回答
大人と子どもへの放射線の影響の違い	全体	件数	425	271	267	257	227	87	75	33	12	4	16	8
		%	100.0	63.8	62.8	60.5	53.4	20.5	17.6	7.8	2.8	0.9	3.8	1.9
	よく知っている	件数	38	21	21	23	23	5	6	5	1	1	5	-
		%	100.0	55.3	55.3	60.5	60.5	13.2	15.8	13.2	2.6	2.6	13.2	-
	知っている	件数	113	69	73	72	75	23	23	7	5	1	4	-
		%	100.0	61.1	64.6	63.7	66.4	20.4	20.4	6.2	4.4	0.9	3.5	-
	知らない	件数	201	133	129	112	92	49	32	15	5	1	6	6
		%	100.0	66.2	64.2	55.7	45.8	24.4	15.9	7.5	2.5	0.5	3.0	3.0
	まったく知らない	件数	58	40	35	39	28	8	12	4	1	1	-	1
		%	100.0	69.0	60.3	67.2	48.3	13.8	20.7	6.9	1.7	1.7	-	1.7

放射線に関する基礎知識 (d. 放射線から身を守るための三原則：距離・時間・遮へい)

● 結果の概要

・ 放射線から身を守るための三原則：距離・時間・遮へいの認知度別に見ると、「知らない」「まったく知らない」と回答している方は、「よく知っている」「知っている」と回答している方と比較して「家の中に放射性物質が入らないようにする」の回答率が低い。

● 集計表

			原子力災害時の行動											
			全体	避難のために荷物をまとめる	家族に連絡する	外に出ないようにする	家の中に放射性物質が入らないようにする	実際にどこかに避難する	子どもを外に出さないようにする	急いで食料や水などを買いに行く	すぐにシャワーを浴びたり、手を洗う	特別なことは何もしない	その他	無回答
身を守るための三原則	全体	件数	425	271	267	257	227	87	75	33	12	4	16	8
		%	100.0	63.8	62.8	60.5	53.4	20.5	17.6	7.8	2.8	0.9	3.8	1.9
	よく知っている	件数	53	31	33	32	34	7	6	9	2	1	6	-
		%	100.0	58.5	62.3	60.4	64.2	13.2	11.3	17.0	3.8	1.9	11.3	-
	知っている	件数	145	94	94	98	92	30	27	7	4	-	5	1
		%	100.0	64.8	64.8	67.6	63.4	20.7	18.6	4.8	2.8	-	3.4	0.7
	知らない	件数	156	101	100	82	67	37	31	11	5	1	4	6
		%	100.0	64.7	64.1	52.6	42.9	23.7	19.9	7.1	3.2	0.6	2.6	3.8
	まったく知らない	件数	61	40	34	37	28	12	9	5	1	2	-	1
		%	100.0	65.6	55.7	60.7	45.9	19.7	14.8	8.2	1.6	3.3	-	1.6

放射線に関する基礎知識 (e. 普段の自宅周辺の放射線量)

● 結果の概要

- ・ 普段の自宅周辺の放射線量の認知度別に見ると、認知度が高いほど「避難のために荷物をまとめる」の回答率が低くなる。
- ・ 「知らない」「まったく知らない」と回答している方は、「よく知っている」「知っている」と回答している方と比較して「家の中に放射性物質が入らないようにする」の回答率が低い。

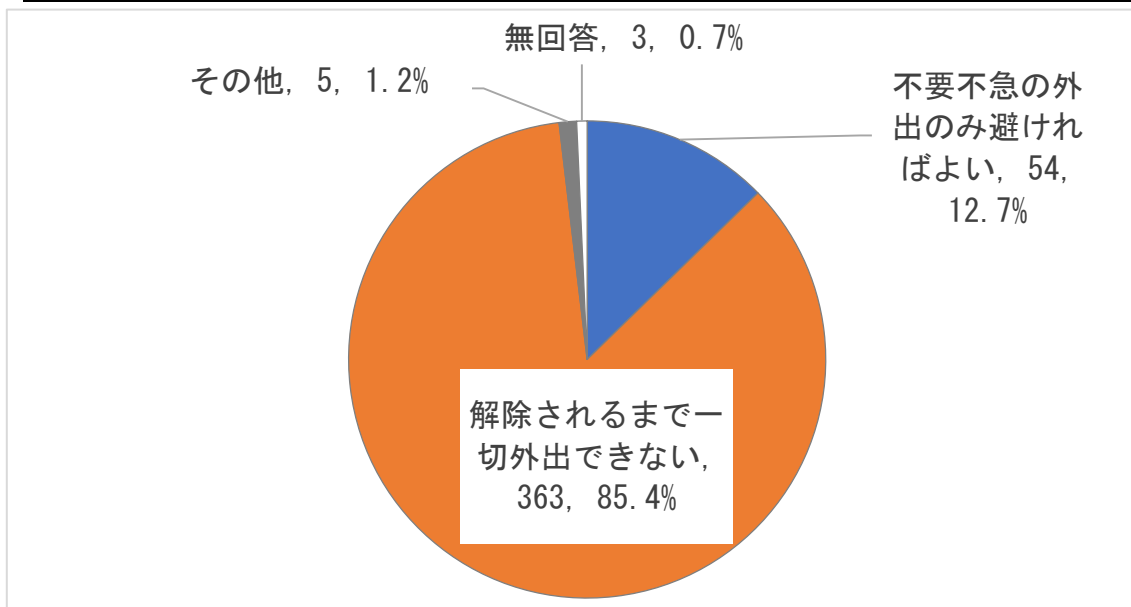
● 集計表

			原子力災害時の行動											
			全体	避難のために荷物をまとめる	家族に連絡する	外に出ないようにする	家の中に放射性物質が入らないようにする	実際にどこかに避難する	子どもを外に出さないようにする	急いで食料や水などを買いに行く	すぐにシャワーを浴びたり、手を洗う	特別なことは何もしない	その他	無回答
放射線量	全体	件数	425	271	267	257	227	87	75	33	12	4	16	8
		%	100.0	63.8	62.8	60.5	53.4	20.5	17.6	7.8	2.8	0.9	3.8	1.9
	よく知っている	件数	15	7	9	8	9	1	-	3	-	1	3	-
		%	100.0	46.7	60.0	53.3	60.0	6.7	-	20.0	-	6.7	20.0	-
	知っている	件数	48	27	31	24	31	14	8	6	3	1	3	-
		%	100.0	56.3	64.6	50.0	64.6	29.2	16.7	12.5	6.3	2.1	6.3	-
	知らない	件数	225	143	146	144	121	47	44	17	6	-	7	4
		%	100.0	63.6	64.9	64.0	53.8	20.9	19.6	7.6	2.7	-	3.1	1.8
	まったく知らない	件数	126	89	74	72	59	24	21	6	3	2	2	4
		%	100.0	70.6	58.7	57.1	46.8	19.0	16.7	4.8	2.4	1.6	1.6	3.2

問14 原子力災害時の「屋内退避」とはどのような行動だと思いますか（○は1つ）。

◆ 単純集計結果

・ 85.4%の回答者が、「解除されるまで一切外出できない」と回答している。実際には「不要不急の外出を避ける」という行動が求められていることを踏まえ、この点について、今後より一層の知識啓発を行うことが必要と考えられる。



● 集計表

分類	件数	%
いつもと同じように外出できる	0	0.0%
不要不急の外出のみ避ければよい	54	12.7%
解除されるまで一切外出できない	363	85.4%
その他	5	1.2%
無回答	3	0.7%
調査数	425	100.0%

● その他の回答（上記の選択肢に含まれるものでも、回答者の意思を尊重し、「その他」として集計している）

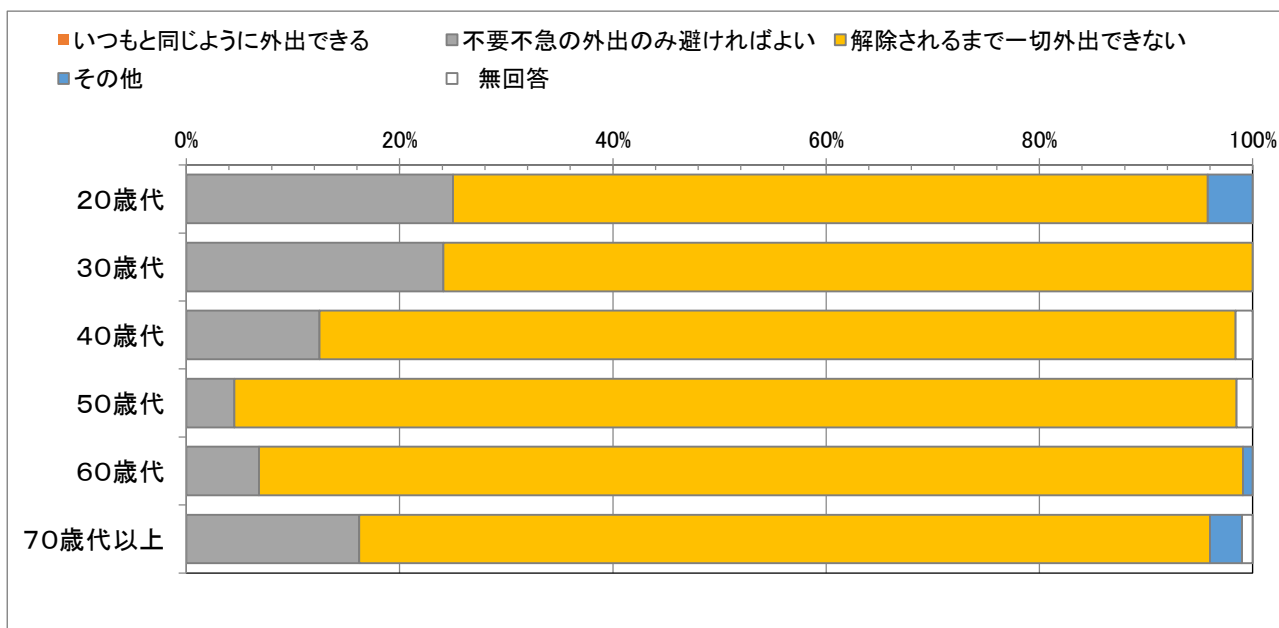
- ・ 放射能、チリ等侵入しない建物
- ・ 判断できません
- ・ 屋内に入り、外気が室内に入らないようにする。
- ・ 不要・不急の外出はしない
- ・ 風向きでどちらににげればよいか判断できたら外へでてにげよう

◆ クロス集計結果

年代

● 結果の概要

・ 年代別に見ると、50歳代、60歳代の回答者が他の世代と比較して「解除されるまで一切外出できない」と回答する傾向にある。



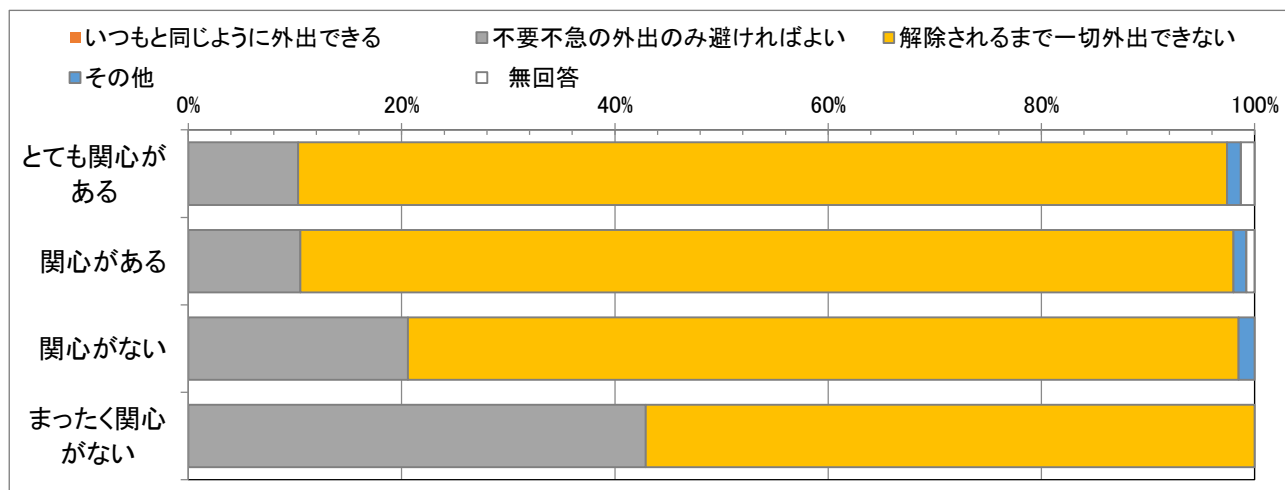
● 集計表

			「屋内退避」の理解度					
			全体	いつもと同じように外出できる	不要不急の外出のみ避ければよい	解除されるまで一切外出できない	その他	無回答
年齢	全体	件数	425	-	54	363	5	3
		%	100.0	-	12.7	85.4	1.2	0.7
	20歳代	件数	24	-	6	17	1	-
		%	100.0	-	25.0	70.8	4.2	-
	30歳代	件数	54	-	13	41	-	-
		%	100.0	-	24.1	75.9	-	-
	40歳代	件数	64	-	8	55	-	1
		%	100.0	-	12.5	85.9	-	1.6
	50歳代	件数	66	-	3	62	-	1
		%	100.0	-	4.5	93.9	-	1.5
	60歳代	件数	117	-	8	108	1	-
		%	100.0	-	6.8	92.3	0.9	-
	70歳代以上	件数	99	-	16	79	3	1
		%	100.0	-	16.2	79.8	3.0	1.0

関心の程度

● 結果の概要

- 関心の程度別に見ると、大きな差異は見られず、関心が高い方でも「解除されるまで一切外出できない」と回答する方が多い。「不要不急の外出を避ける」という行動が求められていることを踏まえ、この点について、今後より一層の知識啓発を行うことが必要と考えられる。



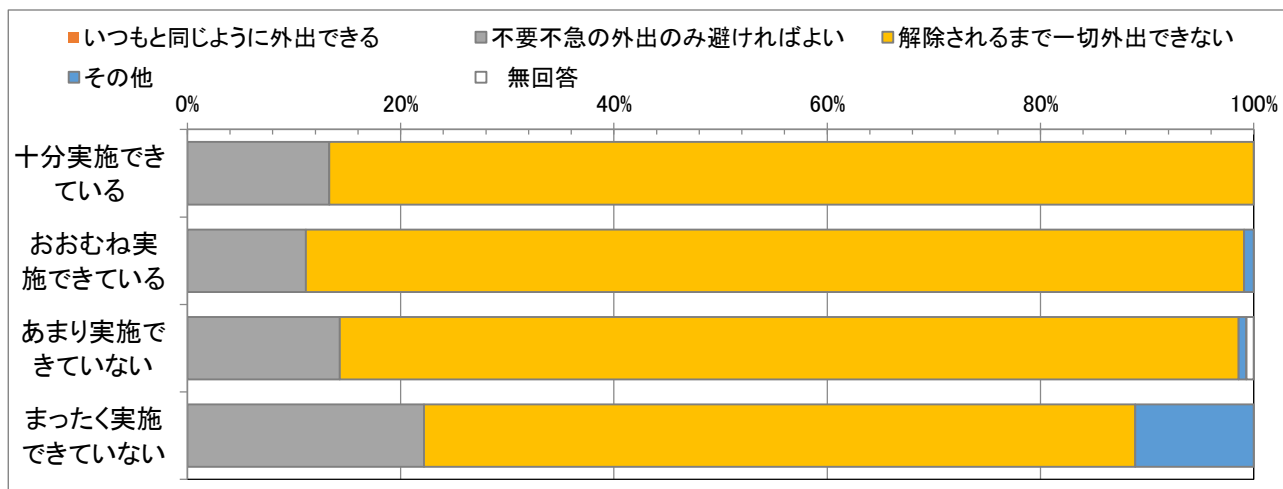
● 集計表

			「屋内退避」の理解度					
			全体	いつもと同じように外出できる	不要不急の外出のみ避ければよい	解除されるまで一切外出できない	その他	無回答
関心の程度	全体	件数	425	-	54	363	5	3
		%	100.0	-	12.7	85.4	1.2	0.7
	とても関心がある	件数	78	-	8	68	1	1
		%	100.0	-	10.3	87.2	1.3	1.3
	関心がある	件数	257	-	27	225	3	2
		%	100.0	-	10.5	87.5	1.2	0.8
	関心がない	件数	68	-	14	53	1	-
		%	100.0	-	20.6	77.9	1.5	-
まったく関心がない	件数	7	-	3	4	-	-	
	%	100.0	-	42.9	57.1	-	-	

取組の評価

● 結果の概要

- 取組の評価別に見ると、取組の評価度による大きな差異は見られない。



● 集計表

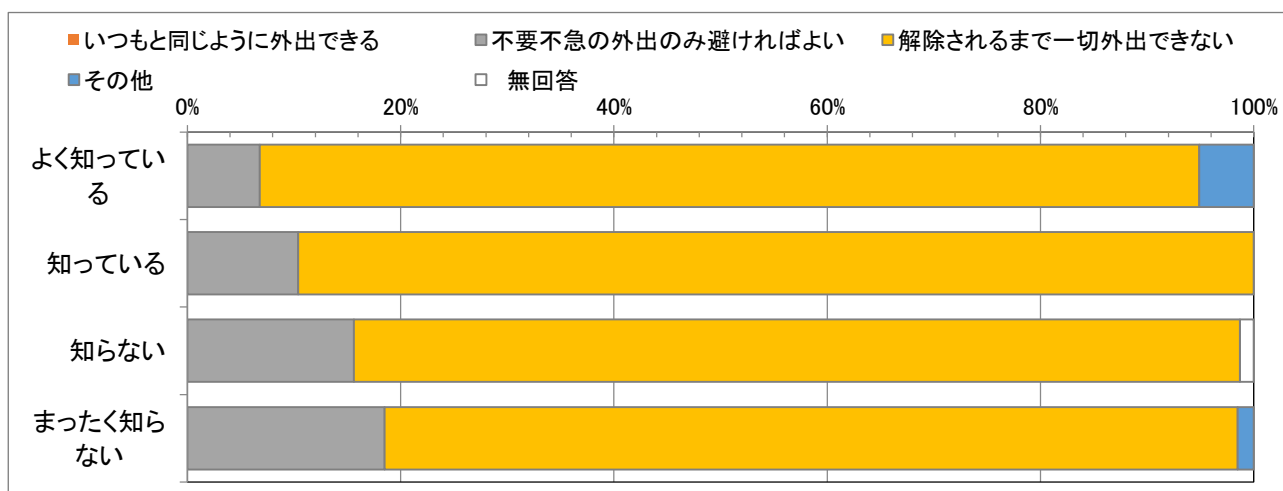
			「屋内退避」の理解度					
			全体	いつもと同じように外出できる	不要不急の外出のみ避ければよい	解除されるまで一切外出できない	その他	無回答
取組の評価	全体	件数	425	-	54	363	5	3
		%	100.0	-	12.7	85.4	1.2	0.7
	十分実施できている	件数	15	-	2	13	-	-
		%	100.0	-	13.3	86.7	-	-
	おおむね実施できている	件数	234	-	26	206	2	-
		%	100.0	-	11.1	88.0	0.9	-
	あまり実施できていない	件数	140	-	20	118	1	1
		%	100.0	-	14.3	84.3	0.7	0.7
まったく実施できていない	件数	18	-	4	12	2	-	
	%	100.0	-	22.2	66.7	11.1	-	

放射線に関する基礎知識(a~e)

● 結果の概要

- 各放射線の基礎知識の認知度別に見ると、認知度が低い方ほど、「不要不急の外出のみ避ければよい」を回答する傾向にあり、放射線に関する基礎知識の認知度が低いことにより、かえって正しい回答をしている。放射線に関する認知度が高い方でも正しく認識していないという点は大きな課題であり、今後より一層の知識啓発を行うことが必要と考えられる。

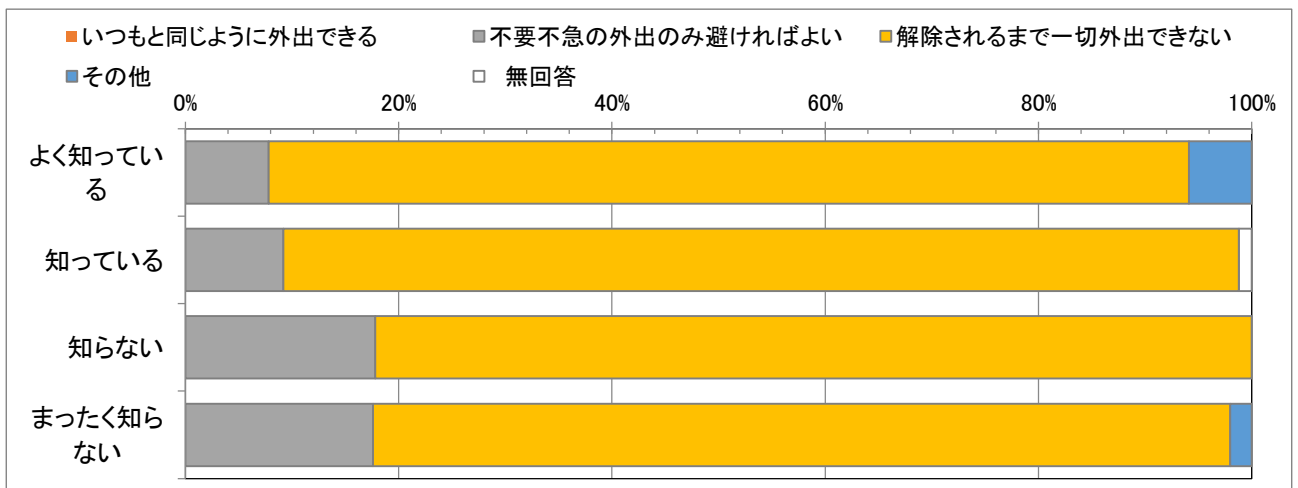
グラフ:a.外部被ばくと内部被ばくの違い



● 集計表

			「屋内退避」の理解度					
			全体	いつもと同じように外出できる	不要不急の外出のみ避ければよい	解除されるまで一切外出できない	その他	無回答
外部被ばくと内部被ばくの違い	全体	件数	425	-	54	363	5	3
		%	100.0	-	12.7	85.4	1.2	0.7
	よく知っている	件数	59	-	4	52	3	-
		%	100.0	-	6.8	88.1	5.1	-
	知っている	件数	135	-	14	121	-	-
		%	100.0	-	10.4	89.6	-	-
	知らない	件数	154	-	24	128	-	2
		%	100.0	-	15.6	83.1	-	1.3
	まったく知らない	件数	65	-	12	52	1	-
		%	100.0	-	18.5	80.0	1.5	-

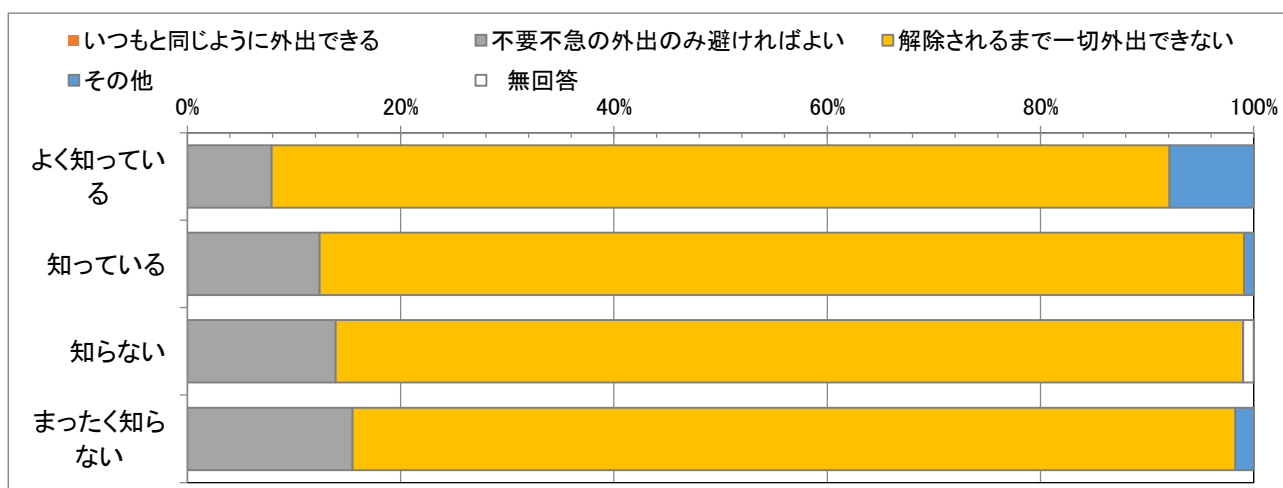
グラフ:b.被ばくと汚染の違い



● 集計表

			「屋内退避」の理解度					
			全体	いつもと同じように外出できる	不要不急の外出のみ避ければよい	解除されるまで一切外出できない	その他	無回答
被ばくと汚染の違い	全体	件数	425	-	54	363	5	3
		%	100.0	-	12.7	85.4	1.2	0.7
	よく知っている	件数	51	-	4	44	3	-
		%	100.0	-	7.8	86.3	5.9	-
	知っている	件数	163	-	15	146	-	2
		%	100.0	-	9.2	89.6	-	1.2
	知らない	件数	146	-	26	120	-	-
		%	100.0	-	17.8	82.2	-	-
	まったく知らない	件数	51	-	9	41	1	-
		%	100.0	-	17.6	80.4	2.0	-

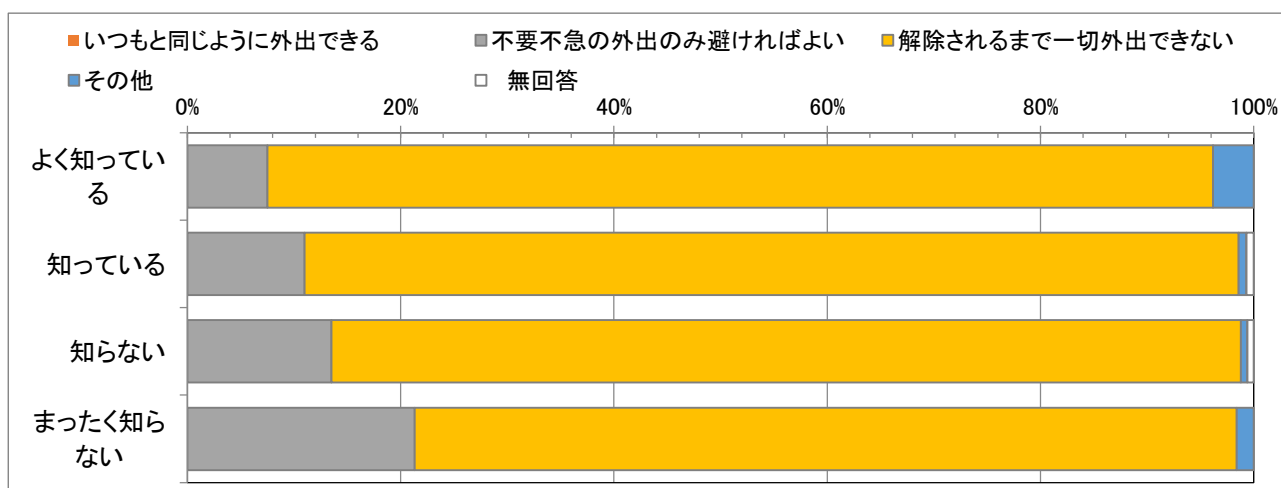
グラフ:c.大人と子どもへの放射線の影響の違い



● 集計表

			「屋内退避」の理解度					
			全体	いつもと同じように外出できる	不要不急の外出のみ避ければよい	解除されるまで一切外出できない	その他	無回答
大人と子どもへの放射線の影響の違い	全体	件数	425	-	54	363	5	3
		%	100.0	-	12.7	85.4	1.2	0.7
	よく知っている	件数	38	-	3	32	3	-
		%	100.0	-	7.9	84.2	7.9	-
	知っている	件数	113	-	14	98	1	-
		%	100.0	-	12.4	86.7	0.9	-
	知らない	件数	201	-	28	171	-	2
		%	100.0	-	13.9	85.1	-	1.0
	まったく知らない	件数	58	-	9	48	1	-
		%	100.0	-	15.5	82.8	1.7	-

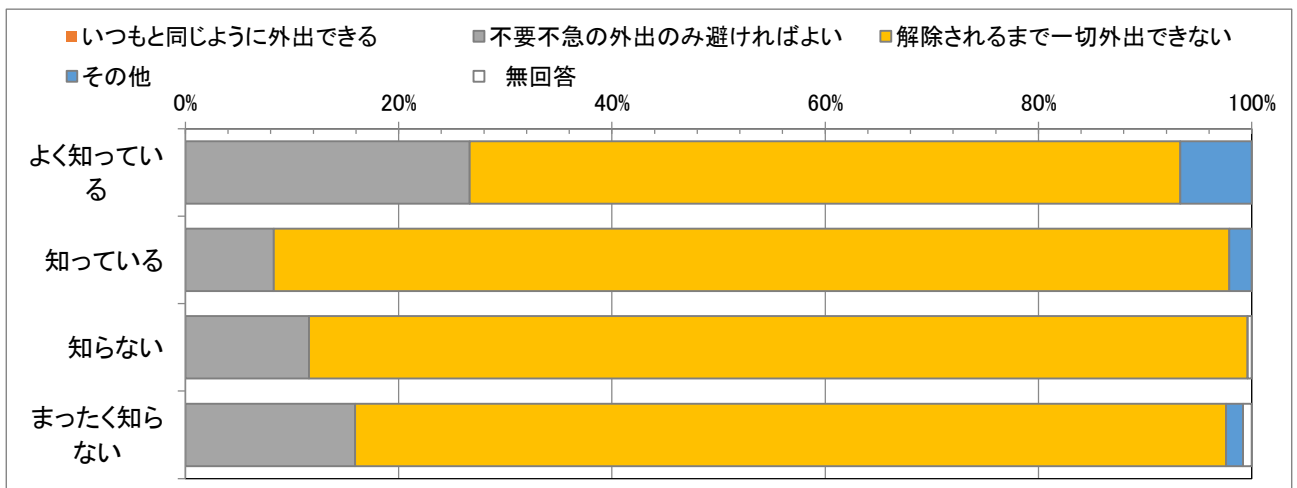
グラフ:d.放射線から身を守るための三原則:距離・時間・遮へい



● 集計表

			「屋内退避」の理解度					
			全体	いつもと同じように外出できる	不要不急の外出のみ避けられればよい	解除されるまで一切外出できない	その他	無回答
身を守るための三原則	全体	件数	425	-	54	363	5	3
		%	100.0	-	12.7	85.4	1.2	0.7
	よく知っている	件数	53	-	4	47	2	-
		%	100.0	-	7.5	88.7	3.8	-
	知っている	件数	145	-	16	127	1	1
		%	100.0	-	11.0	87.6	0.7	0.7
	知らない	件数	156	-	21	133	1	1
		%	100.0	-	13.5	85.3	0.6	0.6
	まったく知らない	件数	61	-	13	47	1	-
		%	100.0	-	21.3	77.0	1.6	-

グラフ:e.普段の自宅周辺の放射線量



● 集計表

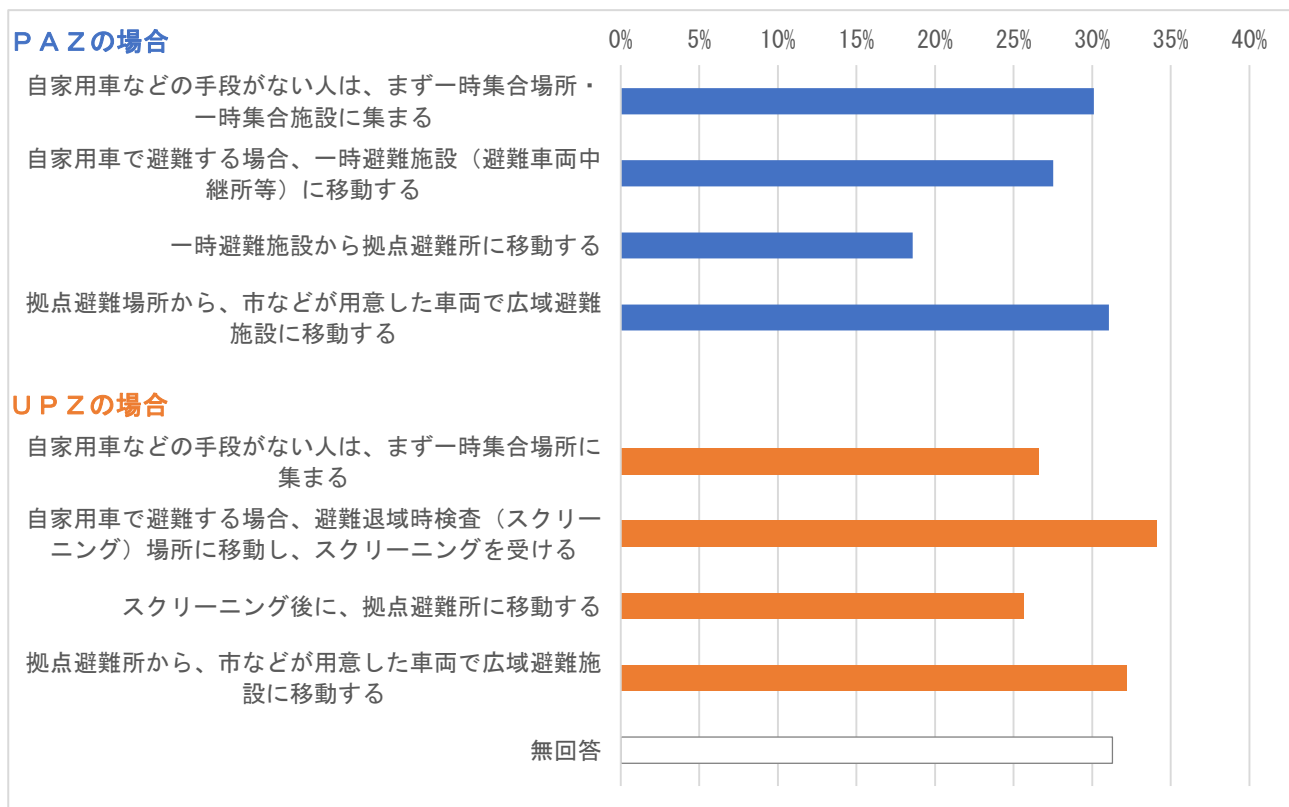
			「屋内退避」の理解度					
			全体	いつもと同じように外出できる	不要不急の外出のみ避ければよい	解除されるまで一切外出できない	その他	無回答
普段の自宅周辺の放射線量	全体	件数	425	-	54	363	5	3
		%	100.0	-	12.7	85.4	1.2	0.7
	よく知っている	件数	15	-	4	10	1	-
		%	100.0	-	26.7	66.7	6.7	-
	知っている	件数	48	-	4	43	1	-
		%	100.0	-	8.3	89.6	2.1	-
	知らない	件数	225	-	26	198	-	1
		%	100.0	-	11.6	88.0	-	0.4
	まったく知らない	件数	126	-	20	103	2	1
		%	100.0	-	15.9	81.7	1.6	0.8

問15 万が一、原子力災害時に広域避難が必要になった際には、次のように避難を行います。PAZとUPZの両方の場合について、ご存じのものに○を付けてください（あてはまるものすべてに○）。

◆ 単純集計結果

● 結果の概要

- ・ PAZ の場合、「拠点避難場所から、市などが用意した車両で広域避難施設に移動する」が 31.1%と認知度が最も高く、「一時避難施設から拠点避難所に移動する」が 18.6%と最も低い。
- ・ UPZ の場合、「自家用車で避難する場合、避難退域時検査（スクリーニング）場所に移動し、スクリーニングを受ける」が最も高く 34.1%であり、「スクリーニング後に、拠点避難所に移動する」が最も低く 25.6%である。
- ・ PAZ と UPZ の回答率を比較すると、「自家用車などの手段がない人は、まず一時集合場所に集まる」を除き、UPZ の回答率の方が高い傾向にある。
- ・ PAZ の場合も UPZ の場合も、最初にとる避難行動や最終的な避難行動に比べ途中の避難行動の認知度が比較的低い。途中の動きを知る住民が少なくても、一時集合場所（施設）に集まりさえすれば誘導できるように、担当部署以外の市の職員も避難方法を把握しておくことが必要となる。
- ・ 26.6%の回答者が無回答であった。広域避難の避難方法について、具体的な知識を持っていない市民が多いことが示唆される。避難訓練等は実施されているが、住民が積極的に参加しているわけではなく、自分事として捉えられていないことなどが要因として考えられる。そのため、住民が自分事として捉えることのできる工夫を行う必要がある。また、広域避難等についての周知の頻度を上げることに加え、分かりやすい言葉遣い（PAZ や UPZ などの略号ではわかりにくいという声もある）での広報などの工夫も必要と考えられる。



● 集計表

分類		件数	%
PAZの場合	自家用車などの手段がない人は、まず一時集合場所・一時集合施設に集まる	128	30.1%
	自家用車で避難する場合、一時避難施設（避難車両中継所等）に移動する	117	27.5%
	一時避難施設から拠点避難所に移動する	79	18.6%
	拠点避難場所から、市などが用意した車両で広域避難施設に移動する	132	31.1%
UPZの場合	自家用車などの手段がない人は、まず一時集合場所に集まる	113	26.6%
	自家用車で避難する場合、避難退域時検査（スクリーニング）場所に移動し、スクリーニングを受ける	145	34.1%
	スクリーニング後に、拠点避難所に移動する	109	25.6%
	拠点避難所から、市などが用意した車両で広域避難施設に移動する	137	32.2%
無回答		113	26.6%
調査数		425	100.0%

◆ クロス集計結果

年代

● 結果の概要

- ・ 年代別に見ると、20歳代、30歳代、40歳代、50歳代の回答者は全体と比較して、多くの項目で回答率が低い。一方、60歳代、70歳代以上は、全体と比較して、多くの項目で回答率が高い。
- ・ PAZとUPZともに、60歳代の回答者の「拠点避難場所から、市などが用意した車両で広域避難施設に移動する」への回答率が最も高い。一方、30歳代の回答者の「拠点避難場所から、市などが用意した車両で広域避難施設に移動する」への回答率が最も低い。
- ・ 40代の回答者が無回答とした割合が、50%と非常に高い。

● 集計表

		全体	PAZ					UPZ					無回答
			合施設に集まる	自家用車などの手段がない人は、まず一時集合場所・一時集合施設に集まる	自家用車で避難する場合、一時避難施設(避難車両中継所等)に移動する	一時避難施設から拠点避難所に移動する	拠点避難場所から、市などが用意した車両で広域避難施設に移動する	自家用車などの手段がない人は、まず一時集合場所に集まる	受け取る	退域時検査(スクリーニング)場所に移動し、スクリーニングを受ける	スクリーニング後に、拠点避難所に移動する	拠点避難場所から、市などが用意した車両で広域避難施設に移動する	
年齢	全体	件数	425	128	117	79	132	113	145	109	137	133	
		%	100.0	30.1	27.5	18.6	31.1	26.6	34.1	25.6	32.2	31.3	
	20歳代	件数	24	7	8	4	7	7	4	4	6	10	
		%	100.0	29.2	33.3	16.7	29.2	29.2	16.7	16.7	25.0	41.7	
	30歳代	件数	54	11	12	10	6	12	16	9	6	23	
		%	100.0	20.4	22.2	18.5	11.1	22.2	29.6	16.7	11.1	42.6	
	40歳代	件数	64	17	15	10	9	15	17	13	9	32	
		%	100.0	26.6	23.4	15.6	14.1	23.4	26.6	20.3	14.1	50.0	
	50歳代	件数	66	21	14	12	18	19	17	14	18	25	
		%	100.0	31.8	21.2	18.2	27.3	28.8	25.8	21.2	27.3	37.9	
	60歳代	件数	117	33	37	22	51	26	49	36	58	21	
		%	100.0	28.2	31.6	18.8	43.6	22.2	41.9	30.8	49.6	17.9	
	70歳代以上	件数	99	38	31	21	40	33	42	33	39	22	
		%	100.0	38.4	31.3	21.2	40.4	33.3	42.4	33.3	39.4	22.2	

居住地域（発電所からの距離）

● 結果の概要

- ・ 発電所からの距離別に見ると、若干ではあるが10km以内の回答者の方が、PAZの場合の避難方法について知っている傾向にある。

● 集計表

		PAZ						UPZ				
		全体	自家用車などの手段がない人は、まず一時集合場所に一時集合施設に集まる	自家用車で避難する場合、一時避難施設（避難車両中継所等）に移動する	一時避難施設から拠点避難所に移動する	拠点避難場所から、市などが用意した車両で広域避難施設に移動する	自家用車などの手段がない人は、まず一時集合場所に集まる	自家用車で避難する場合、避難退域時検査（スクリーニング）場所に移動しスクリーニングを受ける	スクリーニング後に、拠点避難所に移動する	拠点避難所から、市などが用意した車両で広域避難施設に移動する	無回答	
発電所からの距離	全体	件数	425	128	117	79	132	113	145	109	137	133
		%	100.0	30.1	27.5	18.6	31.1	26.6	34.1	25.6	32.2	31.3
	10km以内	件数	86	31	26	16	30	27	29	22	27	24
		%	100.0	36.0	30.2	18.6	34.9	31.4	33.7	25.6	31.4	27.9
	10km以遠	件数	339	97	91	63	102	86	116	87	110	109
		%	100.0	28.6	26.8	18.6	30.1	25.4	34.2	25.7	32.4	32.2

原子力防災の関心の程度

● 結果の概要

- ・ 関心の程度別にみると、関心が高い参加者ほど各項目の回答率が高く、避難方法についての知識を有している傾向にある。

● 集計表

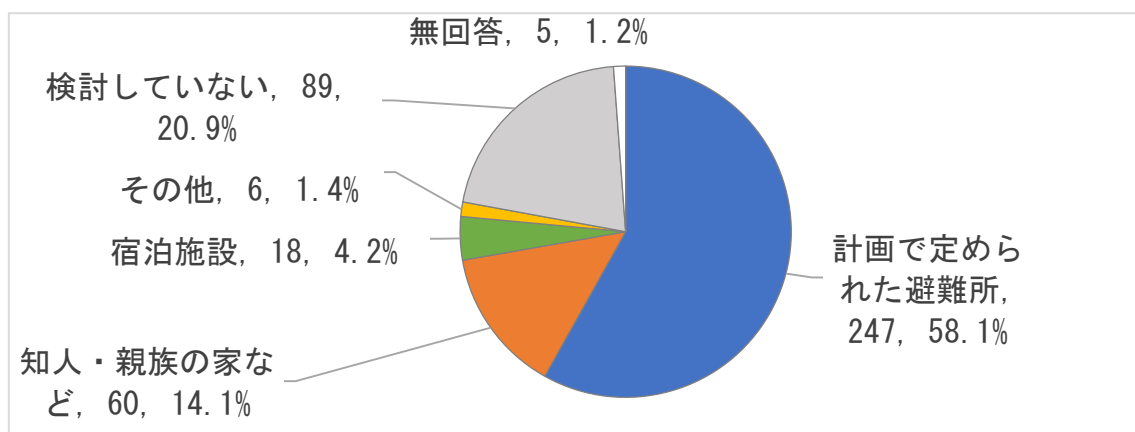
			全体	PAZ				UPZ				無回答
				自家用車などの手段がない人は、まず一時集合場所・一時集合施設に集まる	自家用車で避難する場合、一時避難施設(避難車両中継所等)に移動する	一時避難施設から拠点避難所に移動する	拠点避難場所から、市などが用意した車両で広域避難施設に移動する	自家用車などの手段がない人は、まず一時集合場所に集まる	自家用車で避難する場合、避難退域時検査(スクリーニング)場所に移動し、スクリーニングを受ける	スクリーニング後に、拠点避難所に移動する	拠点避難所から、市などが用意した車両で広域避難施設に移動する	
関心の程度	全体	件数	425	128	117	79	132	113	145	109	137	133
		%	100.0	30.1	27.5	18.6	31.1	26.6	34.1	25.6	32.2	31.3
	とても関心がある	件数	78	26	27	18	30	29	32	27	35	14
		%	100.0	33.3	34.6	23.1	38.5	37.2	41.0	34.6	44.9	17.9
	関心がある	件数	257	83	73	49	82	70	88	62	82	85
		%	100.0	32.3	28.4	19.1	31.9	27.2	34.2	24.1	31.9	33.1
	関心がな	件数	68	13	12	10	15	10	17	13	14	26
		%	100.0	19.1	17.6	14.7	22.1	14.7	25.0	19.1	20.6	38.2
	まったく関心がない	件数	7	1	-	1	-	1	1	-	-	5
		%	100.0	14.3	-	14.3	-	14.3	14.3	-	-	71.4

問16 原子力災害時の広域避難先として、お住まいの地区ごとに避難所が定められています。万が一、広域避難が必要となった場合、あなたはどこへ避難しますか（○は1つ）。

◆ 単純集計結果

● 結果の概要

- ・ 「計画で定められた避難所」の回答者が最も多く 58.1%、前回調査結果※（41.2%）より回答率が高くなっている。原子力災害住民避難計画が策定され、市民に具体的な避難所が周知されたことが影響していると考えられる。
- ・ 「知人・親族の家など」と回答した方は 14.1%で前回の調査結果（28.8%）より回答率が低下している。
- ・ 「宿泊施設」や「検討していない」と回答した方の回答率は、前回調査と同様の傾向である。



集計表

分類	件数	%
計画で定められた避難所	247	58.1%
知人・親族の家など	60	14.1%
宿泊施設	18	4.2%
その他	6	1.4%
検討していない	89	20.9%
無回答	5	1.2%
調査数	425	100.0%

● その他の回答

- ・ 愛犬がいるので一緒につれていける場所
- ・ 風向きで決めないと今は決められない

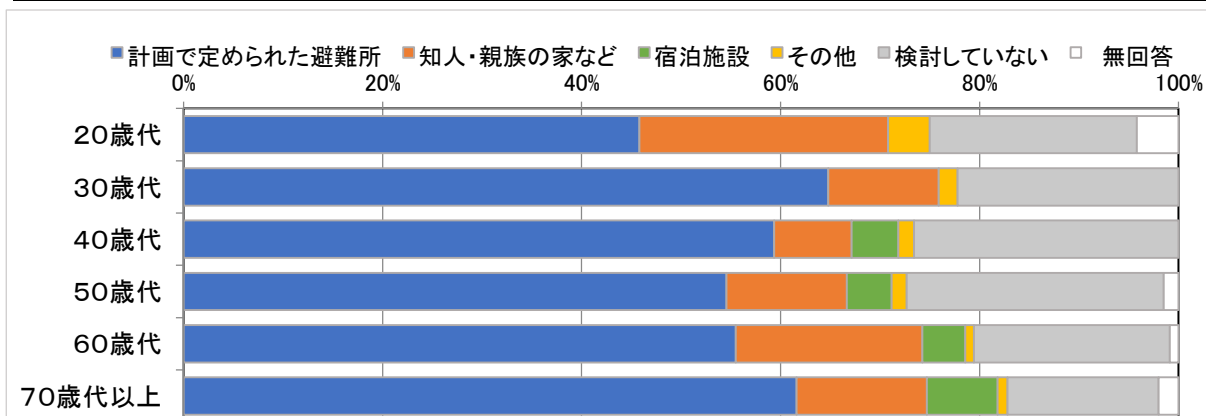
※原子力災害住民避難計画策定に伴い、選択肢を前回調査の「市が用意した避難所」から「計画で定められた避難所」と変更した。

◆ クロス集計結果

年代

● 結果の概要

・ 年代別に見ると、大きな差異は見られない。



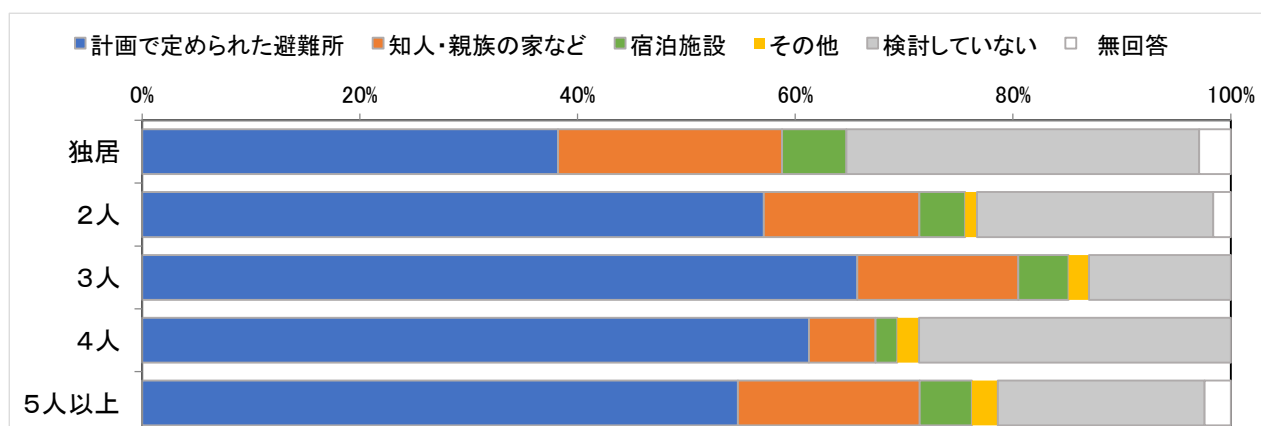
● 集計表

		広域避難先							
		全体	計画で定められた避難所	知人・親族の家など	宿泊施設	その他	検討していない	無回答	
年齢	全体	件数	425	247	60	18	6	89	5
		%	100.0	58.1	14.1	4.2	1.4	20.9	1.2
	20歳代	件数	24	11	6	-	1	5	1
		%	100.0	45.8	25.0	-	4.2	20.8	4.2
	30歳代	件数	54	35	6	-	1	12	-
		%	100.0	64.8	11.1	-	1.9	22.2	-
	40歳代	件数	64	38	5	3	1	17	-
		%	100.0	59.4	7.8	4.7	1.6	26.6	-
	50歳代	件数	66	36	8	3	1	17	1
		%	100.0	54.5	12.1	4.5	1.5	25.8	1.5
	60歳代	件数	117	65	22	5	1	23	1
		%	100.0	55.6	18.8	4.3	0.9	19.7	0.9
	70歳代以上	件数	99	61	13	7	1	15	2
		%	100.0	61.6	13.1	7.1	1.0	15.2	2.0

同居家族

● 結果の概要

- ・ ひとり暮らしの回答者は、「計画で定められた避難所」への回答率が低く、「知人・親族の家など」や「検討していない」への回答率が高い。ただし、回答者数が少ないため偏りが出ている可能性がある。



● 集計表

			広域避難先						
			全体	計画で定められた避難所	知人・親族の家など	宿泊施設	その他	検討していない	無回答
同居家族	全体	件数	425	247	60	18	6	89	5
		%	100.0	58.1	14.1	4.2	1.4	20.9	1.2
	独居	件数	34	13	7	2	-	11	1
		%	100.0	38.2	20.6	5.9	-	32.4	2.9
	2人	件数	189	108	27	8	2	41	3
		%	100.0	57.1	14.3	4.2	1.1	21.7	1.6
	3人	件数	108	71	16	5	2	14	-
		%	100.0	65.7	14.8	4.6	1.9	13.0	-
	4人	件数	49	30	3	1	1	14	-
		%	100.0	61.2	6.1	2.0	2.0	28.6	-
	5人以上	件数	42	23	7	2	1	8	1
		%	100.0	54.8	16.7	4.8	2.4	19.0	2.4

居住地域（発電所からの距離）

● 結果の概要

- ・ 発電所からの距離別では、傾向に差は見られない。

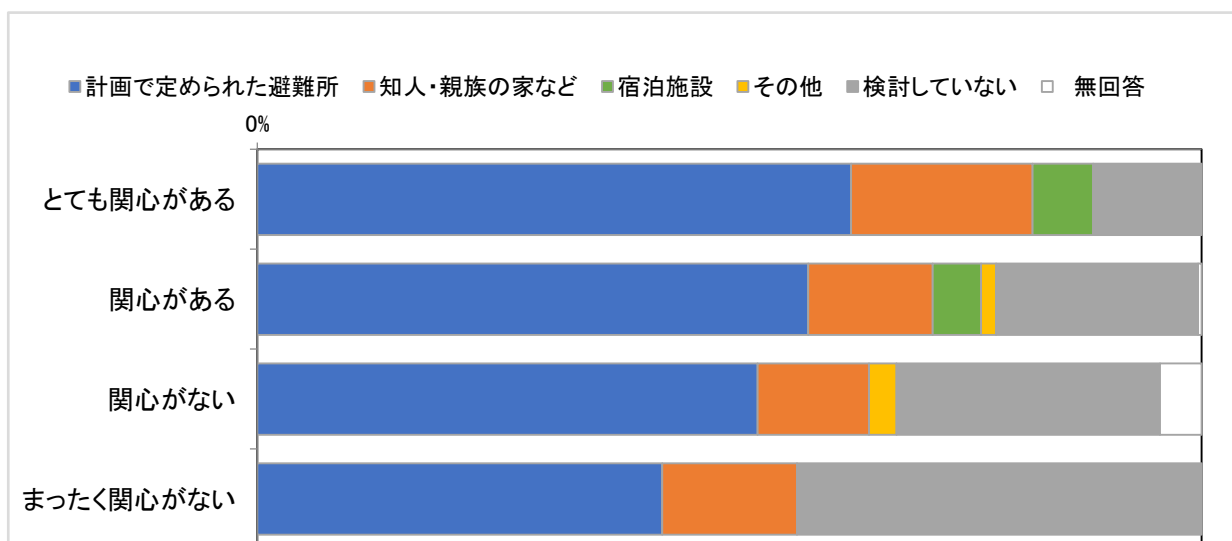
● 集計表

			広域避難先						
			全体	計画で定められた避難所	知人・親族の家など	宿泊施設	その他	検討していない	無回答
発電所からの距離	全体	件数	425	247	60	18	6	89	5
		%	100.0	58.1	14.1	4.2	1.4	20.9	1.2
	10km 以内	件数	86	50	15	3	-	18	-
		%	100.0	58.1	17.4	3.5	-	20.9	-
	10km 以遠	件数	339	197	45	15	6	71	5
		%	100.0	58.1	13.3	4.4	1.8	20.9	1.5

原子力防災への関心

● 結果の概要

- ・ 関心の程度別にみると、関心が高い方ほど「計画で定められた避難所」への回答率が高い。関心がある結果として、避難先についてもある程度具体的に考えており、「計画で定められた避難所」への避難を選択しているものと考えられる。



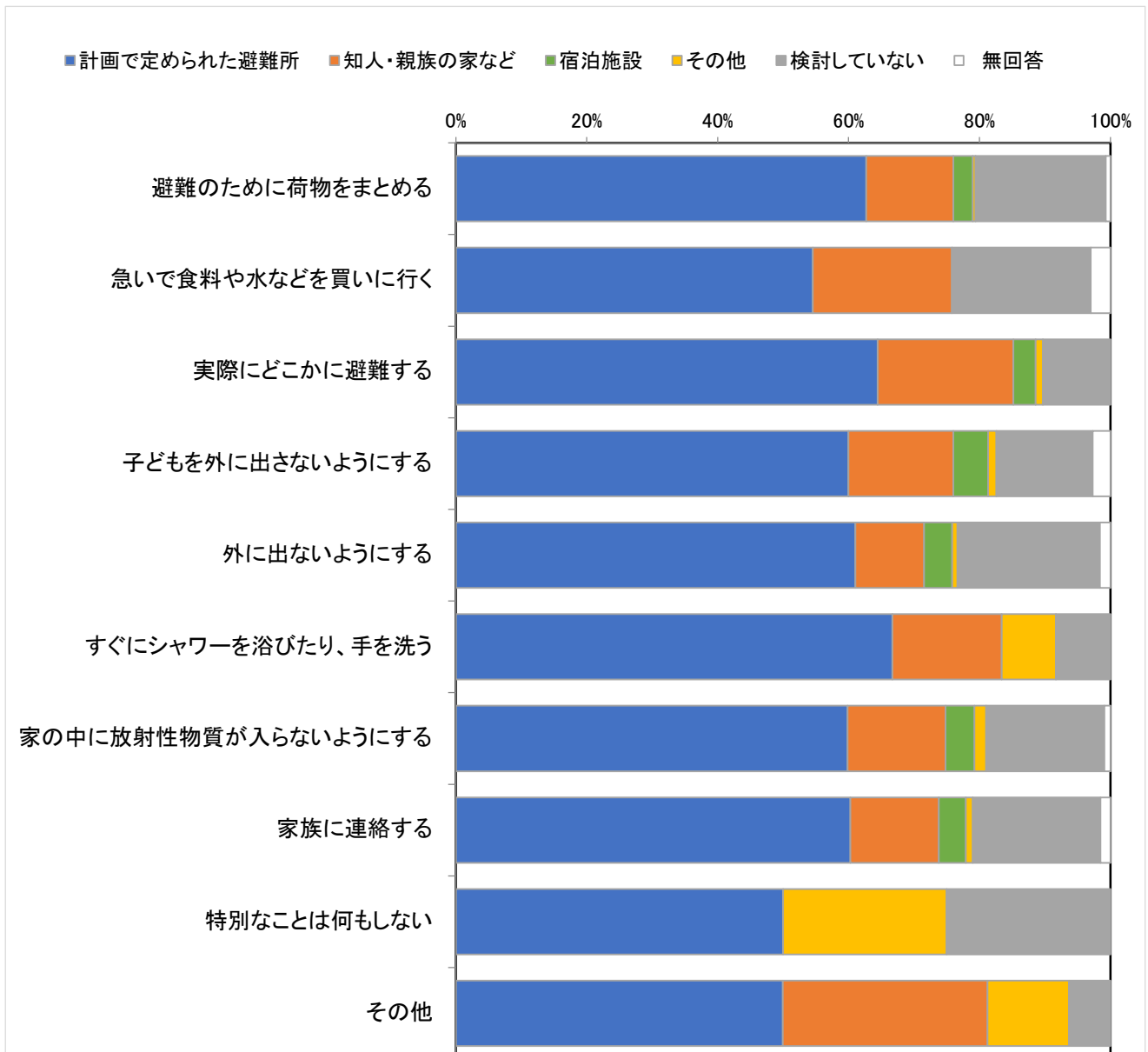
● 集計表

			広域避難先						
			全体	た 避 難 所	計 画 で 定 め ら れ	な ど	知 人 ・ 親 族 の 家	宿 泊 施 設	そ の 他
関 心 の 程 度	全 体	件数	425	247	60	18	6	89	5
		%	100.0	58.1	14.1	4.2	1.4	20.9	1.2
	とても関心が ある	件数	78	49	15	5	-	9	-
		%	100.0	62.8	19.2	6.4	-	11.5	-
	関心がある	件数	257	150	34	13	4	55	1
		%	100.0	58.4	13.2	5.1	1.6	21.4	0.4
	関心がない	件数	68	36	8	-	2	19	3
		%	100.0	52.9	11.8	-	2.9	27.9	4.4
	まったく関心 がない	件数	7	3	1	-	-	3	-
		%	100.0	42.9	14.3	-	-	42.9	-

原子力防災時の行動

● 結果の概要

- ・ 「実際にどこかに避難する」に着目すると、回答している場合は6割以上が「計画で定められた避難所」、約2割が「知人・親族の家など」と回答しており全体よりも回答率が高い。一方、回答していない場合、「検討していない」の回答率が約2割であり、全体よりも回答率が高い。



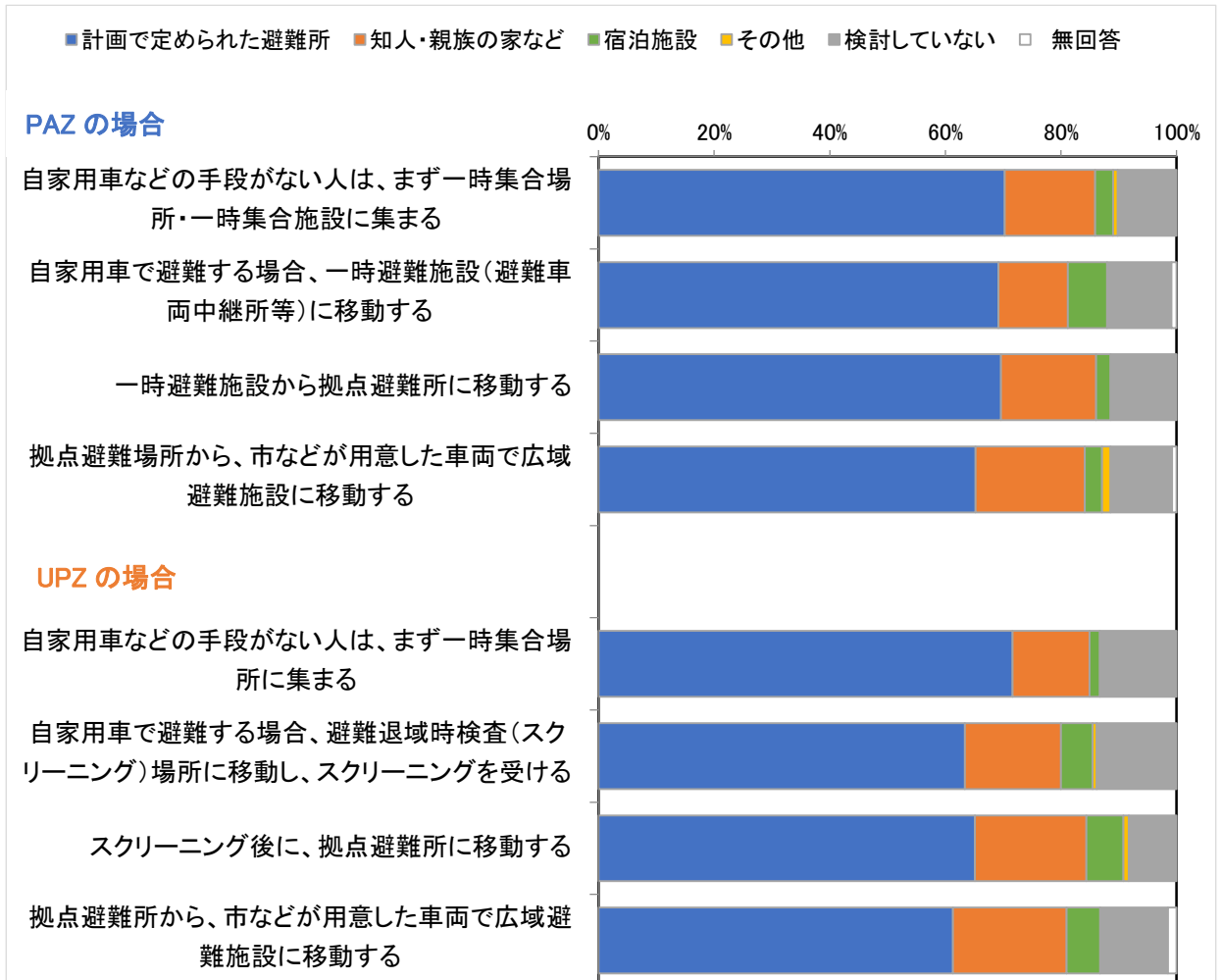
● 集計表（「実際にどこかに避難する」の回答の有無）

			広域避難先								
			全体	難 所	れ た 避	定 め ら	計 画 で	家 親 知 人 ・ な ど	設 宿 泊 施	そ の 他	い て い な し
実 際 に ど こ か に 避 難 す る	全体	件数	425		247		60	18	6	89	5
		%	100.0		58.1		14.1	4.2	1.4	20.9	1.2
	回答あり	件数	87		56		18	3	1	9	-
		%	100.0		64.4		20.7	3.4	1.1	10.3	-
	回答なし	件数	338		191		42	15	5	80	5
		%	100.0		56.5		12.4	4.4	1.5	23.7	1.5

広域避難時の避難方法

● 結果の概要

- ・ 広域避難時の避難方法について認知している人は、全体的に約6~7割が計画で定められた避難所に行くとは回答している。
- ・ 広域避難施設に移動していることを認知している回答者でも、知人・親族の家などに避難する方が2割程度いる。



● 集計表

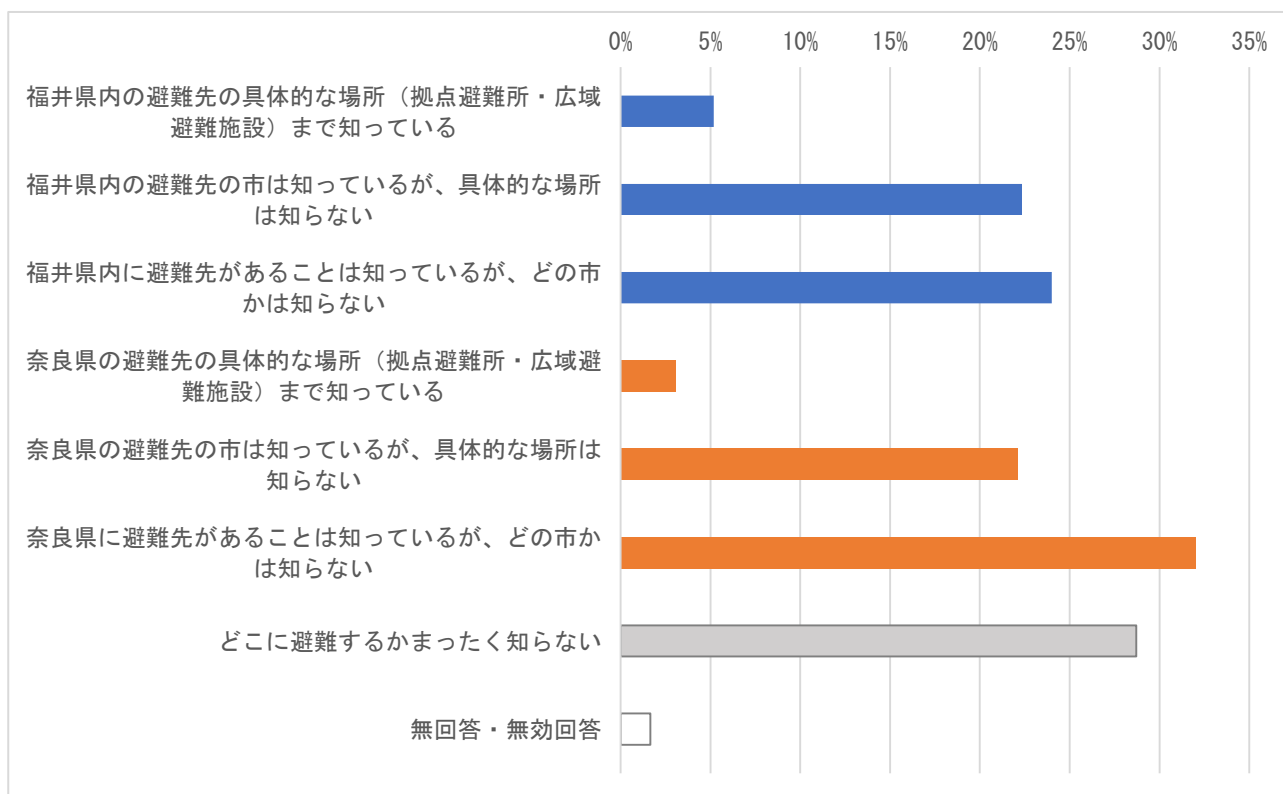
		広域避難先							
		全体	避難 所 め ら れ た 計 画 で 定	ど 族 の 家 な	知 人 ・ 親	宿 泊 施 設	そ の 他	検 討 し て い な い	無 回 答
PAZ	全体	件数	425	247	60	18	6	89	5
		%	100.0	58.1	14.1	4.2	1.4	20.9	1.2
	自家用車などの手段がない人は、まず一時集合場所・一時集合施設に集まる	件数	128	90	20	4	1	13	-
		%	100.0	70.3	15.6	3.1	0.8	10.2	-
	自家用車で避難する場合、一時避難施設（避難車両中継所等）に移動する	件数	117	81	14	8	-	13	1
		%	100.0	69.2	12.0	6.8	-	11.1	0.9
一時避難施設から拠点避難所に移動する	件数	79	55	13	2	-	9	-	
	%	100.0	69.6	16.5	2.5	-	11.4	-	
拠点避難場所から、市などが用意した車両で広域避難施設に移動する	件数	132	86	25	4	2	14	1	
	%	100.0	65.2	18.9	3.0	1.5	10.6	0.8	
UPZ	自家用車などの手段がない人は、まず一時集合場所に集まる	件数	113	81	15	2	-	15	-
		%	100.0	71.7	13.3	1.8	-	13.3	-
	自家用車で避難する場合、避難退域時検査（スクリーニング）場所に移動し、スクリーニングを受ける	件数	145	92	24	8	1	20	-
		%	100.0	63.4	16.6	5.5	0.7	13.8	-
	スクリーニング後に、拠点避難所に移動する	件数	109	71	21	7	1	9	-
		%	100.0	65.1	19.3	6.4	0.9	8.3	-
拠点避難所から、市などが用意した車両で広域避難施設に移動する	件数	137	84	27	8	-	16	2	
	%	100.0	61.3	19.7	5.8	-	11.7	1.5	

問 17 広域避難計画では、お住まいの地区ごとに福井県内と福井県外（奈良県）の2通りの広域避難先が定められており、原子力災害の状況に応じてどちらか指示された方に避難することになっています。広域避難先について、ご存じのものに○を付けてください（あてはまるものすべてに○）。

◆ 単純集計結果

● 結果の概要

- ・ 福井県内の避難先では、「避難先があることを知っているがどの市かは知らない」が24.0%と最も多く、次いで「避難先の市は知っているが、具体的な場所は知らない」が22.4%、「避難先の具体的な場所まで知っている」は5.2%だった。
- ・ 奈良県の避難先では、「避難先があることを知っているがどの市かは知らない」が32%と最も多く、次いで「避難先の市は知っているが、具体的な場所は知らない」が22.1%、「避難先の具体的な場所まで知っている」は3.1%だった。奈良県が避難先であることを知っている人の割合は、県内避難先を知っている人とはほぼ同じ割合であり、事前の想定より高い。
- ・ 福井県内、奈良県の広域避難先について、いずれも具体的な避難先までは知らない傾向にある。
- ・ 「どこに避難するかまったく知らない」と回答した割合は、28.7%だった。市民の約3割が避難先に関する知識を持っていないことから、今後より一層、避難先に関する周知啓発を行う必要があると考えられる。



● 集計表

	分類	件数	%
先 福井県内の避難	福井県内の避難先の具体的な場所（拠点避難所・広域避難施設）まで知っている	22	5.2%
	福井県内の避難先の市は知っているが、具体的な場所は知らない	95	22.4%
	福井県内に避難先があることは知っているが、どの市かは知らない	102	24.0%
奈良県の避難先	奈良県の避難先の具体的な場所（拠点避難所・広域避難施設）まで知っている	13	3.1%
	奈良県の避難先の市は知っているが、具体的な場所は知らない	94	22.1%
	奈良県に避難先があることは知っているが、どの市かは知らない	136	32.0%
	どこに避難するかまったく知らない※	122	28.7%
	無回答・無効回答	7	1.6%
	調査数	425	100.0%

※「福井県内に関する避難先」と「どこに避難するかまったく知らない」を複数選択、または「奈良県に関する避難先」と「どこに避難するかまったく知らない」を複数選択していた場合、「どこに避難するかまったく知らない」の回答を無効回答とし、「福井県内に関する避難先」または「奈良県に関する避難先」について知っているものとして集計した。

◆ クロス集計結果

年代

● 結果の概要

- ・ 20歳代、30歳代、40歳代は「どこに避難するかまったく知らない」の割合が高い。
- ・ 50歳代と60歳代は、「奈良県に避難先があることは知っているが、どの市かは知らない」の割合が他の年代と比較して高い。
- ・ 年齢層が低いほど関心が低く、広域避難先の知識を有していない割合が高くなっている。

● 集計表

		広域避難先の知識									
		全体	福井県内の避難先の具体的な場所(拠点避難所・広域避難施設)まで知っている	福井県内の避難先の市は知っているが、具体的な場所は知らない	福井県内に避難先があることは知っているが、どの市かは知らない	福井県内の避難先の具体的な場所(拠点避難所・広域避難施設)まで知っている	奈良県の避難先の市は知っているが、具体的な場所は知らない	奈良県に避難先があることは知っているが、どの市かは知らない	どこに避難するかまったく知らない	無回答	
年齢	全体	件数	425	22	95	102	13	94	136	122	7
		%	100.0	5.2	22.4	24.0	3.1	22.1	32.0	28.7	1.6
	20歳代	件数	24	1	2	7	-	3	3	12	1
		%	100.0	4.2	8.3	29.2	-	12.5	12.5	50.0	4.2
	30歳代	件数	54	1	7	13	-	4	13	27	1
		%	100.0	1.9	13.0	24.1	-	7.4	24.1	50.0	1.9
	40歳代	件数	64	1	13	11	1	9	15	30	-
		%	100.0	1.6	20.3	17.2	1.6	14.1	23.4	46.9	-
	50歳代	件数	66	4	14	12	1	12	27	20	1
		%	100.0	6.1	21.2	18.2	1.5	18.2	40.9	30.3	1.5
	60歳代	件数	117	9	29	35	5	31	47	21	-
		%	100.0	7.7	24.8	29.9	4.3	26.5	40.2	17.9	-
	70歳代以上	件数	99	6	30	23	6	35	30	12	4
		%	100.0	6.1	30.3	23.2	6.1	35.4	30.3	12.1	4.0

居住地域（発電所からの距離）

● 結果の概要

- ・ 発電所からの距離が10km以内の回答者は、10km以遠の回答者に比べて、避難先を認知している傾向にある。

● 集計表

			広域避難先の知識								
			全体	福井県内の避難先の具体的な場所（拠点避難所・広域避難施設）まで知っている	福井県内の避難先は知っているが、具体的な場所は知らない	福井県内の避難先があることは知っているが、どの市かは知らない	福井県内に避難先があることは知っているが、どの市かは知らない	奈良県の避難先の具体的な場所（拠点避難所・広域避難施設）まで知っている	奈良県の避難先の市は知っているが、具体的な場所は知らない	奈良県に避難先があることは知っているが、どの市かは知らない	どこに避難するかまったく知らない
発電所からの距離	全体	件数	425	22	95	102	13	94	136	122	7
		%	100.0	5.2	22.4	24.0	3.1	22.1	32.0	28.7	1.6
	10km 以内	件数	86	4	21	24	4	27	21	19	3
		%	100.0	4.7	24.4	27.9	4.7	31.4	24.4	22.1	3.5
	10km 以遠	件数	339	18	74	78	9	67	115	103	4
		%	100.0	5.3	21.8	23.0	2.7	19.8	33.9	30.4	1.2

原子力防災への関心

● 結果の概要

- 「関心がない」回答者は、「どこに避難するかまったく知らない」の回答率が約半数近くと、「とても関心がある」「関心がある」と回答した方に比べて、非常に高くなっている。原子力防災への関心の有無が、避難先の知識の有無に大きく影響していることが示唆される。

● 集計表

		広域避難先の知識									
		全体	福井県内の避難先の具体的な場所(拠点避難所・広域避難施設)まで知っている	福井県内の避難先の市は知っているが、具体的な場所は知らない	福井県内に避難先があることは知っているが、どの市かは知らない	福井県内に避難先があることは知っているが、どの市かは知らない	奈良県の避難先の具体的な場所(拠点避難所・広域避難施設)まで知っている	奈良県の避難先の市は知っているが、具体的な場所は知らない	奈良県に避難先があることは知っているが、どの市かは知らない	どこに避難するかまったく知らない	無回答
関心の程度	全体	件数	425	22	95	102	13	94	136	122	7
		%	100.0	5.2	22.4	24.0	3.1	22.1	32.0	28.7	1.6
	とても関心がある	件数	78	6	17	23	2	19	27	18	2
		%	100.0	7.7	21.8	29.5	2.6	24.4	34.6	23.1	2.6
	関心がある	件数	257	12	69	58	7	64	91	65	4
		%	100.0	4.7	26.8	22.6	2.7	24.9	35.4	25.3	1.6
	関心がない	件数	68	3	8	17	1	8	13	31	-
		%	100.0	4.4	11.8	25.0	1.5	11.8	19.1	45.6	-
	まったく関心がない	件数	7	-	-	-	1	-	-	6	-
		%	100.0	-	-	-	14.3	-	-	85.7	-

原子力災害時の行動

● 結果の概要

- ・ 「子どもを外に出さないようにする」と回答した人は、県内や奈良県に避難先があることは認知しているが、市町村や具体的な避難場所の認知度は低い。
- ・ 「急いで食料や水などを買いに行く」と「すぐにシャワーを浴びたり、手を洗う」等を選択し、原子力災害について意識が高い回答者は、避難先の知識を有している傾向がある。ただし、回答者数が少ないため偏りが出ている可能性がある。

● 集計表（「子どもを外に出さないようにする」の回答の有無）

		広域避難先の知識								
		全体	福井県内の避難先の具体的な場所（拠点避難所・広域避難施設）まで知っている	福井県内の避難先の市は知っているが、具体的な場所は知らない	福井県内に避難先があることは知っているが、どの市かは知らない	奈良県の避難先の具体的な場所（拠点避難所・広域避難施設）まで知っている	奈良県の避難先の市は知っているが、具体的な場所は知らない	奈良県に避難先があることは知っているが、どの市かは知らない	どこに避難するかまったく知らない	無回答
子どもを外に出さないようにする	全体	425	22	95	102	13	94	136	122	7
		100.0	5.2	22.4	24.0	3.1	22.1	32.0	28.7	1.6
	回答あり	75	2	11	24	2	13	25	22	2
		100.0	2.7	14.7	32.0	2.7	17.3	33.3	29.3	2.7
	回答なし	350	20	84	78	11	81	111	100	5
		100.0	5.7	24.0	22.3	3.1	23.1	31.7	28.6	1.4

● 集計表（全体）

			広域避難先の知識								無回答
			全体	福井県内の避難先の具体的な場所（拠点避難所・広域避難施設）まで知っている	福井県内の避難先の市は知っているが、具体的な場所は知らない	福井県内に避難先があることは知っているが、どの市かは知らない	奈良県の避難先の具体的な場所（拠点避難所・広域避難施設）まで知っている	奈良県の避難先の市は知っているが、具体的な場所は知らない	奈良県に避難先があることは知っているが、どの市かは知らない	どこに避難するかまったく知らない	
原子力	全体	件数	425	22	95	102	13	94	136	122	7
		%	100.0	5.2	22.4	24.0	3.1	22.1	32.0	28.7	1.6
	避難のために荷物をまとめる	件数	271	14	58	65	5	55	93	78	4
		%	100.0	5.2	21.4	24.0	1.8	20.3	34.3	28.8	1.5
	急いで食料や水などを買いに行く	件数	33	2	8	9	-	8	11	7	1
		%	100.0	6.1	24.2	27.3	-	24.2	33.3	21.2	3.0
	実際にどこかに避難する	件数	87	5	18	21	3	22	23	24	2
		%	100.0	5.7	20.7	24.1	3.4	25.3	26.4	27.6	2.3
	子どもを外に出さないようにする	件数	75	2	11	24	2	13	25	22	2
		%	100.0	2.7	14.7	32.0	2.7	17.3	33.3	29.3	2.7
	外に出ないようにする	件数	257	14	62	64	6	59	90	68	4
		%	100.0	5.4	24.1	24.9	2.3	23.0	35.0	26.5	1.6
	すぐにシャワーを浴びたり、手を洗う	件数	12	1	3	2	2	5	2	2	-
		%	100.0	8.3	25.0	16.7	16.7	41.7	16.7	16.7	-
	家の中に放射性物質が入らないようにする	件数	227	11	50	57	8	52	78	61	5
		%	100.0	4.8	22.0	25.1	3.5	22.9	34.4	26.9	2.2
	家族に連絡する	件数	267	11	64	64	7	61	82	83	3
		%	100.0	4.1	24.0	24.0	2.6	22.8	30.7	31.1	1.1
	特別なことは何もしない	件数	4	-	-	1	-	-	1	3	-
		%	100.0	-	-	25.0	-	-	25.0	75.0	-
その他	件数	16	3	3	4	3	6	2	3	-	
	%	100.0	18.8	18.8	25.0	18.8	37.5	12.5	18.8	-	

広域避難時の避難方法

● 結果の概要

- ・ 拠点避難所への避難を認知している方は、PAZ・UPZ ともに、多くの項目で全体よりも回答率が高い。しかし、広域避難先への理解は市町村レベルに留まっている。
- ・ 広域避難施設に移動すると回答した方は、他の項目を選択している方と比較すると、広域避難先を県レベルで認知している割合が高い。

● 集計表

		広域避難先の知識										
		全体	福井県内の避難先の具体的な場所(拠点避難所・広域避難施設)まで知っている	福井県内の避難先の市は知っているが、具体的な場所は知らない	福井県内に避難先があることは知っているが、どの市かは知らない	福井県内に避難先があることは知っているが、どの市かは知らない	奈良県の避難先の具体的な場所(拠点避難所・広域避難施設)まで知っている	奈良県の避難先の市は知っているが、具体的な場所は知らない	奈良県に避難先があることは知っているが、どの市かは知らない	どこに避難するかまったく知らない	無回答	
全体	件数	425	22	95	102	13	94	136	122	7		
	%	100.0	5.2	22.4	24.0	3.1	22.1	32.0	28.7	1.6		
PAZ	自家用車などの手段がない人は、まず一時集合場所・一時集合施設に集まる	件数	128	13	34	33	5	42	37	22	1	
		%	100.0	10.2	26.6	25.8	3.9	32.8	28.9	17.2	0.8	
	自家用車で避難する場合、一時避難施設(避難車両中継所等)に移動する	件数	117	11	45	34	4	44	33	17	1	
		%	100.0	9.4	38.5	29.1	3.4	37.6	28.2	14.5	0.9	
	一時避難施設から拠点避難所に移動する	件数	79	8	32	19	5	28	23	10	1	
		%	100.0	10.1	40.5	24.1	6.3	35.4	29.1	12.7	1.3	
	拠点避難場所から、市などが用意した車両で広域避難施設に移動する	件数	132	8	43	40	8	43	46	17	1	
		%	100.0	6.1	32.6	30.3	6.1	32.6	34.8	12.9	0.8	
	UPZ	自家用車などの手段がない人は、まず一時集合場所に集まる	件数	113	12	32	28	2	37	31	25	-
			%	100.0	10.6	28.3	24.8	1.8	32.7	27.4	22.1	-
自家用車で避難する場合、避難退域時検査(スクリーニング)場所に移動し、スクリーニングを受ける		件数	145	14	56	40	6	49	49	20	1	
		%	100.0	9.7	38.6	27.6	4.1	33.8	33.8	13.8	0.7	
スクリーニング後に、拠点避難所に移動する		件数	109	11	42	27	6	42	38	11	1	
		%	100.0	10.1	38.5	24.8	5.5	38.5	34.9	10.1	0.9	
拠点避難所から、市などが用意した車両で広域避難施設に移動する		件数	137	11	40	43	6	44	56	15	-	
		%	100.0	8.0	29.2	31.4	4.4	32.1	40.9	10.9	-	

広域避難先

● 結果の概要

- ・ 広域避難の際に、計画で定められた避難所へ行くと回答した方であっても、県内・県外に定められている避難先の「具体的な場所を知っている」と回答した割合は高くなっておらず、「避難先の市まで知っている」割合がやや高くなっていく程度である。
- ・ 広域避難先を検討していない方は、「どこに避難するかまったく知らない」の回答率が高い。

● 集計表

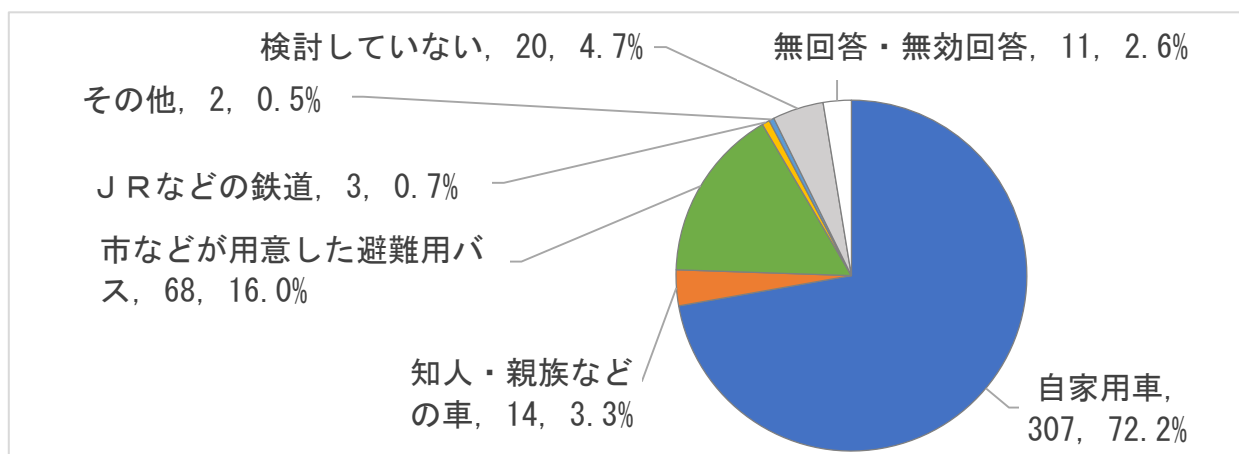
			広域避難先の知識								
			全体	福井県内の避難先の具体的な場所(拠点避難所・広域避難施設)まで知っている	福井県内の避難先の市は知っているが、具体的な場所は知らない	福井県内の避難先の市は知っているが、どの市かは知らない	福井県内に避難先があることは知っているが、どの市かは知らない	奈良県内に避難先があることは知っているが、具体的な場所(拠点避難所・広域避難施設)まで知っている	奈良県の避難先の市は知っているが、具体的な場所は知らない	奈良県に避難先があることは知っているが、どの市かは知らない	どこに避難するかまったく知らない
広域避難先	全体	件数	425	22	95	102	13	94	136	122	7
		%	100.0	5.2	22.4	24.0	3.1	22.1	32.0	28.7	1.6
	計画で定められた避難所	件数	247	15	74	54	6	64	75	60	2
		%	100.0	6.1	30.0	21.9	2.4	25.9	30.4	24.3	0.8
	知人・親族の家など	件数	60	4	3	23	2	15	21	15	2
		%	100.0	6.7	5.0	38.3	3.3	25.0	35.0	25.0	3.3
	宿泊施設	件数	18	2	7	6	-	8	6	2	1
		%	100.0	11.1	38.9	33.3	-	44.4	33.3	11.1	5.6
	その他	件数	6	-	1	2	2	1	2	1	-
		%	100.0	-	16.7	33.3	33.3	16.7	33.3	16.7	-
	検討していない	件数	89	1	10	17	3	5	31	42	1
		%	100.0	1.1	11.2	19.1	3.4	5.6	34.8	47.2	1.1

問18 計画では、広域避難の際には、自家用車等の乗り合いによる避難を原則としています。万が一、広域避難が必要となった場合、あなたはどの手段で避難しますか（〇は1つ）。

◆ 単純集計結果

● 結果の概要

- ・ 広域避難の際の避難手段として、「自家用車」で避難すると考えている回答者が最も多く72.2%である。次いで、「市などが用意した避難用バス」が16%、「知人・親族などの車」が3.3%で回答者の91.5%が車で避難することを想定している。前回調査では86.8%が車ででの避難を想定しており、前回同様の結果となった。
- ・ 市内の自家用車保有率が98%であり、敦賀市では自家用車の乗り合いを推奨しているが「自家用車」及び「知人・親族などの車」の回答率の合計が約75%である。避難時の自家用車の乗り合い推奨するため、広報方法・頻度等の検討が必要となる。



● 集計表

分類	件数	%
自家用車	307	72.2%
知人・親族などの車	14	3.3%
市などが用意した避難用バス	68	16.0%
JRなどの鉄道	3	0.7%
その他	2	0.5%
検討していない	20	4.7%
無回答・無効回答	11	2.6%
調査数	425	100.0%

● その他の回答

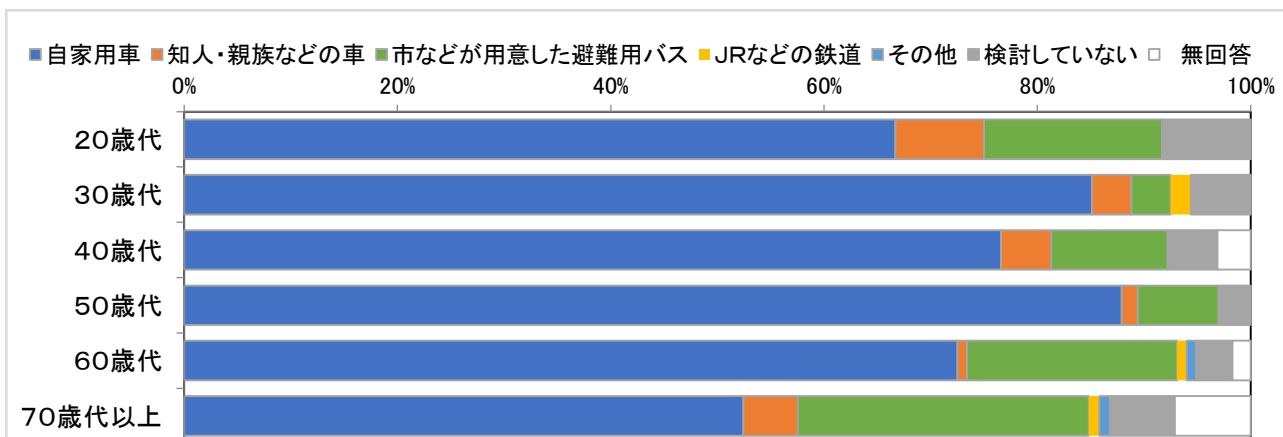
- ・ 現状の把握に努めて、広域避難に集中する
- ・ その時の事情によってどれにしたらよいかわからない(年寄りにはわからない)

◆ クロス集計結果

年代

● 結果の概要

・ 年代別に見ると、全世代で「自家用車」を選択する割合が最も高いが、60歳代や70歳代以上の回答者は、「自家用車」の割合が低くなり「市などが用意した避難用バス」の割合が高い。この傾向は、前回調査でも同様だった。



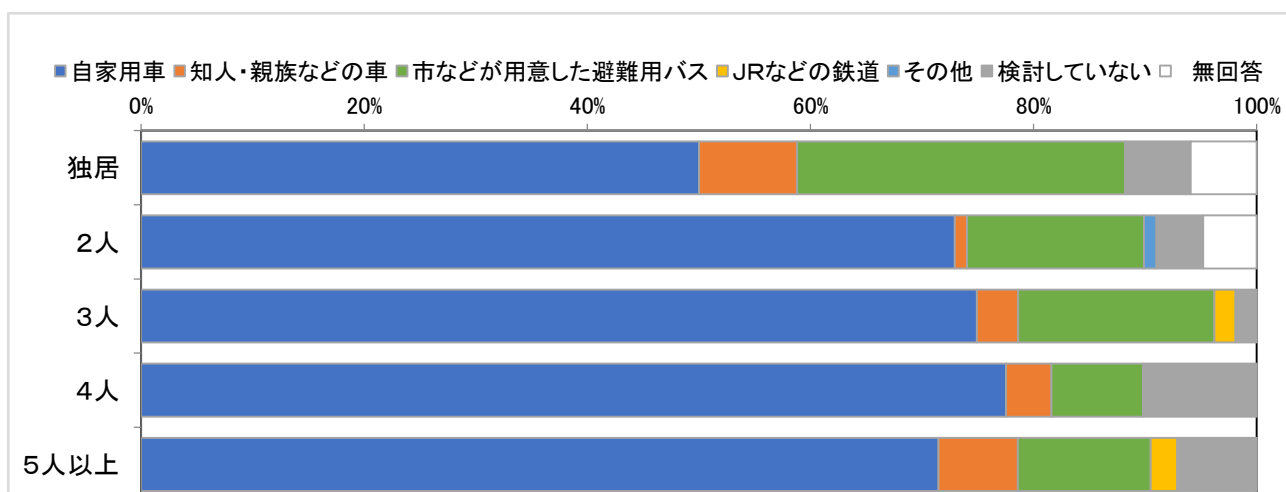
● 集計表

			避難手段							
			全体	自家用車	知人・親族などの車	市などが用意した避難用バス	JRなどの鉄道	その他	検討していない	無回答
年齢	全体	件数	425	307	14	68	3	2	20	11
		%	100.0	72.2	3.3	16.0	0.7	0.5	4.7	2.6
	20歳代	件数	24	16	2	4	-	-	2	-
		%	100.0	66.7	8.3	16.7	-	-	8.3	-
	30歳代	件数	54	46	2	2	1	-	3	-
		%	100.0	85.2	3.7	3.7	1.9	-	5.6	-
	40歳代	件数	64	49	3	7	-	-	3	2
		%	100.0	76.6	4.7	10.9	-	-	4.7	3.1
	50歳代	件数	66	58	1	5	-	-	2	-
		%	100.0	87.9	1.5	7.6	-	-	3.0	-
	60歳代	件数	117	85	1	23	1	1	4	2
		%	100.0	72.6	0.9	19.7	0.9	0.9	3.4	1.7
	70歳代以上	件数	99	52	5	27	1	1	6	7
		%	100.0	52.5	5.1	27.3	1.0	1.0	6.1	7.1

同居家族

● 結果の概要

- 同居家族の人数別に見ると、どの回答者も「自家用車」を選択する割合が最も高いが、ひとり暮らしの回答者は、「自家用車」の割合が低くなり「市などが用意した避難用バス」の割合が高い。この傾向は、前回調査でも同様だった。



● 集計表

			避難手段							
			全体	自家用車	知人・親族などの車	市などが用意した避難用バス	JRなどの鉄道	その他	検討していない	無回答
同居家族	全体	件数	425	307	14	68	3	2	20	11
		%	100.0	72.2	3.3	16.0	0.7	0.5	4.7	2.6
	独居	件数	34	17	3	10	-	-	2	2
		%	100.0	50.0	8.8	29.4	-	-	5.9	5.9
	2人	件数	189	138	2	30	-	2	8	9
		%	100.0	73.0	1.1	15.9	-	1.1	4.2	4.8
	3人	件数	108	81	4	19	2	-	2	-
		%	100.0	75.0	3.7	17.6	1.9	-	1.9	-
	4人	件数	49	38	2	4	-	-	5	-
		%	100.0	77.6	4.1	8.2	-	-	10.2	-
	5人以上	件数	42	30	3	5	1	-	3	-
		%	100.0	71.4	7.1	11.9	2.4	-	7.1	-

居住地域（発電所からの距離）

● 結果の概要

- ・ 10km以内の回答者は、10km以遠の回答者よりも市などが用意した避難用バスで避難する割合が高い。一方、10km以遠に居住している回答者は、10km以内の回答者よりも自家用車で避難する割合が高い。

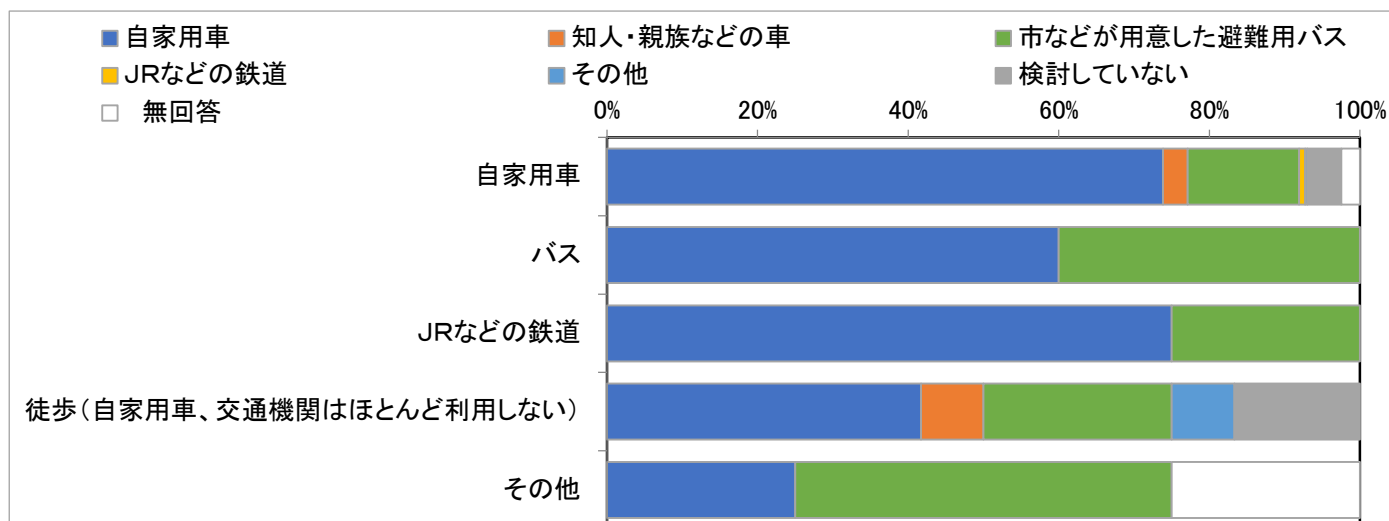
● 集計表

		避難手段								
		全体	自家用車	知人・親族などの車	市などが用意した避難用バス	JRなどの鉄道	その他	検討していない	無回答	
発電所からの距離	全体	件数	425	307	14	68	3	2	20	11
		%	100.0	72.2	3.3	16.0	0.7	0.5	4.7	2.6
	10km 以内	件数	86	57	3	18	-	-	4	4
		%	100.0	66.3	3.5	20.9	-	-	4.7	4.7
	10km 以遠	件数	339	250	11	50	3	2	16	7
		%	100.0	73.7	3.2	14.7	0.9	0.6	4.7	2.1

普段の移動手段

● 結果の概要

- ・ 普段の移動手段として「自家用車」「JR などの鉄道」を利用している回答者は、災害時にも「自家用車」を利用する割合が高い。一方、「バス」や「徒歩」を利用している回答者は、「自家用車」を利用する割合が低い。ただし、普段の移動手段として「JR などの鉄道」「バス」「徒歩」を選択した回答者は少ないため、偏りが出ている可能性がある。



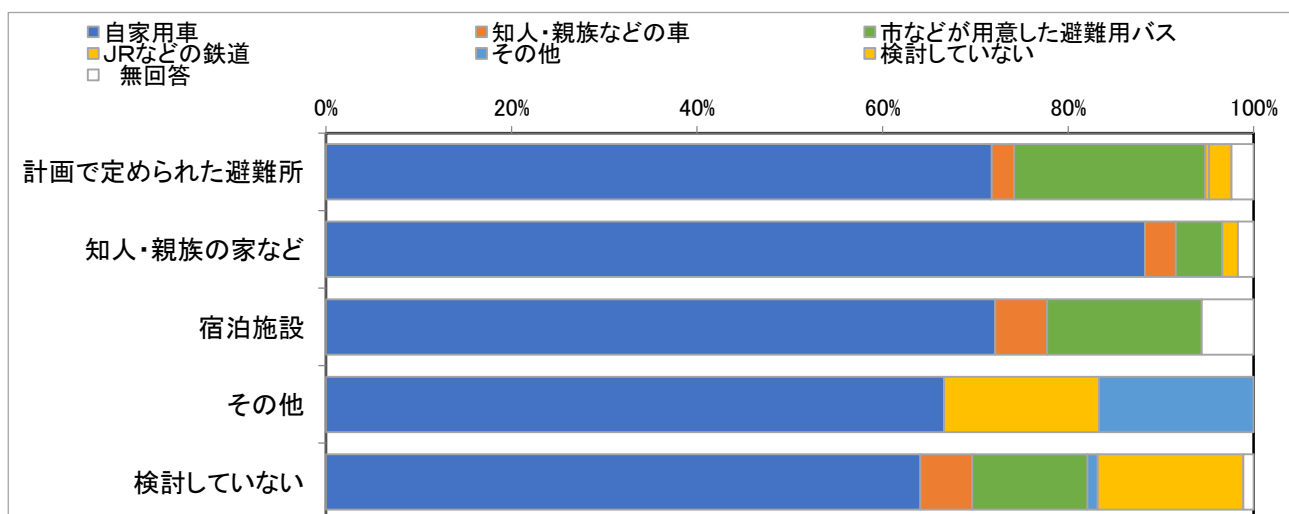
● 集計表

			避難手段							
			全体	自家用車	知人・親族 などの車	市などが 用意した 避難用バス	JRなどの 鉄道	その他	検討してい ない	無回答
普段利用する移動手段	全体	件数	425	307	14	68	3	2	20	11
		%	100.0	72.2	3.3	16.0	0.7	0.5	4.7	2.6
	自家用車	件数	398	294	13	59	3	1	18	10
		%	100.0	73.9	3.3	14.8	0.8	0.3	4.5	2.5
	バス	件数	5	3	-	2	-	-	-	-
		%	100.0	60.0	-	40.0	-	-	-	-
	JRなどの鉄 道	件数	4	3	-	1	-	-	-	-
		%	100.0	75.0	-	25.0	-	-	-	-
	徒歩(自家用 車、交通機関 はほとんど利 用しない)	件数	12	5	1	3	-	1	2	-
		%	100.0	41.7	8.3	25.0	-	8.3	16.7	-
	その他	件数	4	1	-	2	-	-	-	1
		%	100.0	25.0	-	50.0	-	-	-	25.0

広域避難時の避難先

● 結果の概要

- ・ 避難先別に見ると、どの回答者も「自家用車」を選択する割合が最も高いが、特に「知人・親族の家など」への避難を予定している回答者は、「自家用車」を選択する割合が高い。
- ・ 「計画で定められた避難所」を選択している回答者は、「市などが用意した避難用バス」を選択する割合が高い。



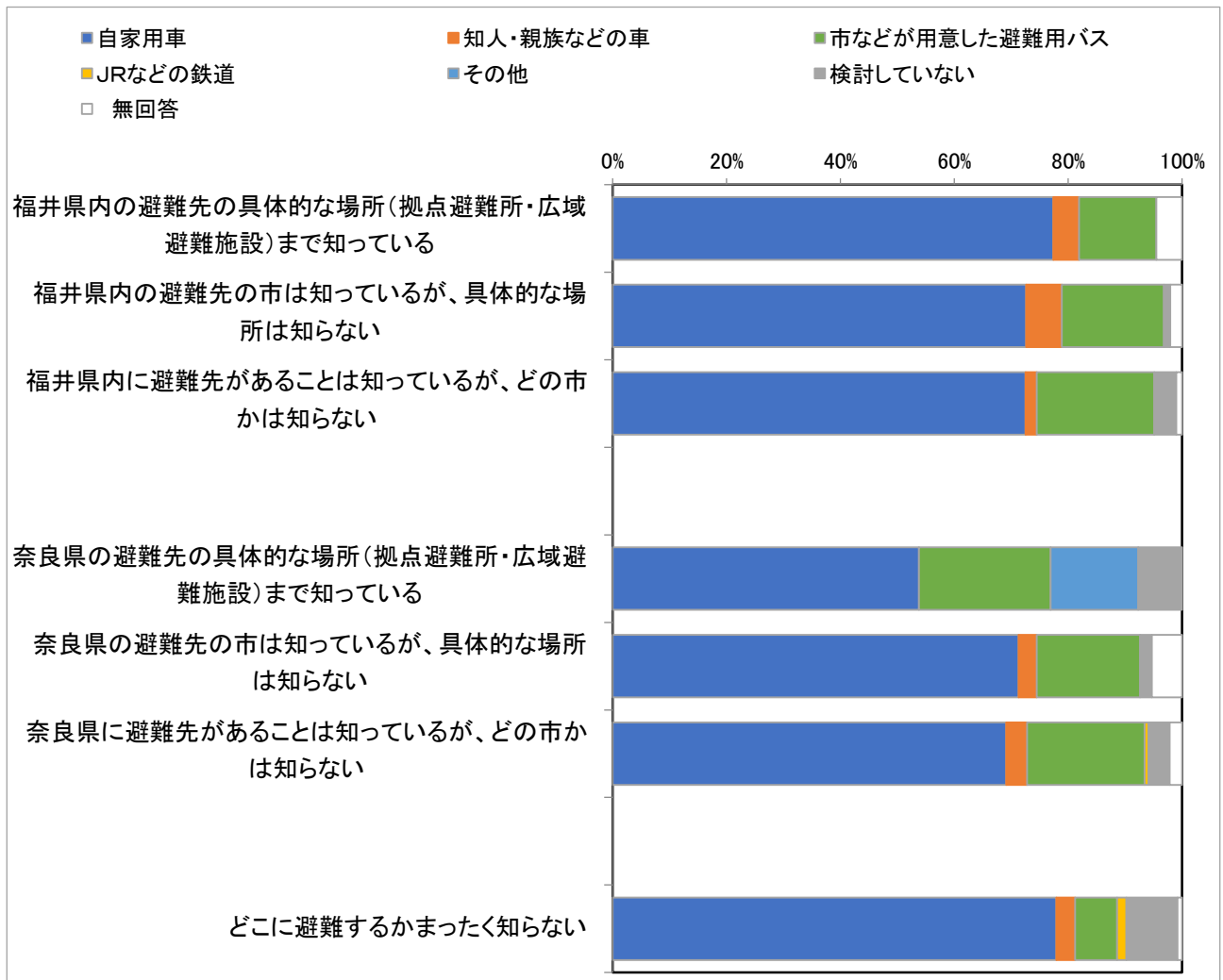
● 集計表

		避難手段								
		全体	自家用車	知人・親族などの車	市などが用意した避難用バス	JRなどの鉄道	その他	検討していない	無回答	
広域避難先	全体	件数	425	307	14	68	3	2	20	11
		%	100.0	72.2	3.3	16.0	0.7	0.5	4.7	2.6
	計画で定められた避難所	件数	247	177	6	51	1	-	6	6
		%	100.0	71.7	2.4	20.6	0.4	-	2.4	2.4
	知人・親族の家など	件数	60	53	2	3	1	-	-	1
		%	100.0	88.3	3.3	5.0	1.7	-	-	1.7
	宿泊施設	件数	18	13	1	3	-	-	-	1
		%	100.0	72.2	5.6	16.7	-	-	-	5.6
	その他	件数	6	4	-	-	1	1	-	-
		%	100.0	66.7	-	-	16.7	16.7	-	-
検討していない	件数	89	57	5	11	-	1	14	1	
	%	100.0	64.0	5.6	12.4	-	1.1	15.7	1.1	

広域避難先への知識

● 結果の概要

- ・ 広域避難時の避難先を認知している回答者は、多くが自家用車での避難を予定している。
- ・ 避難先について認知している方は、どこに避難するかまったく分からない方よりも避難用バスを選択する割合が高い。特に、奈良県の具体的な避難先を知っている人は、避難用バスと回答している割合が高い。



● 集計表

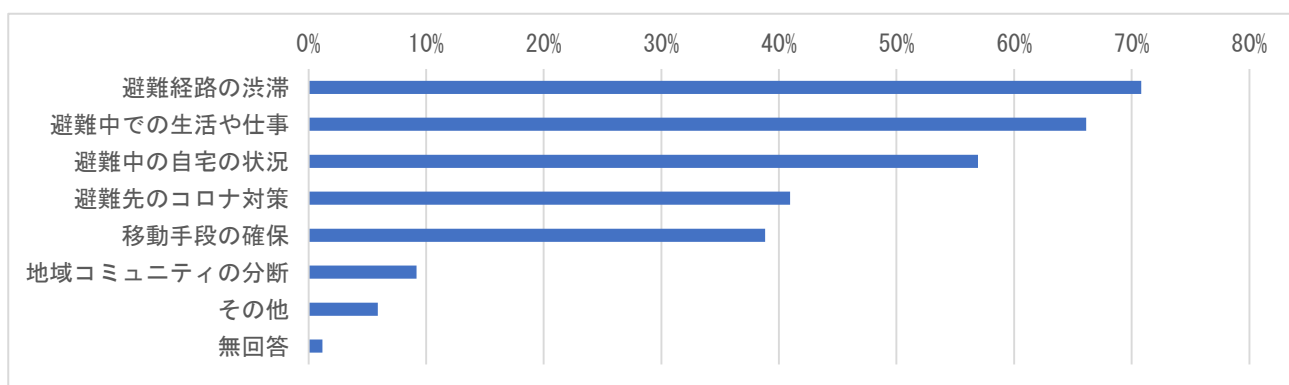
			避難手段							
			全体	自家用車	知人・親族 などの車	市などが用 意した避難 用バス	JRなどの 鉄道	その他	検討してい ない	無回答
広域避難先の知識	全体	件数	425	307	14	68	3	2	20	11
		%	100.0	72.2	3.3	16.0	0.7	0.5	4.7	2.6
	福井県内の避難先の具体的な場所(拠点避難所・広域避難施設)まで知っている	件数	22	17	1	3	-	-	-	1
		%	100.0	77.3	4.5	13.6	-	-	-	4.5
	福井県内の避難先の市は知っているが、具体的な場所は知らない	件数	95	69	6	17	-	-	1	2
		%	100.0	72.6	6.3	17.9	-	-	1.1	2.1
	福井県内に避難先があることは知っているが、どの市かは知らない	件数	102	74	2	21	-	-	4	1
		%	100.0	72.5	2.0	20.6	-	-	3.9	1.0
	奈良県の避難先の具体的な場所(拠点避難所・広域避難施設)まで知っている	件数	13	7	-	3	-	2	1	-
		%	100.0	53.8	-	23.1	-	15.4	7.7	-
	奈良県の避難先の市は知っているが、具体的な場所は知らない	件数	94	67	3	17	-	-	2	5
		%	100.0	71.3	3.2	18.1	-	-	2.1	5.3
	奈良県に避難先があることは知っているが、どの市かは知らない	件数	136	94	5	28	1	-	5	3
		%	100.0	69.1	3.7	20.6	0.7	-	3.7	2.2
どこに避難するかまったく知らない	件数	122	95	4	9	2	-	11	1	
	%	100.0	77.9	3.3	7.4	1.6	-	9.0	0.8	

問19 広域避難する上で、不安な点はありますか（あてはまるものすべてに○）。

◆ 単純集計結果

● 結果の概要

- ・ 広域避難する上での不安な点として、「避難経路の渋滞」が70.8%と最も割合が高い。次いで「避難中の生活や仕事」が66.1%、「避難中の自宅の状況」が56.9%である。避難そのものだけでなく、避難後の生活等についての不安も強いことが示唆される。



● 集計表

分類	件数	%
避難経路の渋滞	301	70.8%
避難中での生活や仕事	281	66.1%
避難中の自宅の状況	242	56.9%
避難先のコロナ対策	174	40.9%
移動手段の確保	165	38.8%
地域コミュニティの分断	39	9.2%
その他	25	5.9%
無回答	5	1.2%
調査数	425	100.0%

● その他の回答者

- ・ 家族全員（別居別宅に住む）が無事かどうかの心配
- ・ 親族や知人への連絡
- ・ ペットはどうすればよいのか
- ・ 避難しなければならない期間
- ・ 避難先での治療や薬の手配（自分及び家族）
- ・ 子どもが自閉症のため、他の方と一緒にするのが難しい
- ・ 避難場所の環境（プライバシーはどこまで守れるか、トイレは大丈夫か）
- ・ また自宅に戻って生活できるか
- ・ 避難のあわただしい中ちゃんと安定ヨウ素剤が配布されるかどうか
- ・ 先の不安

◆ クロス集計結果

年代

● 結果の概要

- ・ 30歳代と40歳代の回答者は「避難経路の渋滞」よりも「避難中の生活や仕事」の回答率が高い。この年代が勤労世代であり、かつ子育て世代でもあることが、これに影響している可能性がある。
- ・ 「避難中の自宅の状況」については、20歳代の回答率が他の世代と比較して低い。一般的に、若い世代は持ち家ではなく賃貸が多く、住居の住み替えも比較的容易なことなどが要因として考えられる。ただし、回答者が少ないため偏りが出ている可能性もある。

● 集計表

			不安な点								
			全体	避難経路の渋滞	仕事 避難中での生活や	況 避難中の自宅の状	避難先のコロナ対策	移動手段の確保	分断 地域コミュニティの	その他	無回答
年齢	全体	件数	425	301	281	242	174	165	39	25	5
		%	100.0	70.8	66.1	56.9	40.9	38.8	9.2	5.9	1.2
	20歳代	件数	24	16	16	3	11	12	3	2	-
		%	100.0	66.7	66.7	12.5	45.8	50.0	12.5	8.3	-
	30歳代	件数	54	36	43	28	27	20	5	2	-
		%	100.0	66.7	79.6	51.9	50.0	37.0	9.3	3.7	-
	40歳代	件数	64	43	52	36	20	23	2	4	-
		%	100.0	67.2	81.3	56.3	31.3	35.9	3.1	6.3	-
	50歳代	件数	66	52	45	41	28	27	8	5	-
		%	100.0	78.8	68.2	62.1	42.4	40.9	12.1	7.6	-
	60歳代	件数	117	79	75	75	45	38	10	10	1
		%	100.0	67.5	64.1	64.1	38.5	32.5	8.5	8.5	0.9
	70歳代以上	件数	99	74	49	59	43	45	11	2	4
		%	100.0	74.7	49.5	59.6	43.4	45.5	11.1	2.0	4.0

性別

● 結果の概要

- ・ 「避難経路の渋滞」「避難中の生活や仕事」「避難中の自宅の状況」については、男女差は少ない。
- ・ 「避難先のコロナ対策」は、他の項目と比較して回答率に大きな差が見られた。

● 集計表

			不安な点								
			全体	避難経路の渋滞	仕事の生活や避難中で	自宅の避難中の状況	避難先のコロナ対策	移動手段の確保	断ニティの分	地域コミュ	その他
性別	全体	件数	425	301	281	242	174	165	39	25	5
		%	100.0	70.8	66.1	56.9	40.9	38.8	9.2	5.9	1.2
	男性	件数	190	139	124	115	64	68	22	7	-
		%	100.0	73.2	65.3	60.5	33.7	35.8	11.6	3.7	-
	女性	件数	233	160	156	126	110	96	17	17	5
		%	100.0	68.7	67.0	54.1	47.2	41.2	7.3	7.3	2.1
	その他	件数	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		%	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	回答しない	件数	1	1	-	1	-	1	-	1	-
		%	100.0	100.0	-	100.0	-	100.0	-	100.0	-

同居家族

● 結果の概要

- 同居家族の人数別にみると、同居家族の人数が多いほど、「避難中での生活や仕事」への回答率が高い。扶養する家族が多くなることや、居住するスペースも広くなることなどが要因として考えられる。

● 集計表

		不安な点									
		全体	避難経路の渋滞	避難中での生活や仕事	避難中の自宅の状況	避難先のコロナ対策	移動手段の確保	地域コミュニティの分断	その他	無回答	
同居家族	全体	件数	425	301	281	242	174	165	39	25	5
		%	100.0	70.8	66.1	56.9	40.9	38.8	9.2	5.9	1.2
	独居	件数	34	23	18	17	16	14	2	-	2
		%	100.0	67.6	52.9	50.0	47.1	41.2	5.9	-	5.9
	2人	件数	189	139	122	112	82	78	20	11	3
		%	100.0	73.5	64.6	59.3	43.4	41.3	10.6	5.8	1.6
	3人	件数	108	80	74	60	44	39	8	7	-
		%	100.0	74.1	68.5	55.6	40.7	36.1	7.4	6.5	-
	4人	件数	49	30	34	28	15	17	1	4	-
		%	100.0	61.2	69.4	57.1	30.6	34.7	2.0	8.2	-
	5人以上	件数	42	26	30	25	17	16	8	3	-
		%	100.0	61.9	71.4	59.5	40.5	38.1	19.0	7.1	-

居住地域（発電所からの距離）

● 結果の概要

- ・ 10km以遠の回答者は、多くの項目で10km以内の回答者よりも不安な点の回答率が高い。

● 集計表

			不安な点								
			全体	避難経路の渋滞	避難中での生活や仕事	避難中の自宅の状況	避難先のコロナ対策	移動手段の確保	地域コミュニティの分断	その他	無回答
発電所からの距離	全体	件数	425	301	281	242	174	165	39	25	5
		%	100.0	70.8	66.1	56.9	40.9	38.8	9.2	5.9	1.2
	10km 以内	件数	86	59	54	40	36	35	6	6	1
		%	100.0	68.6	62.8	46.5	41.9	40.7	7.0	7.0	1.2
	10km 以遠	件数	339	242	227	202	138	130	33	19	4
		%	100.0	71.4	67.0	59.6	40.7	38.3	9.7	5.6	1.2

原子力防災への関心

● 結果の概要

- ・ 関心の程度別に見ると、「とても関心がある」や「関心がある」の回答者は「避難経路の渋滞」の回答率が最も高いが、「関心がない」や「まったく関心がない」の回答者は、「避難中での生活や仕事」の回答率が最も高い。原子力防災に関する関心が高いほど、避難について具体的にイメージするため、渋滞など具体的な懸念事項を挙げる割合が高いものと推察される。

● 集計表

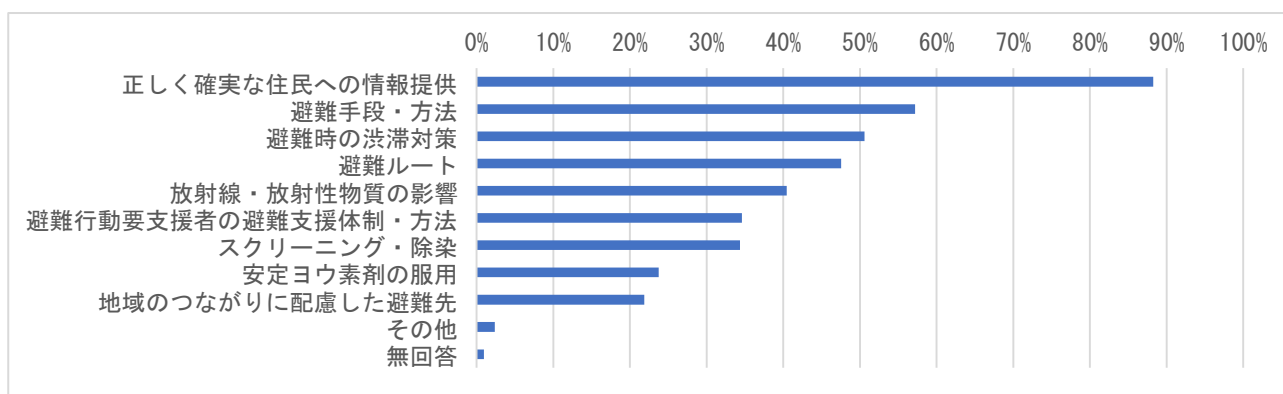
			不安な点								
			全体	避難経路の渋滞	避難中での生活や仕事	避難中の自宅の状況	避難先のコロナ対策	移動手段の確保	地域コミュニティの分断	その他	無回答
関心の程度	全体	件数	425	301	281	242	174	165	39	25	5
		%	100.0	70.8	66.1	56.9	40.9	38.8	9.2	5.9	1.2
	とても関心がある	件数	78	58	53	52	29	32	13	7	-
		%	100.0	74.4	67.9	66.7	37.2	41.0	16.7	9.0	-
	関心がある	件数	257	183	161	149	107	94	16	12	3
		%	100.0	71.2	62.6	58.0	41.6	36.6	6.2	4.7	1.2
	関心がない	件数	68	45	49	29	28	28	6	5	1
		%	100.0	66.2	72.1	42.6	41.2	41.2	8.8	7.4	1.5
	まったく関心がない	件数	7	3	5	3	2	2	-	-	-
		%	100.0	42.9	71.4	42.9	28.6	28.6	-	-	-

問20 あなたは、原子力災害時における住民避難について、何が大切だとお考えですか（あてはまるものすべてに○）。

◆ 単純集計結果

● 結果の概要

- ・ 原子力災害時における住民避難の大切な点として、「正しく確実な住民への情報提供」が 88.2%と最も割合が高い。次いで「避難手段・方法」が 57.2%、「避難時の渋滞対策」が 50.6%、「避難ルート」が 47.5%と高い回答率となっている。
- ・ 前回調査と比較すると、多くの項目で割合に大きな変化はないものの、「地域のつながりに配慮した避難先」については、前回の 41.6%に対し、今回の調査では 21.9%であり、大きく減少している。



● 集計表

分類	件数	%
正しく確実な住民への情報提供	375	88.2%
避難手段・方法	243	57.2%
避難時の渋滞対策	215	50.6%
避難ルート	202	47.5%
放射線・放射性物質の影響	172	40.5%
避難行動要支援者の避難支援体制・方法	147	34.6%
スクリーニング・除染	146	34.4%
安定ヨウ素剤の服用	101	23.8%
地域のつながりに配慮した避難先	93	21.9%
その他	10	2.4%
無回答	4	0.9%
調査数	425	100.0%

● その他の回答

- ・ ペットの避難場所確保
- ・ 重度の認知症、知的障がい者、精神障がい者他、集団生活を苦痛とする本人や家族への配慮、また透析など医療の必要な方への配慮
- ・ 高齢者など、移動が困難な方への対応、また情報の伝え方
- ・ 風向きを示しどの方向へ避難するか、すぐ知らせてほしい
- ・ 可能なら個々の避難方法
- ・ 屋内という選択
- ・ 配給など健康面
- ・ 避難先のたらい回しは困る

◆ クロス集計結果

年代

● 結果の概要

- ・ 全年代で「正しく確実な情報提供」の回答率が最も高く、年代別の大きな差異は見られなかった。
- ・ 30歳代、40歳代の回答者は、「地域のつながりに配慮した避難先」への回答率が特に低い。

● 集計表

		大切な点												
		全体	正しく確実な住民への情報提供	避難手段・方法	避難時の渋滞対策	避難ルート	放射線・放射性物質の影響	避難行動要支援者の避難支援体制・方法	スクリーニング・除染	安定ヨウ素剤の服用	地域のつながりに配慮した避難先	その他	無回答	
年齢	全体	件数	425	375	243	215	202	172	147	146	101	93	10	4
		%	100.0	88.2	57.2	50.6	47.5	40.5	34.6	34.4	23.8	21.9	2.4	0.9
	20歳代	件数	24	20	13	14	12	12	9	9	4	7	-	1
		%	100.0	83.3	54.2	58.3	50.0	50.0	37.5	37.5	16.7	29.2	-	4.2
	30歳代	件数	54	47	29	16	23	30	21	17	9	6	1	-
		%	100.0	87.0	53.7	29.6	42.6	55.6	38.9	31.5	16.7	11.1	1.9	-
	40歳代	件数	64	55	38	28	30	23	19	24	15	4	1	-
		%	100.0	85.9	59.4	43.8	46.9	35.9	29.7	37.5	23.4	6.3	1.6	-
	50歳代	件数	66	61	40	39	39	32	26	26	21	13	3	-
		%	100.0	92.4	60.6	59.1	59.1	48.5	39.4	39.4	31.8	19.7	4.5	-
	60歳代	件数	117	105	70	64	57	39	45	43	30	28	3	-
		%	100.0	89.7	59.8	54.7	48.7	33.3	38.5	36.8	25.6	23.9	2.6	-
	70歳代以上	件数	99	86	52	53	40	36	26	27	22	35	2	3
		%	100.0	86.9	52.5	53.5	40.4	36.4	26.3	27.3	22.2	35.4	2.0	3.0

居住地域（発電所からの距離）

● 結果の概要

- ・ 発電所からの距離別に見ると、「地域のつながりに配慮した避難先」について、回答率に大きな差が見られる。
- ・ 「避難行動要支援者の避難支援体制・方法」については、発電所からの距離が近い方ほど、重要だと考えている傾向が見られた。
- ・ 「安定ヨウ素剤の服用」に関しては、避難所からの距離別で大きな差は見られなかった。
- ・ 前回調査と比較すると、10km以内では「スクリーニング・除染」の回答率は上昇しているものの、その他の項目の回答率が低下している。10km 以遠では、「スクリーニング・除染」及び「放射線・放射性物質の影響」の回答率は上昇しているものの、その他の項目の回答率は減少している。

● 集計表

			大切な点											
			全体	正しく確実な住民への情報提供	避難手段・方法	避難時の渋滞対策	避難ルート	放射線・放射性物質の影響	避難行動要支援者の避難支援体制・方法	スクリーニング・除染	安定ヨウ素剤の服用	地域のつながりに配慮した避難先	その他	無回答
発電所からの距離	全体	件数	425	375	243	215	202	172	147	146	101	93	10	4
		%	100.0	88.2	57.2	50.6	47.5	40.5	34.6	34.4	23.8	21.9	2.4	0.9
	10km以内	件数	86	73	47	48	39	34	36	31	23	27	3	2
		%	100.0	84.9	54.7	55.8	45.3	39.5	41.9	36.0	26.7	31.4	3.5	2.3
	10km以遠	件数	339	302	196	167	163	138	111	115	78	66	7	2
		%	100.0	89.1	57.8	49.3	48.1	40.7	32.7	33.9	23.0	19.5	2.1	0.6

避難手段

● 結果の概要

- ・ 避難手段別に見ると、全回答者において「正しく確実な情報提供」の割合が高い。
- ・ 「市などが用意した避難用バス」を選択した回答者は、回答者全体と比較して「地域のつながりに配慮した避難先」への回答率が高い。「市などが用意した避難用バス」は、「地域のつながりに配慮した避難先」への回答率が高い60歳代や70歳代が多く回答していることが影響していると考えられる。

● 集計表

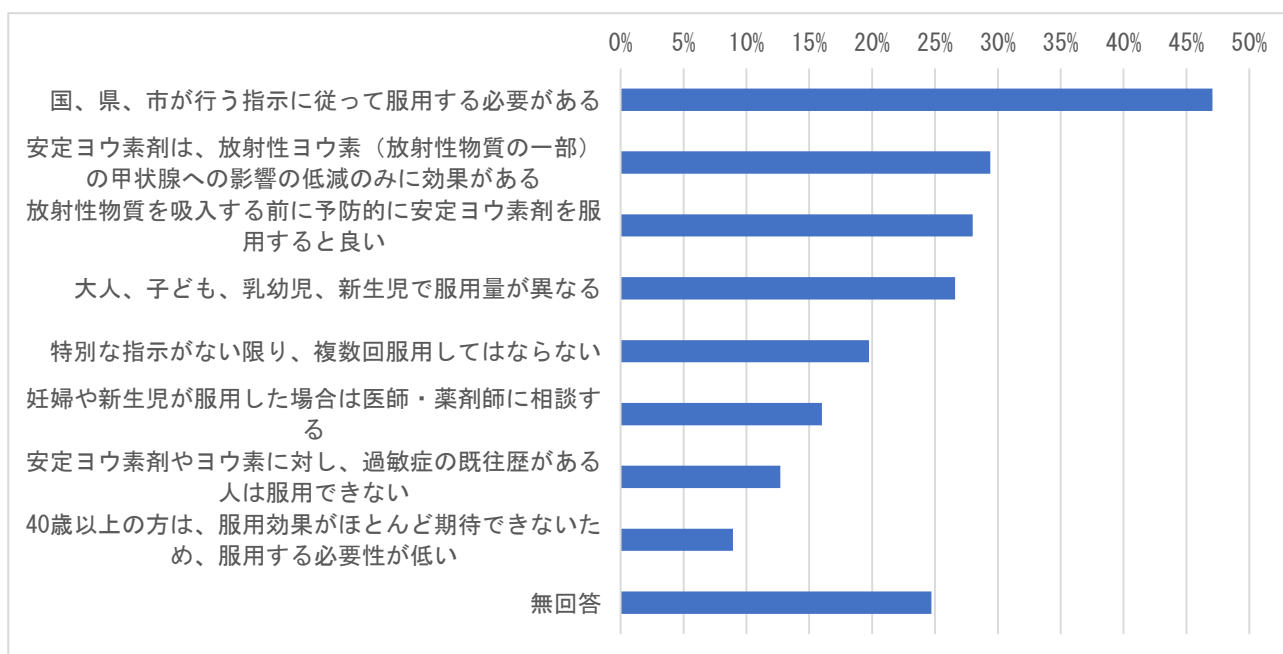
		大切な点												
		全体	正しく確実な住民への情報提供	避難手段・方法	避難時の渋滞対策	避難ルート	放射線・放射性物質の影響	避難行動要支援者の避難支援体制・方法	スクリーニング・除染	安定ヨウ素剤の服用	地域のつながりに配慮した避難先	その他	無回答	
避難手段	全体	件数	425	375	243	215	202	172	147	146	101	93	10	4
		%	100.0	88.2	57.2	50.6	47.5	40.5	34.6	34.4	23.8	21.9	2.4	0.9
	自家用車	件数	307	271	172	170	156	123	109	107	74	59	7	1
		%	100.0	88.3	56.0	55.4	50.8	40.1	35.5	34.9	24.1	19.2	2.3	0.3
	知人・親族などの車	件数	14	13	6	8	5	6	4	4	1	5	-	-
		%	100.0	92.9	42.9	57.1	35.7	42.9	28.6	28.6	7.1	35.7	-	-
	市などが用意した避難用バス	件数	68	60	44	26	27	26	26	28	18	21	1	-
		%	100.0	88.2	64.7	38.2	39.7	38.2	38.2	41.2	26.5	30.9	1.5	-
	JRなどの鉄道	件数	3	3	1	1	1	3	-	-	1	-	1	-
		%	100.0	100.0	33.3	33.3	33.3	100.0	-	-	33.3	-	33.3	-
	その他	件数	2	2	-	1	1	1	-	-	-	-	-	-
		%	100.0	100.0	-	50.0	50.0	50.0	-	-	-	-	-	-
	検討していない	件数	20	17	13	5	7	10	5	5	5	5	1	1
		%	100.0	85.0	65.0	25.0	35.0	50.0	25.0	25.0	25.0	25.0	5.0	5.0

問 2 1 安定ヨウ素剤を服用する際の注意事項について、ご存じのものすべてに○を付けてください（あてはまるものすべてに○）。

◆ 単純集計結果

● 結果の概要

- 安定ヨウ素剤を服用する際の注意事項として、「国、県、市が行う指示に従って服用する必要がある」が 47.1%と最も割合が高い。次いで「安定ヨウ素剤は、放射性ヨウ素（放射性物質の一部）の甲状腺への影響の低減のみに効果がある」が 29.4%、「放射性物質を吸入する前に予防的に安定ヨウ素剤を服用すると良い」が 28.0%であった。
- 無回答が 24.7%と多く、約 4 分の 1 の市民は、安定ヨウ素剤を服用する際の注意事項について、知識を持ち合わせていないと考えられる。



● 集計表

分類	件数	%
国、県、市が行う指示に従って服用する必要がある	200	47.1%
安定ヨウ素剤は、放射性ヨウ素（放射性物質の一部）の甲状腺への影響の低減のみに効果がある	125	29.4%
放射性物質を吸入する前に予防的に安定ヨウ素剤を服用すると良い	119	28.0%
大人、子ども、乳幼児、新生児で服用量が異なる	113	26.6%
特別な指示がない限り、複数回服用してはならない	84	19.8%
妊婦や新生児が服用した場合は医師・薬剤師に相談する	68	16.0%
安定ヨウ素剤やヨウ素に対し、過敏症の既往歴がある人は服用できない	54	12.7%
40歳以上の方は、服用効果がほとんど期待できないため、服用する必要性が低い	38	8.9%
無回答	105	24.7%
調査数	425	100.0%

◆ クロス集計結果

年齢

● 結果の概要

- 安定ヨウ素剤の服用対象である20歳代、30歳代、40歳代の回答者は回答者全体と比較して、多くの項目で回答率が低く、かつ無回答の割合が高い。各年代に適した伝達手段を考慮しながら、広報することが求められる。
- 60歳代と70歳代以上の回答者は、「国、県、市が行う指示に従って服用する必要がある」について特に回答率が高い。

● 集計表

		安定ヨウ素剤の注意事項										
		全体	国、県、市が行う指示に従って服用する必要がある	減のみに効果がある	安定ヨウ素剤は、放射性ヨウ素(放射性物質の一部)の甲状腺への影響の低	放射線物質を吸入する前に予防的に安定ヨウ素剤を服用すると良い	大人、子ども、乳幼児、新生児で服用量が異なる	特別な指示がない限り、複数回服用してはならない	妊婦や新生児が服用した場合、医師・薬剤師に相談する	安定ヨウ素剤やヨウ素に対し、過敏症の既往歴がある人は服用できない	60歳以上の方は、服用効果がほとんど期待できないため、服用する必要性が低い	無回答
年齢	全体	件数	425	200	125	119	113	84	68	54	38	105
		%	100.0	47.1	29.4	28.0	26.6	19.8	16.0	12.7	8.9	24.7
	20歳代	件数	24	8	2	7	5	3	6	-	-	9
		%	100.0	33.3	8.3	29.2	20.8	12.5	25.0	-	-	37.5
	30歳代	件数	54	16	8	10	15	8	7	4	-	21
		%	100.0	29.6	14.8	18.5	27.8	14.8	13.0	7.4	-	38.9
	40歳代	件数	64	23	16	14	18	12	7	8	5	22
		%	100.0	35.9	25.0	21.9	28.1	18.8	10.9	12.5	7.8	34.4
	50歳代	件数	66	26	25	20	17	14	14	13	11	18
		%	100.0	39.4	37.9	30.3	25.8	21.2	21.2	19.7	16.7	27.3
	60歳代	件数	117	72	40	34	35	29	22	17	13	15
		%	100.0	61.5	34.2	29.1	29.9	24.8	18.8	14.5	11.1	12.8
	70歳代以上	件数	99	55	33	33	23	18	12	12	8	20
		%	100.0	55.6	33.3	33.3	23.2	18.2	12.1	12.1	8.1	20.2

性別

● 結果の概要

- ・ 女性よりも男性の方が、多くの項目で回答率が高い。特に、「安定ヨウ素剤は、放射性ヨウ素（放射性物質の一部）の甲状腺への影響の低減のみに効果がある」は割合の差が大きい。
- ・ 女性は、無回答の回答率が高い。

● 集計表

			安定ヨウ素剤の注意事項									
			全体	国、県、市が行う指示に従って服用する必要があるのである	安定ヨウ素剤は、放射性ヨウ素（放射性物質の一部）の甲状腺への影響の低減のみに効果がある	安定ヨウ素剤を吸入する前に予防的に安定ヨウ素剤を服用すると良い	大人、子ども、乳幼児、新生児で服用量が異なる	特別な指示がない限り、複数回服用してはならない	妊婦や新生児が服用した場合は医師・薬剤師に相談する	安定ヨウ素剤やヨウ素に対し、過敏症の既往歴がある人は服用できない	3歳以上の方は、服用効果がほとんど期待できないため、服用する必要性が低い	無回答
性別	全体	件数	425	200	125	119	113	84	68	54	38	105
		%	100.0	47.1	29.4	28.0	26.6	19.8	16.0	12.7	8.9	24.7
	男性	件数	190	103	79	66	54	47	32	27	23	32
		%	100.0	54.2	41.6	34.7	28.4	24.7	16.8	14.2	12.1	16.8
	女性	件数	233	97	44	52	59	37	36	27	14	73
		%	100.0	41.6	18.9	22.3	25.3	15.9	15.5	11.6	6.0	31.3
	その他	件数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		%	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	回答しない	件数	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-
		%	100.0	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-

同居家族

● 結果の概要

- 同居家族の人数別に見ると、同居家族が4人以上の回答者は、回答者全体と比較して、多くの項目で回答率が低い。
- ひとり暮らしの回答者は、「大人、子ども、乳幼児、新生児で服用量が異なる」の回答率が高い。ただし、回答者が少ないため偏りが出ている可能性がある。
- 同居家族が3人の回答者は、「妊婦や新生児が服用した場合は医師・薬剤師に相談する」について回答率が高く、妊婦や新生児が世帯にいるなどの家庭の状況を反映していると考えられる。

● 集計表

			安定ヨウ素剤の注意事項									
			全体	国、県、市が行う指示に従って服用する必要のある	安定ヨウ素剤は、放射性ヨウ素（放射性物質の一部）の甲状腺への影響の低減のみに効果がある	安定ヨウ素剤を吸入する前に予防的に安定ヨウ素剤を服用すると良い	大人、子ども、乳幼児、新生児で服用量が異なる	特別な指示がない限り、複数回服用してはならない	妊婦や新生児が服用した場合は医師・薬剤師に相談する	安定ヨウ素剤やヨウ素に対し、過敏症の既往歴がある人は服用できない	6歳以上の方は、服用効果がほとんど期待できないため、服用する必要が低い	無回答
同居家族	全体	件数	425	200	125	119	113	84	68	54	38	105
		%	100.0	47.1	29.4	28.0	26.6	19.8	16.0	12.7	8.9	24.7
	独居	件数	34	17	8	8	13	5	3	1	1	8
		%	100.0	50.0	23.5	23.5	38.2	14.7	8.8	2.9	2.9	23.5
	2人	件数	189	97	63	55	55	41	29	31	22	45
		%	100.0	51.3	33.3	29.1	29.1	21.7	15.3	16.4	11.6	23.8
	3人	件数	108	54	29	33	25	26	26	16	11	25
		%	100.0	50.0	26.9	30.6	23.1	24.1	24.1	14.8	10.2	23.1
	4人	件数	49	15	12	9	10	9	4	3	2	17
		%	100.0	30.6	24.5	18.4	20.4	18.4	8.2	6.1	4.1	34.7
	5人以上	件数	42	16	12	12	9	3	5	3	1	9
		%	100.0	38.1	28.6	28.6	21.4	7.1	11.9	7.1	2.4	21.4

居住地域（発電所からの距離）

● 結果の概要

- ・ 発電所からの距離によって、回答の傾向に大きな差は見られなかった。

● 集計表

		安定ヨウ素剤の注意事項										
		全体	国、県、市が行う指示に従って服用する必要がある	安定ヨウ素剤は、放射性ヨウ素（放射性物質の一部）の甲状腺への影響の低減のみに効果がある	安定ヨウ素剤を吸入する前に予防的に安定ヨウ素剤を服用すると良い	大人、子ども、乳幼児、新生児で服用量が異なる	特別な指示がない限り、複数回服用してはならない	妊婦や新生児が服用した場合は医師・薬剤師に相談する	安定ヨウ素剤やヨウ素に対し、過敏症の既往歴がある人は服用できない	6歳以上の方は、服用効果がほとんど期待できないため、服用する必要性が低い	無回答	
発電所からの距離	全体	件数	425	200	125	119	113	84	68	54	38	105
		%	100.0	47.1	29.4	28.0	26.6	19.8	16.0	12.7	8.9	24.7
	10km以内	件数	86	40	22	25	22	14	17	8	5	21
		%	100.0	46.5	25.6	29.1	25.6	16.3	19.8	9.3	5.8	24.4
	10km以上	件数	339	160	103	94	91	70	51	46	33	84
		%	100.0	47.2	30.4	27.7	26.8	20.6	15.0	13.6	9.7	24.8

原子力防災への関心

● 結果の概要

- ・ 原子力防災の関心の程度別に見ると、「とても関心がある」と回答した方は、回答者全体と比較して全項目で回答率が高い。「関心がない」「まったく関心がない」と回答した方は、回答者全体と比較して、多くの項目で回答率が低い。このことから、原子力防災全般への関心の有無が、安定ヨウ素剤服用時の注意事項に関する知識の有無に大きく影響していることが推察される。

● 集計表

			安定ヨウ素剤の注意事項									
			全体	国、県、市が行う指示に従って服用する必要がある	安定ヨウ素剤は、放射性ヨウ素（放射性物質の一部）の甲状腺への影響の低減のみに効果がある	放射性物質を吸入する前に予防的に安定ヨウ素剤を服用すると良い	大人、子ども、乳幼児、新生児で服用量が異なる	特別な指示がない限り、複数回服用してはならない	妊婦や新生児が服用した場合は医師・薬剤師に相談する	安定ヨウ素剤やヨウ素に対し、過敏症の既往歴がある人は服用できない	6歳以上の方は、服用効果がほとんど期待できないため、服用する必要性が低い	無回答
関心の程度	全 体	件数	425	200	125	119	113	84	68	54	38	105
		%	100.0	47.1	29.4	28.0	26.6	19.8	16.0	12.7	8.9	24.7
	とても関心がある	件数	78	41	40	31	27	18	17	16	13	7
		%	100.0	52.6	51.3	39.7	34.6	23.1	21.8	20.5	16.7	9.0
	関心がある	件数	257	128	72	71	65	54	37	32	22	65
		%	100.0	49.8	28.0	27.6	25.3	21.0	14.4	12.5	8.6	25.3
	関心がない	件数	68	24	8	11	17	7	11	4	1	26
		%	100.0	35.3	11.8	16.2	25.0	10.3	16.2	5.9	1.5	38.2
	まったく関心がない	件数	7	1	-	-	1	1	1	-	-	3
		%	100.0	14.3	-	-	14.3	14.3	14.3	-	-	42.9

原子力防災の取組への評価

● 結果の概要

- ・ 原子力防災の取組への評価別に見ると、「十分実施できている」「おおむね実施できている」と回答した方は、回答者全体と比較して多くの項目で回答率が高い。
- ・ 「あまり実施できていない」と回答した方は、回答者全体と比較して、多くの項目で回答率が低い。
- ・ 「まったく実施できていない」と回答した方は、「特別な指示がない限り、複数回服用してはならない」と「40歳以上の方は、服用効果がほとんど期待できないため、服用する必要性が低い」について他の属性に比べて、回答率が高い。

● 集計表

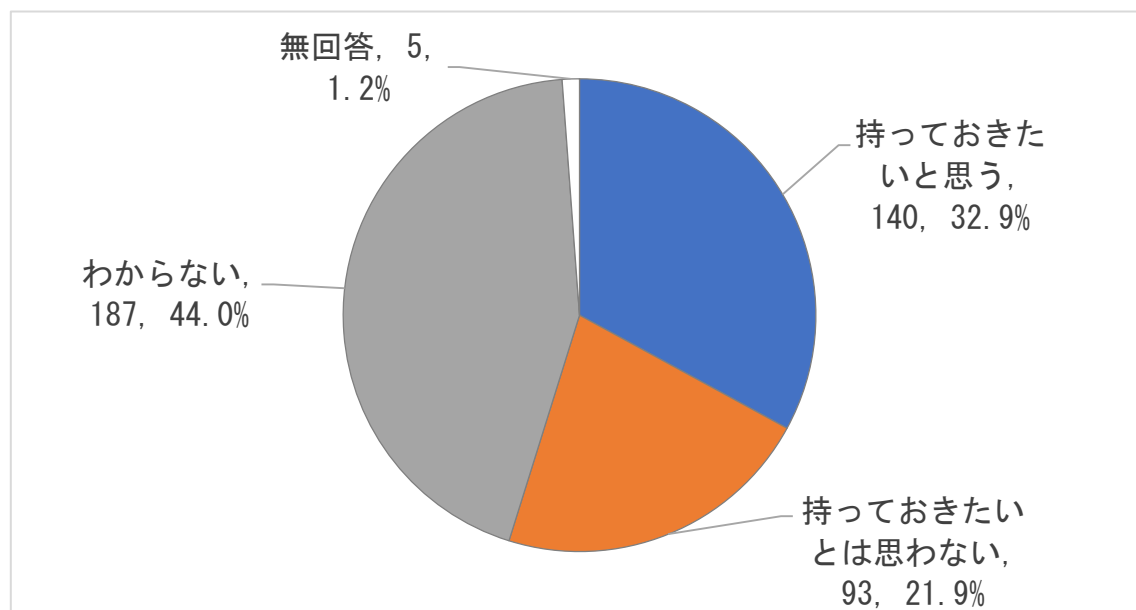
			安定ヨウ素剤の注意事項									
			全体	国、県、市が行う指示に従って服用する必要がある	安定ヨウ素剤は、放射性ヨウ素（放射性物質の一部）の甲状腺への影響の低減のみに効果がある	放射線物質を吸入する前に予防的に安定ヨウ素剤を服用すると良い	大人、子ども、乳幼児、新生児で服用量が異なる	特別な指示がない限り、複数回服用してはならない	妊婦や新生児が服用した場合は医師・薬剤師に相談する	過敏症の既往歴がある人は服用できない	安定ヨウ素剤やヨウ素に対し、過敏症の既往歴がある人は服用できない	6歳以上の方は、服用効果がほとんど期待できないため、服用する必要性が低い
取組の評価	全体	件数	425	200	125	119	113	84	68	54	38	105
		%	100.0	47.1	29.4	28.0	26.6	19.8	16.0	12.7	8.9	24.7
	十分実施できている	件数	15	8	6	8	4	3	4	2	2	2
		%	100.0	53.3	40.0	53.3	26.7	20.0	26.7	13.3	13.3	13.3
	おおむね実施できている	件数	234	116	72	71	75	48	42	35	25	50
		%	100.0	49.6	30.8	30.3	32.1	20.5	17.9	15.0	10.7	21.4
	あまり実施できていない	件数	140	63	40	30	28	26	18	14	6	42
		%	100.0	45.0	28.6	21.4	20.0	18.6	12.9	10.0	4.3	30.0
	まったく実施できていない	件数	18	9	5	5	4	5	2	2	3	3
		%	100.0	50.0	27.8	27.8	22.2	27.8	11.1	11.1	16.7	16.7

問22 あなたは、万が一の原子力災害に備えて、安定ヨウ素剤をあらかじめ手元に持っておきたいと思いますか（○は1つ）。

◆ 単純集計結果

● 結果の概要

- ・ 「わからない」の回答率が最も高く 44%だった。次いで、「持っておきたいと思う」が 32.9%、「持っておきたいとは思わない」が 21.9%だった。



● 集計表

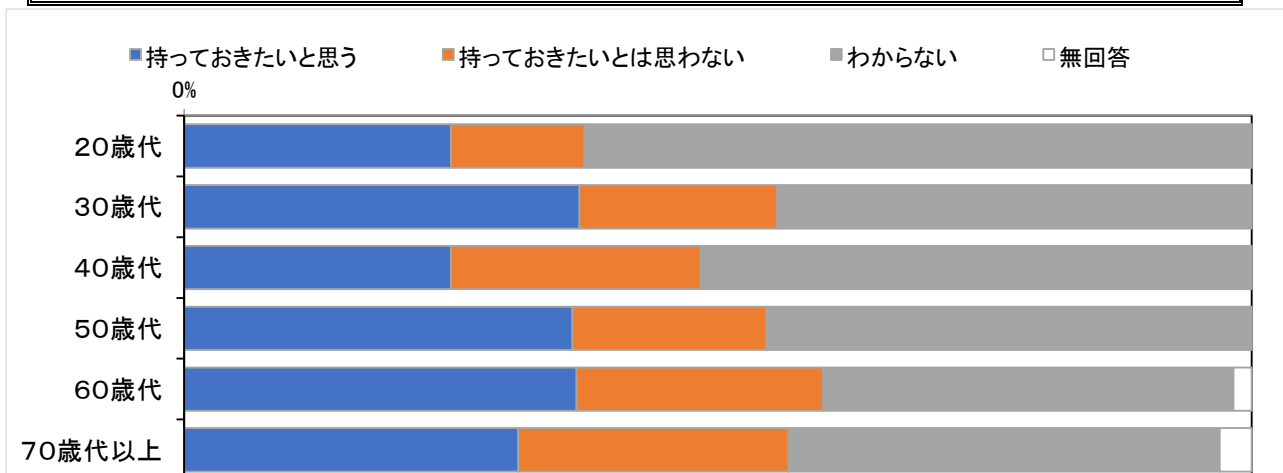
分類	件数	%
持っておきたいと思う	140	32.9%
持っておきたいとは思わない	93	21.9%
わからない	187	44.0%
無回答	5	1.2%
調査数	425	100.0%

◆ クロス集計結果

年代

● 結果の概要

・ 年代別に大きな傾向の差は見られなかった。



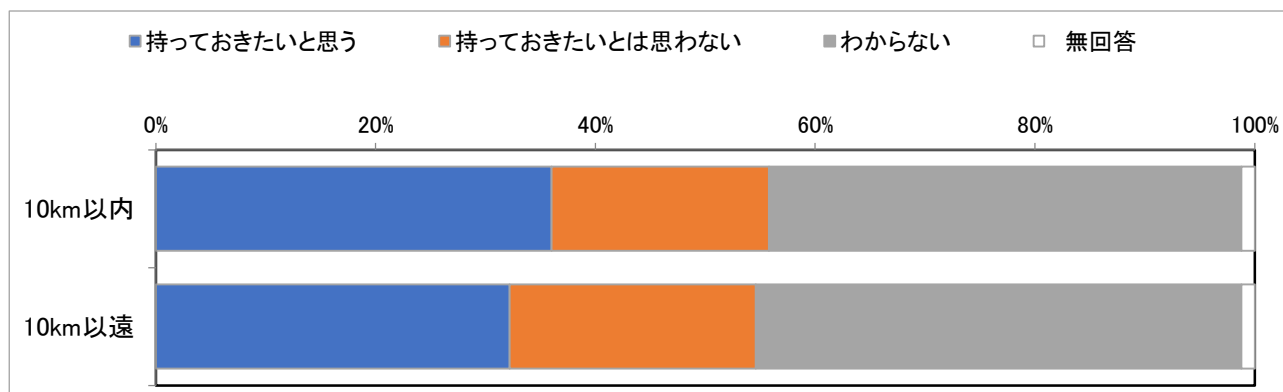
● 集計表

			安定ヨウ素剤の所有希望				
			全体	持っておきたいと思う	持っておきたいとは思わない	わからない	無回答
年齢	全体	件数	425	140	93	187	5
		%	100.0	32.9	21.9	44.0	1.2
	20歳代	件数	24	6	3	15	-
		%	100.0	25.0	12.5	62.5	-
	30歳代	件数	54	20	10	24	-
		%	100.0	37.0	18.5	44.4	-
	40歳代	件数	64	16	15	33	-
		%	100.0	25.0	23.4	51.6	-
	50歳代	件数	66	24	12	30	-
		%	100.0	36.4	18.2	45.5	-
	60歳代	件数	117	43	27	45	2
		%	100.0	36.8	23.1	38.5	1.7
	70歳代以上	件数	99	31	25	40	3
		%	100.0	31.3	25.3	40.4	3.0

居住地域（発電所からの距離）

● 結果の概要

- ・ 発電所からの距離によって、回答の傾向に大きな差は見られなかった。



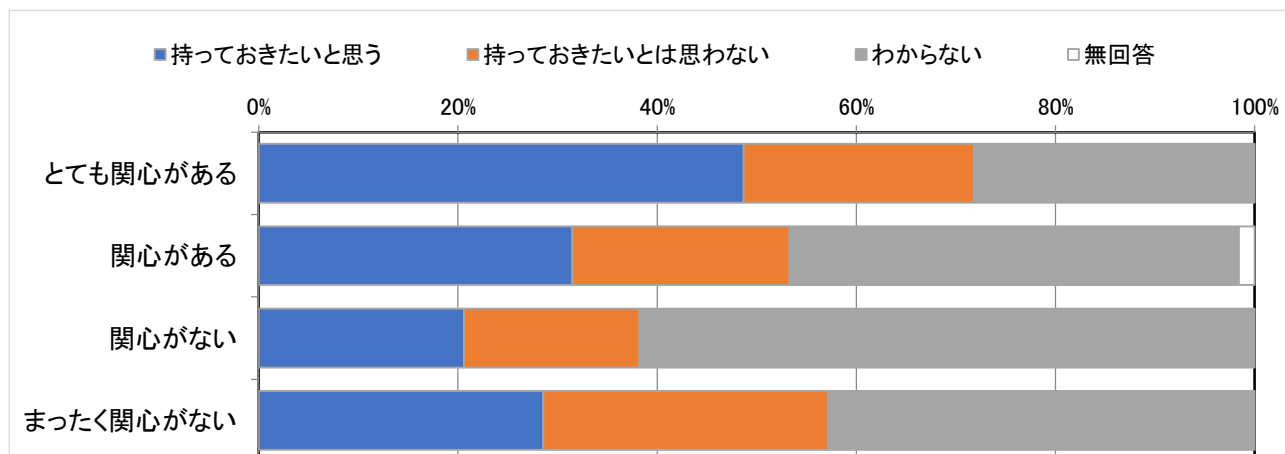
● 集計表

			安定ヨウ素剤の所有希望				
			全体	持つておきたいと思う	持つておきたいとは思わない	わからない	無回答
発電所からの距離	全体	件数	425	140	93	187	5
		%	100.0	32.9	21.9	44.0	1.2
	10km 以内	件数	86	31	17	37	1
		%	100.0	36.0	19.8	43.0	1.2
	10km 以遠	件数	339	109	76	150	4
		%	100.0	32.2	22.4	44.2	1.2

原子力防災への関心

● 結果の概要

- 原子力防災の関心の程度別に見ると、関心の程度が高いほど「持っておきたいと思う」の割合が多く、関心の程度が低いほど「わからない」の割合が高くなっている。原子力防災に対する関心の度合いが高いほど、安定ヨウ素剤の事前配布を希望しているという結果となった。



● 集計表

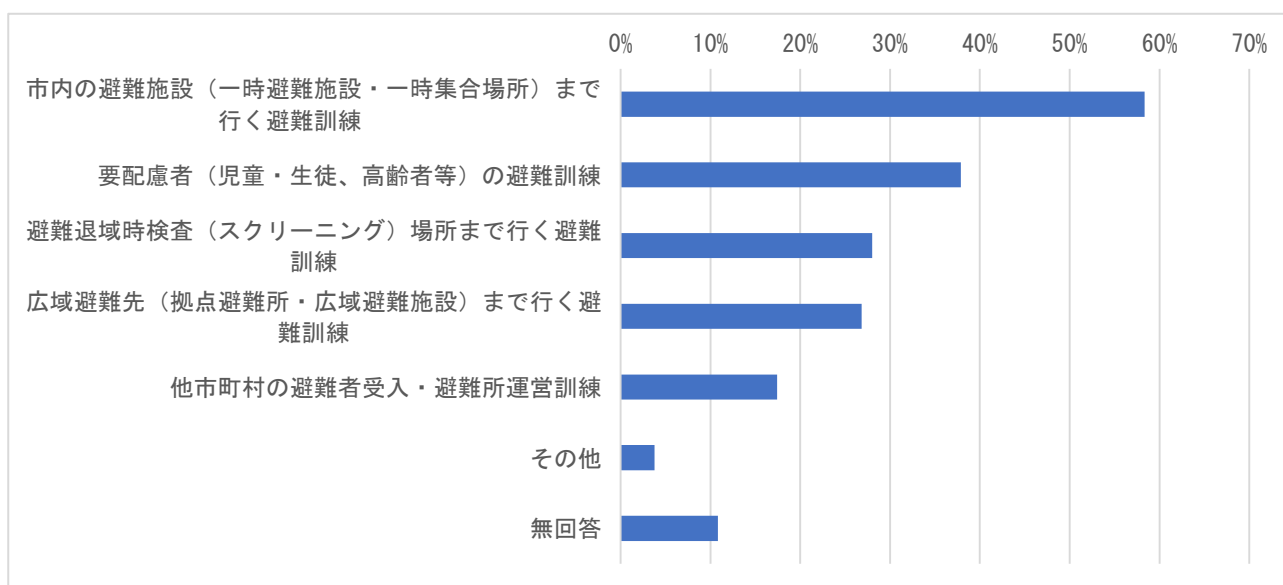
			安定ヨウ素剤の所有希望				
			全体	持っておきたいと思う	持っておきたいとは思わない	わからない	無回答
関心の程度	全体	件数	425	140	93	187	5
		%	100.0	32.9	21.9	44.0	1.2
	とても関心がある	件数	78	38	18	22	-
		%	100.0	48.7	23.1	28.2	-
	関心がある	件数	257	81	56	116	4
		%	100.0	31.5	21.8	45.1	1.6
	関心がない	件数	68	14	12	42	-
		%	100.0	20.6	17.6	61.8	-
	まったく関心がない	件数	7	2	2	3	-
		%	100.0	28.6	28.6	42.9	-

問23 今後、原子力防災のために実施したほうがよいと思う訓練はありますか（あてはまるものすべてに○）。

◆ 単純集計結果

● 結果の概要

・ 「市内の避難施設（一時避難施設・一時集合場所）まで行く避難訓練」の回答率が最も高く、58.4%だった。次いで、「要配慮者（児童・生徒、高齢者等）の避難訓練」が37.9%、「避難退域時検査（スクリーニング）場所まで行く避難訓練」が26.8%だった。



● 集計表

分類	件数	%
市内の避難施設（一時避難施設・一時集合場所）まで行く避難訓練	248	58.4%
要配慮者（児童・生徒、高齢者等）の避難訓練	161	37.9%
避難退域時検査（スクリーニング）場所まで行く避難訓練	119	28.0%
広域避難先（拠点避難所・広域避難施設）まで行く避難訓練	114	26.8%
他市町村の避難者受入・避難所運営訓練	74	17.4%
その他	16	3.8%
無回答	46	10.8%
調査数	425	100.0%

● その他の回答

- ・ 情報伝達訓練(全市的)
- ・ 年に数回、全市民の避難訓練をすべき
- ・ 防災ラジオの点検(受信しないため)
- ・ 天気、気候(雪、嵐等)を考慮した訓練
- ・ 歩行困難者等の行動や扱いについて知りたい
- ・ 屋内退避から広域避難への移行訓練
- ・ 渋滞対策訓練
- ・ ヨウ素材配布
- ・ 災害発生から何分で皆に知らせることができるのか訓練⇒その時、風向きが〇〇だから、〇〇の方へ逃げるよう正しい指示を出して、その事を聞いて、どのように行動できるかを訓練したい。
- ・ 災害内容を具体的に想像できないので答えることができません
- ・ 全員が1回は必ず訓練する
- ・ 支援の範囲(生活支援)がわからない
- ・ 国民の理解と信頼を十分に得るための安全運転
- ・ コロナで訓練で人が集まるのはこわい
- ・ わかりません

◆ クロス集計結果

年代

● 結果の概要

- ・ 30 歳代の回答者は、回答者全体と比較して、「要配慮者（児童・生徒、高齢者等）の避難訓練」の割合が高い。
- ・ 50 歳代の回答者は、「広域避難先（拠点避難所・広域避難施設）まで行く避難訓練」について回答者全体よりも割合が高い。

● 集計表

		実施すべき訓練								
		全体	市内の避難施設（一時避難施設・一時集合場所）まで行く避難訓練	要配慮者（児童・生徒、高齢者等）の避難訓練	避難退域時検査（スクリーニング）場所まで行く避難訓練	広域避難先（拠点避難所・広域避難施設）まで行く避難訓練	他市町村の避難者受入・避難所運営訓練	その他	無回答	
年齢	全体	件数	425	248	161	119	114	74	16	46
		%	100.0	58.4	37.9	28.0	26.8	17.4	3.8	10.8
	20歳代	件数	24	9	11	11	5	4	-	3
		%	100.0	37.5	45.8	45.8	20.8	16.7	-	12.5
	30歳代	件数	54	29	31	20	12	16	-	5
		%	100.0	53.7	57.4	37.0	22.2	29.6	-	9.3
	40歳代	件数	64	38	23	15	11	9	3	7
		%	100.0	59.4	35.9	23.4	17.2	14.1	4.7	10.9
	50歳代	件数	66	36	23	20	26	10	2	8
		%	100.0	54.5	34.8	30.3	39.4	15.2	3.0	12.1
	60歳代	件数	117	73	46	33	30	22	6	7
		%	100.0	62.4	39.3	28.2	25.6	18.8	5.1	6.0
	70歳代以上	件数	99	62	27	20	29	13	5	16
		%	100.0	62.6	27.3	20.2	29.3	13.1	5.1	16.2

居住地域（発電所からの距離）

● 結果の概要

- ・ 10km以内の回答者は、10km以遠の回答者よりも、市内での避難訓練、要配慮者の避難訓練、他市町村の避難者受入訓練を実施すべきと回答する割合が高い。
- ・ 10km以遠の回答者は、10km以内の回答者よりもスクリーニング場所まで行く避難訓練を実施すべきと回答する割合が高い。

● 集計表

		実施すべき訓練								
		全体	市内の避難施設（一時避難施設・一時集合場所）まで行く避難訓練	要配慮者（児童・生徒、高齢者等）の避難訓練	避難退域時検査（スクリーニング）場所まで行く避難訓練	広域避難先（拠点避難所・広域避難施設）まで行く避難訓練	他市町村の避難者受入・避難所運営訓練	その他	無回答	
発電所からの距離	全体	件数	425	248	161	119	114	74	16	46
		%	100.0	58.4	37.9	28.0	26.8	17.4	3.8	10.8
	10km 以内	件数	86	55	37	20	23	21	3	8
		%	100.0	64.0	43.0	23.3	26.7	24.4	3.5	9.3
	10km 以遠	件数	339	193	124	99	91	53	13	38
		%	100.0	56.9	36.6	29.2	26.8	15.6	3.8	11.2

原子力防災への関心

● 結果の概要

- ほとんどの選択肢で関心が高いほど、回答率が高くなっており、原子力防災への関心が高いほど様々な訓練の必要性を感じているものと推察される。ただし、要配慮者の避難訓練に関しては「関心がない」と回答した人でも選択した割合が高くなっている。これは、関心がないと回答した層においても、要配慮者（児童・生徒や高齢者等）が身近にいる場合、その避難訓練の実施を求めることを示唆している。

● 集計表

			実施すべき訓練							
			全体	市内の避難施設（一時避難施設・一時集合場所）まで行く避難訓練	要配慮者（児童・生徒、高齢者等）の避難訓練	避難退域時検査（スクリーニング）場所まで行く避難訓練	広域避難先（拠点避難所・広域避難施設）まで行く避難訓練	他市町村の避難者受入・避難所運営訓練	その他	無回答
関心の程度	全体	件数	425	248	161	119	114	74	16	46
		%	100.0	58.4	37.9	28.0	26.8	17.4	3.8	10.8
	とても関心がある	件数	78	52	28	27	30	18	5	5
		%	100.0	66.7	35.9	34.6	38.5	23.1	6.4	6.4
	関心がある	件数	257	155	97	73	67	47	7	26
		%	100.0	60.3	37.7	28.4	26.1	18.3	2.7	10.1
	関心がない	件数	68	32	28	15	14	8	4	10
		%	100.0	47.1	41.2	22.1	20.6	11.8	5.9	14.7
	まったく関心がない	件数	7	3	2	2	-	-	-	2
		%	100.0	42.9	28.6	28.6	-	-	-	28.6

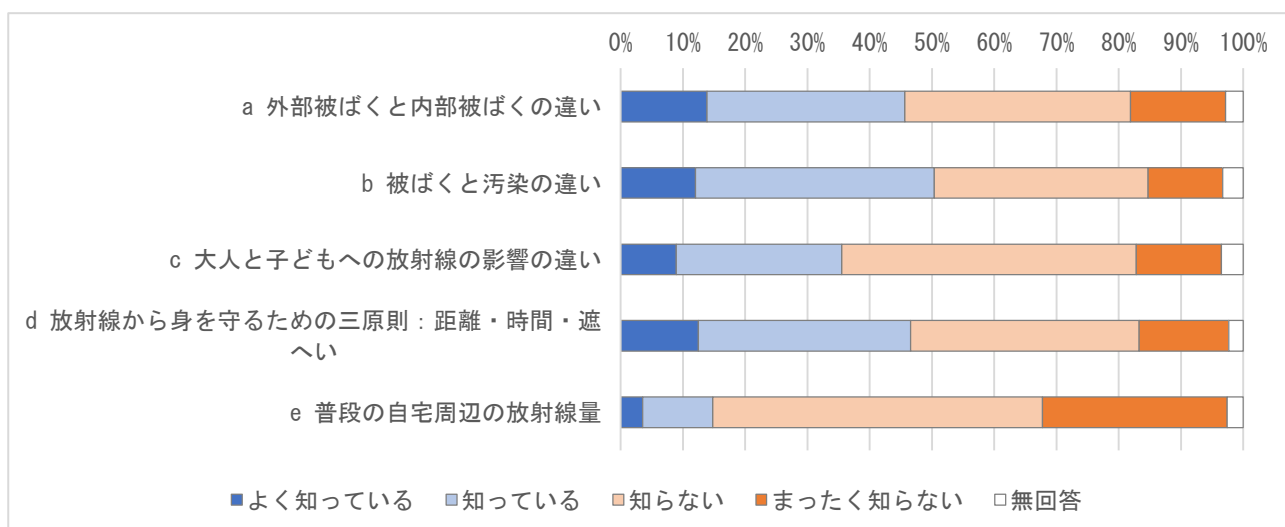
2.4 放射線に関する基礎知識についての調査結果

問24 放射線に関する以下の基本的な知識について、ご存じですか。該当する数字に○を付けてください（それぞれ1つに○）。

◆ 単純集計結果

● 結果の概要

- 外部被ばくと内部被ばくの違いについては、「よく知っている」が13.9%、「知っている」が31.8%となっている。前回調査では、「よく知っている」が13.3%、「知っている」が48.8%であり、「よく知っている」の割合は大きくは変わらないが、「知っている」の割合の減少が大きい。
- 被ばくと汚染の違いについては、「よく知っている」が12%、「知っている」が38.4%となっている。前回調査では、「よく知っている」が12.5%、「知っている」が50.8%であり、前回調査時点よりも知識を有する住民の割合は減少傾向にある。
- 大人と子どもへの放射線の影響の違いについては、「よく知っている」が8.9%、「知っている」が26.6%となっている。
- 放射線から身を守るための三原則：距離・時間・遮へいについては、「よく知っている」が12.5%、「知っている」が34.1%となっている。
- 普段の自宅周辺の放射線量については、「よく知っている」が3.5%、「知っている」が11.3%となっている。前回調査では、「よく知っている」が7.2%、「知っている」が25.1%であり、前回調査時点よりも知識を有する住民の割合は減少傾向にある。これは、前回の調査が東日本大震災（福島第一原子力発電所事故）の直後であったことから、当時は身の回りの放射線量への関心が高く、その情報に触れる機会も比較的多かったことが影響しているものと考えられる。



● 集計表

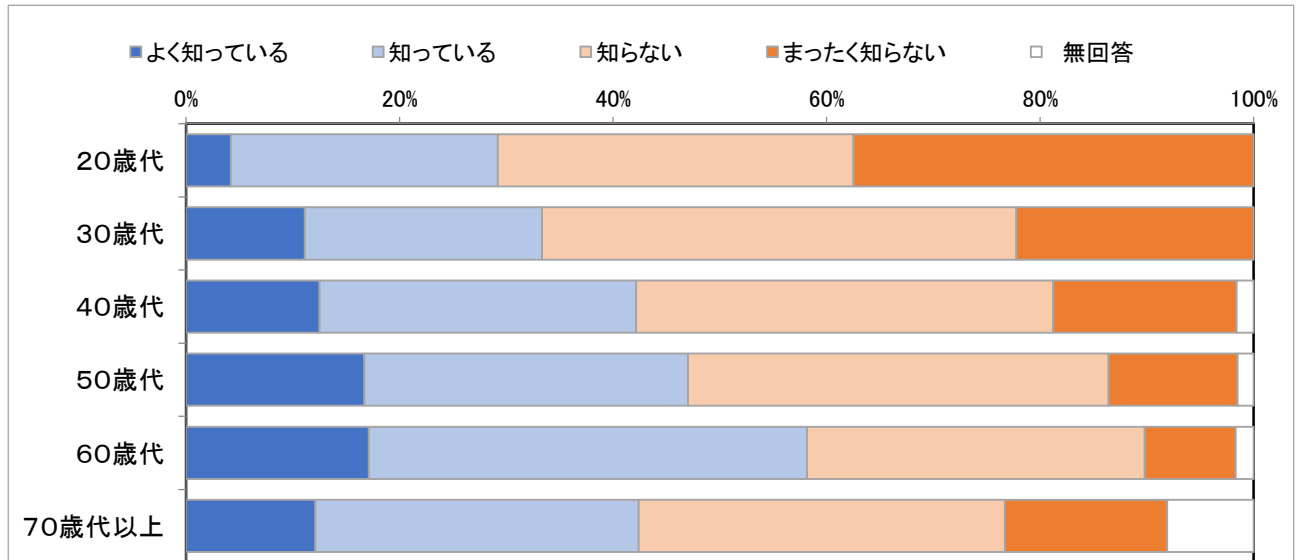
		よく知っている	知っている	知らない	まったく知らない	無回答	調査数
a 外部被ばくと 内部被ばくの違い	件数	59	135	154	65	12	425
	%	13.9%	31.8%	36.2%	15.3%	2.8%	100%
b 被ばくと汚染の違い	件数	51	163	146	51	14	425
	%	12.0%	38.4%	34.4%	12.0%	3.3%	100%
c 大人と子どもへの放射線の 影響の違い	件数	38	113	201	58	15	425
	%	8.9%	26.6%	47.3%	13.6%	3.5%	100%
d 放射線から身を守るための 三原則：距離・時間・遮へい	件数	53	145	156	61	10	425
	%	12.5%	34.1%	36.7%	14.4%	2.4%	100%
e 普段の自宅周辺の放射線量	件数	15	48	225	126	11	425
	%	3.5%	11.3%	52.9%	29.6%	2.6%	100%

年代

● 結果の概要

- 年代別に見ると、年代が高い方が知識を有している傾向にある。ただし、70歳代以上については「よく知っている」や「知っている」の割合が回答者全体よりも低く、この傾向には当てはまらない場合もある。

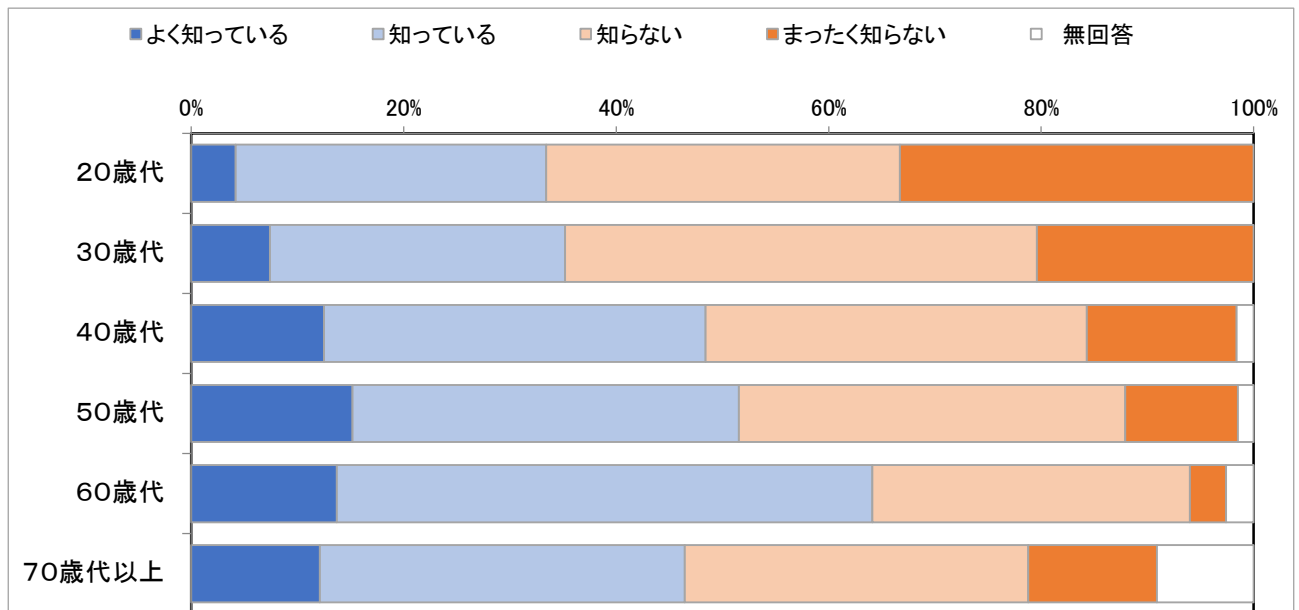
a 外部被ばくと内部被ばくの違い



● 集計表

		外部被ばくと内部被ばくの違い						
		全体	よく知っている	知っている	知らない	まったく知らない	無回答	
年齢	全体	件数	425	59	135	154	65	12
		%	100.0	13.9	31.8	36.2	15.3	2.8
	20歳代	件数	24	1	6	8	9	-
		%	100.0	4.2	25.0	33.3	37.5	-
	30歳代	件数	54	6	12	24	12	-
		%	100.0	11.1	22.2	44.4	22.2	-
	40歳代	件数	64	8	19	25	11	1
		%	100.0	12.5	29.7	39.1	17.2	1.6
	50歳代	件数	66	11	20	26	8	1
		%	100.0	16.7	30.3	39.4	12.1	1.5
	60歳代	件数	117	20	48	37	10	2
		%	100.0	17.1	41.0	31.6	8.5	1.7
	70歳代以上	件数	99	12	30	34	15	8
		%	100.0	12.1	30.3	34.3	15.2	8.1

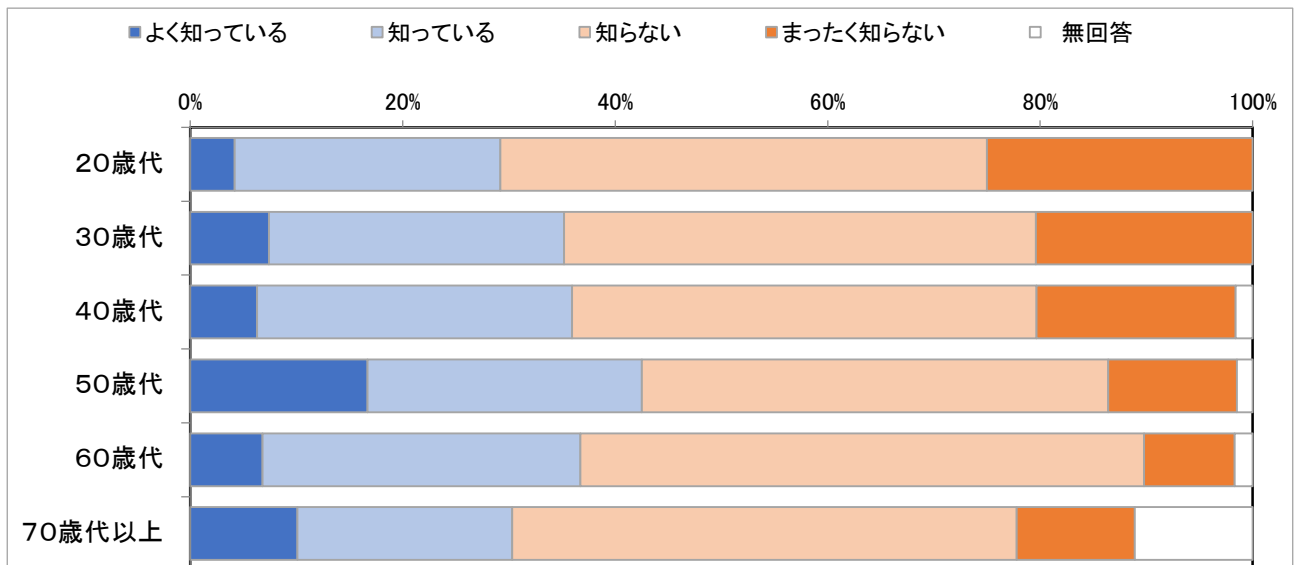
b 被ばくと汚染の違い



● 集計表

		被ばくと汚染の違い						
		全体	よく知っている	知っている	知らない	まったく知らない	無回答	
年齢	全体	件数	425	51	163	146	51	14
		%	100.0	12.0	38.4	34.4	12.0	3.3
	20歳代	件数	24	1	7	8	8	-
		%	100.0	4.2	29.2	33.3	33.3	-
	30歳代	件数	54	4	15	24	11	-
		%	100.0	7.4	27.8	44.4	20.4	-
	40歳代	件数	64	8	23	23	9	1
		%	100.0	12.5	35.9	35.9	14.1	1.6
	50歳代	件数	66	10	24	24	7	1
		%	100.0	15.2	36.4	36.4	10.6	1.5
60歳代	件数	117	16	59	35	4	3	
	%	100.0	13.7	50.4	29.9	3.4	2.6	
70歳代以上	件数	99	12	34	32	12	9	
	%	100.0	12.1	34.3	32.3	12.1	9.1	

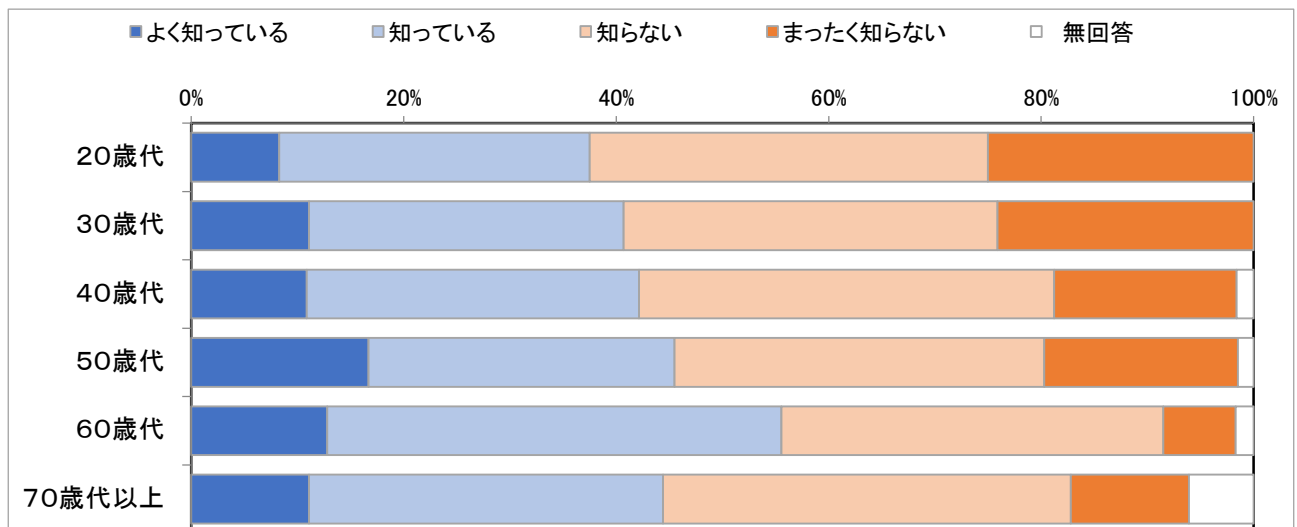
c 大人と子どもへの放射線への影響の違い



● 集計表

			大人と子どもへの放射線の影響の違い					
			全体	よく知っている	知っている	知らない	まったく知らない	無回答
年齢	全体	件数	425	38	113	201	58	15
		%	100.0	8.9	26.6	47.3	13.6	3.5
	20歳代	件数	24	1	6	11	6	-
		%	100.0	4.2	25.0	45.8	25.0	-
	30歳代	件数	54	4	15	24	11	-
		%	100.0	7.4	27.8	44.4	20.4	-
	40歳代	件数	64	4	19	28	12	1
		%	100.0	6.3	29.7	43.8	18.8	1.6
	50歳代	件数	66	11	17	29	8	1
		%	100.0	16.7	25.8	43.9	12.1	1.5
	60歳代	件数	117	8	35	62	10	2
		%	100.0	6.8	29.9	53.0	8.5	1.7
	70歳代以上	件数	99	10	20	47	11	11
		%	100.0	10.1	20.2	47.5	11.1	11.1

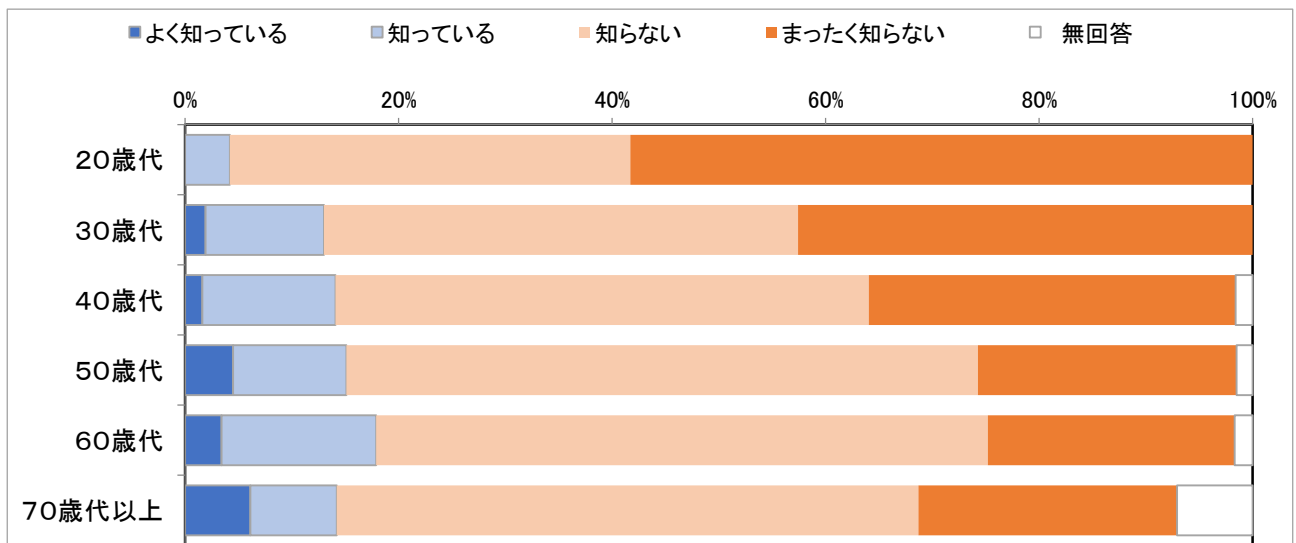
d 放射線から身を守るための三原則：距離・時間・遮へい



● 集計表

			放射線から身を守るための三原則：距離・時間・遮へい					
			全体	よく知っている	知っている	知らない	まったく知らない	無回答
年齢	全体	件数	425	53	145	156	61	10
		%	100.0	12.5	34.1	36.7	14.4	2.4
	20歳代	件数	24	2	7	9	6	-
		%	100.0	8.3	29.2	37.5	25.0	-
	30歳代	件数	54	6	16	19	13	-
		%	100.0	11.1	29.6	35.2	24.1	-
	40歳代	件数	64	7	20	25	11	1
		%	100.0	10.9	31.3	39.1	17.2	1.6
	50歳代	件数	66	11	19	23	12	1
		%	100.0	16.7	28.8	34.8	18.2	1.5
	60歳代	件数	117	15	50	42	8	2
		%	100.0	12.8	42.7	35.9	6.8	1.7
	70歳代以上	件数	99	11	33	38	11	6
		%	100.0	11.1	33.3	38.4	11.1	6.1

e 身の回りの放射線量



● 集計表

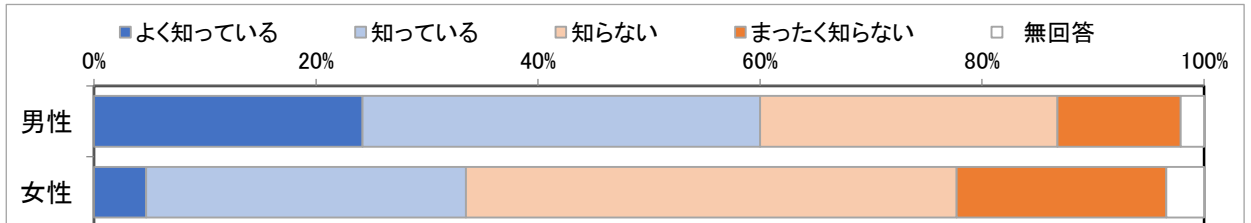
			放射線量					
			全体	よく知っている	知っている	知らない	まったく知らない	無回答
年齢	全体	件数	425	15	48	225	126	11
		%	100.0	3.5	11.3	52.9	29.6	2.6
	20歳代	件数	24	-	1	9	14	-
		%	100.0	-	4.2	37.5	58.3	-
	30歳代	件数	54	1	6	24	23	-
		%	100.0	1.9	11.1	44.4	42.6	-
	40歳代	件数	64	1	8	32	22	1
		%	100.0	1.6	12.5	50.0	34.4	1.6
	50歳代	件数	66	3	7	39	16	1
		%	100.0	4.5	10.6	59.1	24.2	1.5
60歳代	件数	117	4	17	67	27	2	
	%	100.0	3.4	14.5	57.3	23.1	1.7	
70歳代以上	件数	99	6	8	54	24	7	
	%	100.0	6.1	8.1	54.5	24.2	7.1	

性別

● 結果の概要

- 女性よりも男性の方が知識を有している傾向にある。特に「よく知っている」の回答率について、回答率に差が出ている。

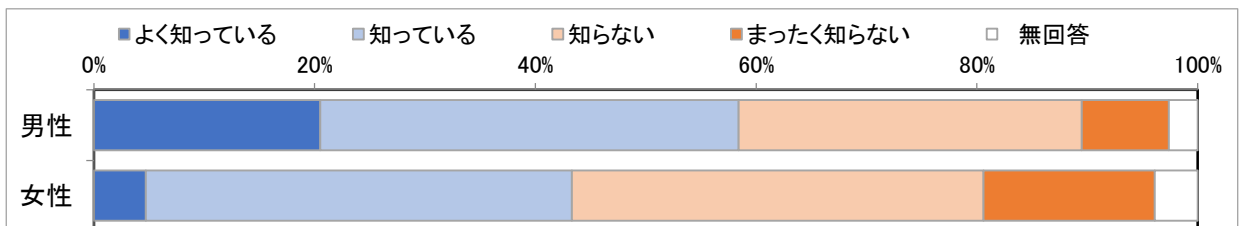
a 外部被ばくと内部被ばくの違い



● 集計表

			外部被ばくと内部被ばくの違い					
			全体	よく知っている	知っている	知らない	まったく知らない	無回答
性別	全体	件数	425	59	135	154	65	12
		%	100.0	13.9	31.8	36.2	15.3	2.8
	男性	件数	190	46	68	51	21	4
		%	100.0	24.2	35.8	26.8	11.1	2.1
	女性	件数	233	11	67	103	44	8
		%	100.0	4.7	28.8	44.2	18.9	3.4

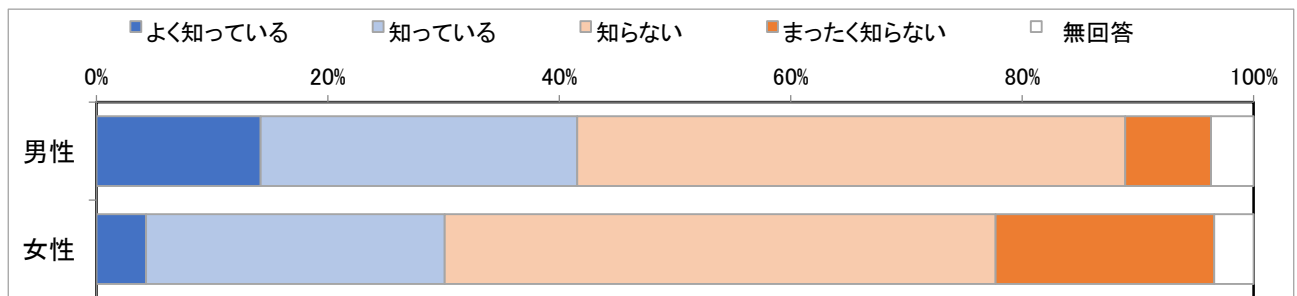
b 被ばくと汚染の違い



● 集計表

			被ばくと汚染の違い					
			全体	よく知っている	知っている	知らない	まったく知らない	無回答
性別	全体	件数	425	51	163	146	51	14
		%	100.0	12.0	38.4	34.4	12.0	3.3
	男性	件数	190	39	72	59	15	5
		%	100.0	20.5	37.9	31.1	7.9	2.6
	女性	件数	233	11	90	87	36	9
		%	100.0	4.7	38.6	37.3	15.5	3.9

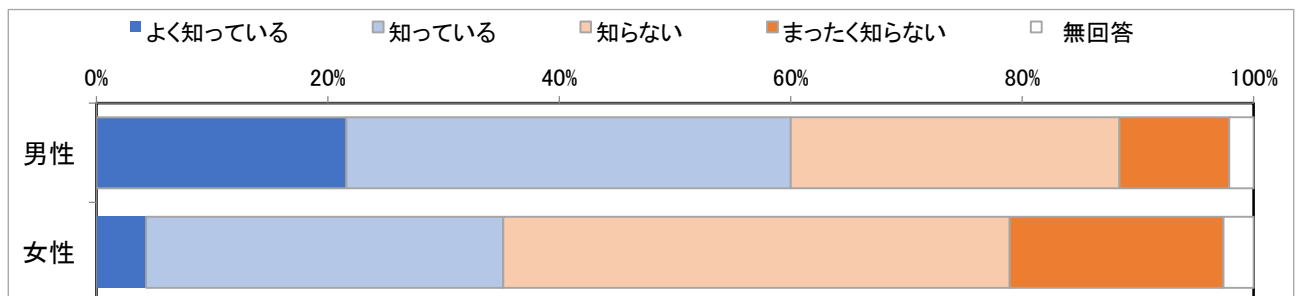
c 大人と子どもの放射線の影響の違い



● 集計表

			大人と子どもへの放射線の影響の違い					
			全体	よく知っている	知っている	知らない	まったく知らない	無回答
性別	全体	件数	425	38	113	201	58	15
		%	100.0	8.9	26.6	47.3	13.6	3.5
	男性	件数	190	27	52	90	14	7
		%	100.0	14.2	27.4	47.4	7.4	3.7
	女性	件数	233	10	60	111	44	8
		%	100.0	4.3	25.8	47.6	18.9	3.4

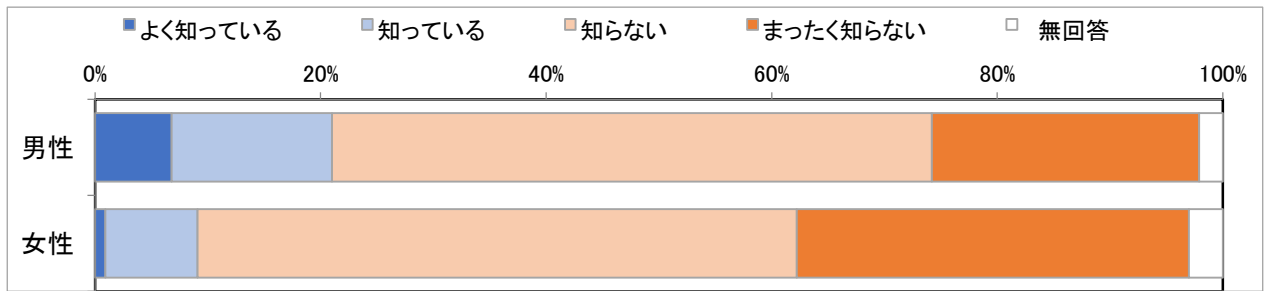
d 放射線から身を守るための三原則：距離・時間・遮へい



● 集計表

			放射線から身を守るための三原則：距離・時間・遮へい					
			全体	よく知っている	知っている	知らない	まったく知らない	無回答
性別	全体	件数	425	53	145	156	61	10
		%	100.0	12.5	34.1	36.7	14.4	2.4
	男性	件数	190	41	73	54	18	4
		%	100.0	21.6	38.4	28.4	9.5	2.1
	女性	件数	233	10	72	102	43	6
		%	100.0	4.3	30.9	43.8	18.5	2.6

e 身の回りの放射線量



● 集計表

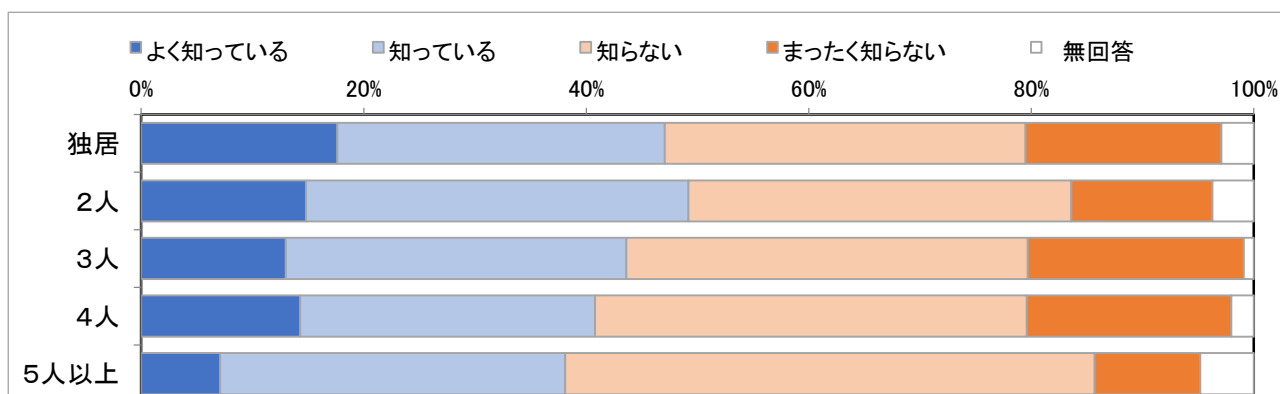
			放射線量					
			全体	よく知っている	知っている	知らない	まったく知らない	無回答
性別	全体	件数	425	15	48	225	126	11
		%	100.0	3.5	11.3	52.9	29.6	2.6
	男性	件数	190	13	27	101	45	4
		%	100.0	6.8	14.2	53.2	23.7	2.1
	女性	件数	233	2	19	124	81	7
		%	100.0	0.9	8.2	53.2	34.8	3.0

同居家族

● 結果の概要

- ・ 家族の人数が少ないほど、知識を有している傾向にある。ただし、「放射線から身を守るための三原則：距離・時間・遮へい」については、ひとり暮らしの回答者の回答率が低いため、この傾向に当てはまらない。

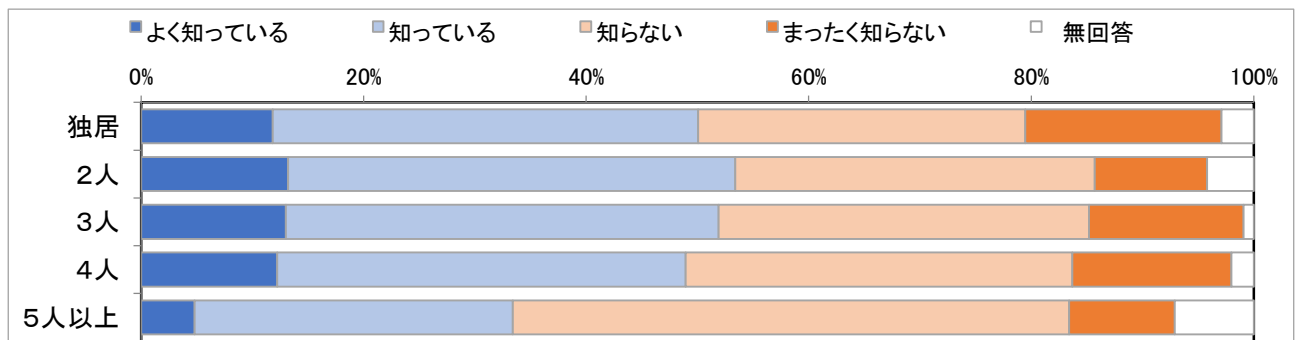
a 外部被ばくと内部被ばくの違い



● 集計表

			外部被ばくと内部被ばくの違い					
			全体	よく知っている	知っている	知らない	まったく知らない	無回答
同居家族	全体	件数	425	59	135	154	65	12
		%	100.0	13.9	31.8	36.2	15.3	2.8
	独居	件数	34	6	10	11	6	1
		%	100.0	17.6	29.4	32.4	17.6	2.9
	2人	件数	189	28	65	65	24	7
		%	100.0	14.8	34.4	34.4	12.7	3.7
	3人	件数	108	14	33	39	21	1
		%	100.0	13.0	30.6	36.1	19.4	0.9
	4人	件数	49	7	13	19	9	1
		%	100.0	14.3	26.5	38.8	18.4	2.0
	5人以上	件数	42	3	13	20	4	2
		%	100.0	7.1	31.0	47.6	9.5	4.8

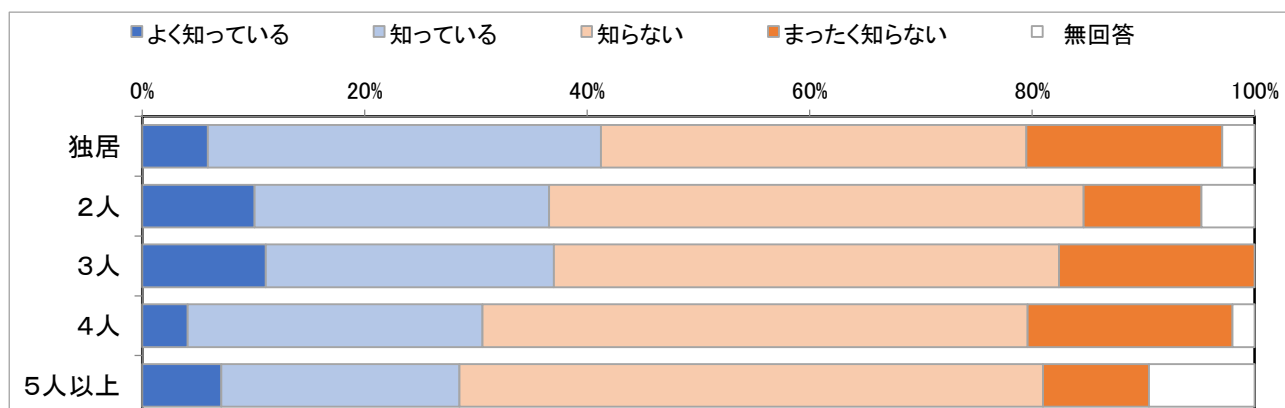
b 被ばくと汚染の違い



● 集計表

			被ばくと汚染の違い					
			全体	よく知っている	知っている	知らない	まったく知らない	無回答
同居家族	全体	件数	425	51	163	146	51	14
		%	100.0	12.0	38.4	34.4	12.0	3.3
	独居	件数	34	4	13	10	6	1
		%	100.0	11.8	38.2	29.4	17.6	2.9
	2人	件数	189	25	76	61	19	8
		%	100.0	13.2	40.2	32.3	10.1	4.2
	3人	件数	108	14	42	36	15	1
		%	100.0	13.0	38.9	33.3	13.9	0.9
	4人	件数	49	6	18	17	7	1
		%	100.0	12.2	36.7	34.7	14.3	2.0
	5人以上	件数	42	2	12	21	4	3
		%	100.0	4.8	28.6	50.0	9.5	7.1

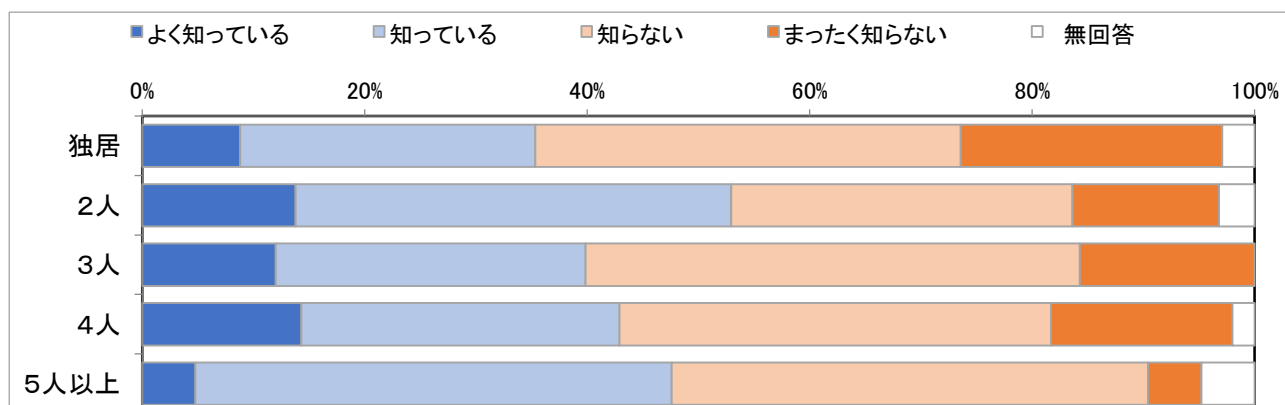
c 大人と子どもへの放射線の影響の違い



● 集計表

			大人と子どもへの放射線の影響の違い					
			全体	よく知っている	知っている	知らない	まったく知らない	無回答
同居家族	全体	件数	425	38	113	201	58	15
		%	100.0	8.9	26.6	47.3	13.6	3.5
	独居	件数	34	2	12	13	6	1
		%	100.0	5.9	35.3	38.2	17.6	2.9
	2人	件数	189	19	50	91	20	9
		%	100.0	10.1	26.5	48.1	10.6	4.8
	3人	件数	108	12	28	49	19	-
		%	100.0	11.1	25.9	45.4	17.6	-
	4人	件数	49	2	13	24	9	1
		%	100.0	4.1	26.5	49.0	18.4	2.0
	5人以上	件数	42	3	9	22	4	4
		%	100.0	7.1	21.4	52.4	9.5	9.5

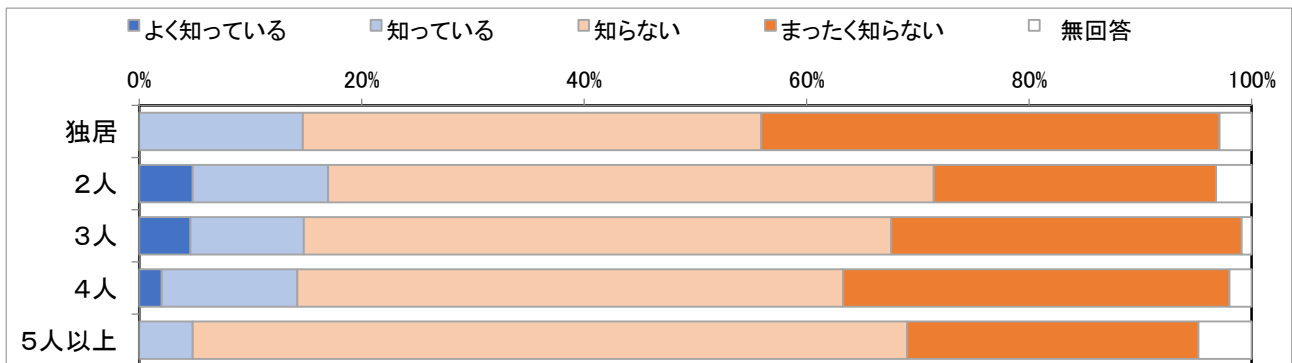
d 放射線から身を守るための三原則：距離・時間・遮へい



● 集計表

			放射線から身を守るための三原則：距離・時間・遮へい					
			全体	よく知っ ている	知ってい る	知らない	まったく知 らない	無回答
同居家族	全体	件数	425	53	145	156	61	10
		%	100.0	12.5	34.1	36.7	14.4	2.4
	独居	件数	34	3	9	13	8	1
		%	100.0	8.8	26.5	38.2	23.5	2.9
	2人	件数	189	26	74	58	25	6
		%	100.0	13.8	39.2	30.7	13.2	3.2
	3人	件数	108	13	30	48	17	-
		%	100.0	12.0	27.8	44.4	15.7	-
	4人	件数	49	7	14	19	8	1
		%	100.0	14.3	28.6	38.8	16.3	2.0
	5人以上	件数	42	2	18	18	2	2
		%	100.0	4.8	42.9	42.9	4.8	4.8

e 身の回りの放射線量



● 集計表

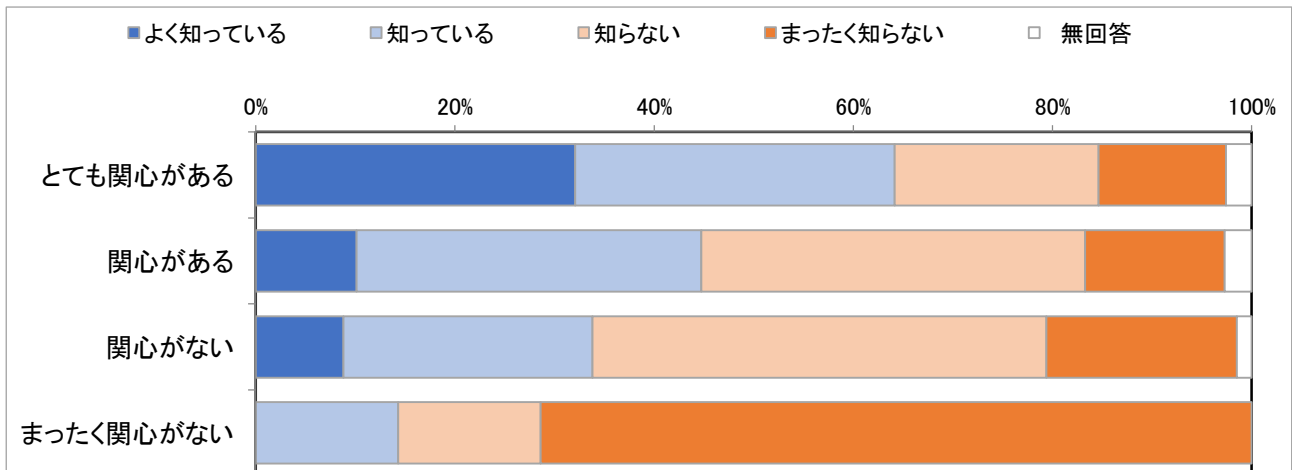
			放射線量					
			全体	よく知っている	知っている	知らない	まったく知らない	無回答
同居家族	全体	件数	425	15	48	225	126	11
		%	100.0	3.5	11.3	52.9	29.6	2.6
	独居	件数	34	-	5	14	14	1
		%	100.0	-	14.7	41.2	41.2	2.9
	2人	件数	189	9	23	103	48	6
		%	100.0	4.8	12.2	54.5	25.4	3.2
	3人	件数	108	5	11	57	34	1
		%	100.0	4.6	10.2	52.8	31.5	0.9
	4人	件数	49	1	6	24	17	1
		%	100.0	2.0	12.2	49.0	34.7	2.0
	5人以上	件数	42	-	2	27	11	2
		%	100.0	-	4.8	64.3	26.2	4.8

原子力防災への関心の程度

● 結果の概要

- ・ 関心の高い回答者ほど、知識を有している傾向にある。

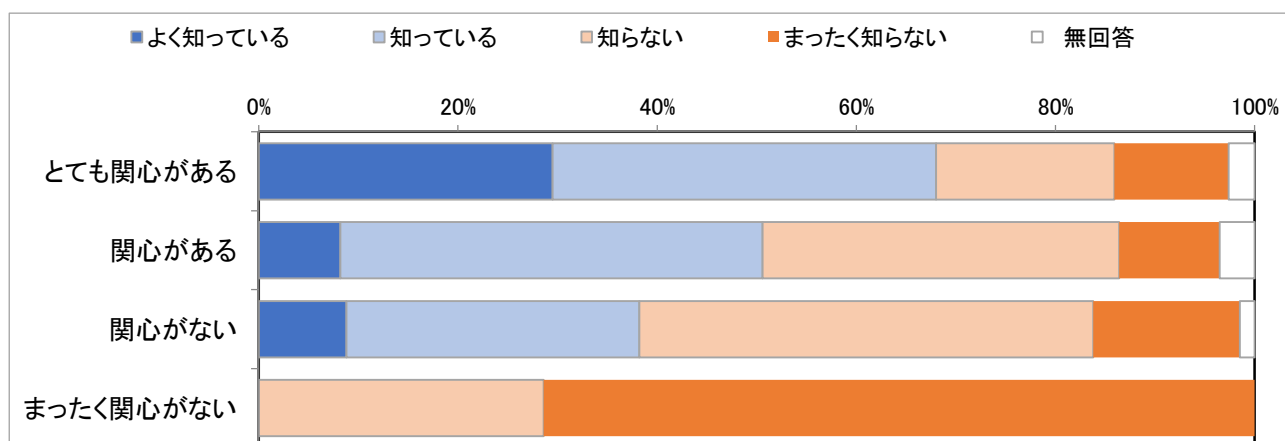
a 外部被ばくと内部被ばくの違い



● 集計表

			外部被ばくと内部被ばくの違い					
			全体	よく知っている	知っている	知らない	まったく知らない	無回答
関心の程度	全体	件数	425	59	135	154	65	12
		%	100.0	13.9	31.8	36.2	15.3	2.8
	とても関心がある	件数	78	25	25	16	10	2
		%	100.0	32.1	32.1	20.5	12.8	2.6
	関心がある	件数	257	26	89	99	36	7
		%	100.0	10.1	34.6	38.5	14.0	2.7
	関心がない	件数	68	6	17	31	13	1
		%	100.0	8.8	25.0	45.6	19.1	1.5
	まったく関心がない	件数	7	-	1	1	5	-
		%	100.0	-	14.3	14.3	71.4	-

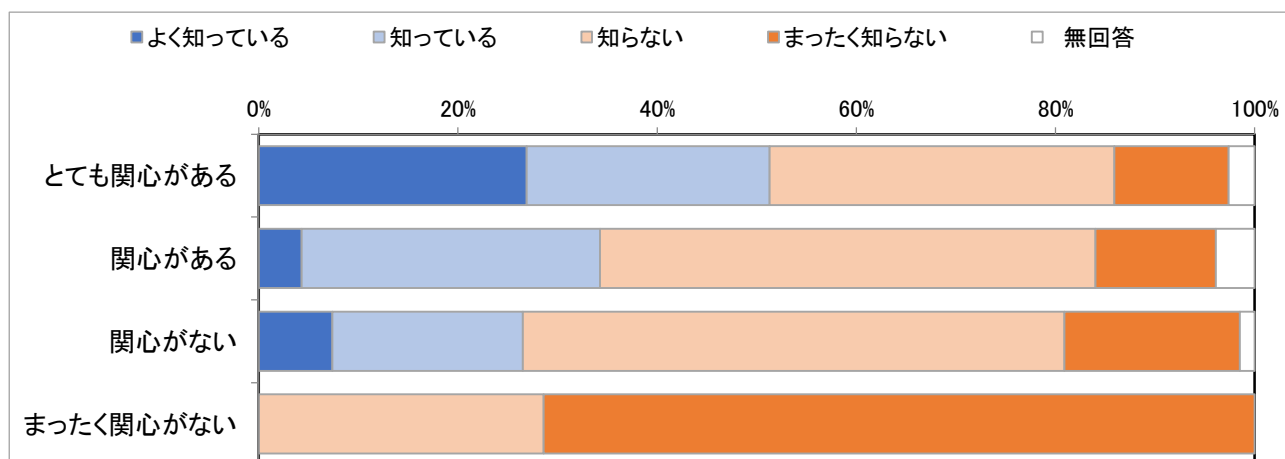
b 被ばくと汚染の違い



● 集計表

			被ばくと汚染の違い					
			全体	よく知っている	知っている	知らない	まったく知らない	無回答
関心の程度	全体	件数	425	51	163	146	51	14
		%	100.0	12.0	38.4	34.4	12.0	3.3
	とても関心がある	件数	78	23	30	14	9	2
		%	100.0	29.5	38.5	17.9	11.5	2.6
	関心がある	件数	257	21	109	92	26	9
		%	100.0	8.2	42.4	35.8	10.1	3.5
	関心がない	件数	68	6	20	31	10	1
		%	100.0	8.8	29.4	45.6	14.7	1.5
	まったく関心がない	件数	7	-	-	2	5	-
		%	100.0	-	-	28.6	71.4	-

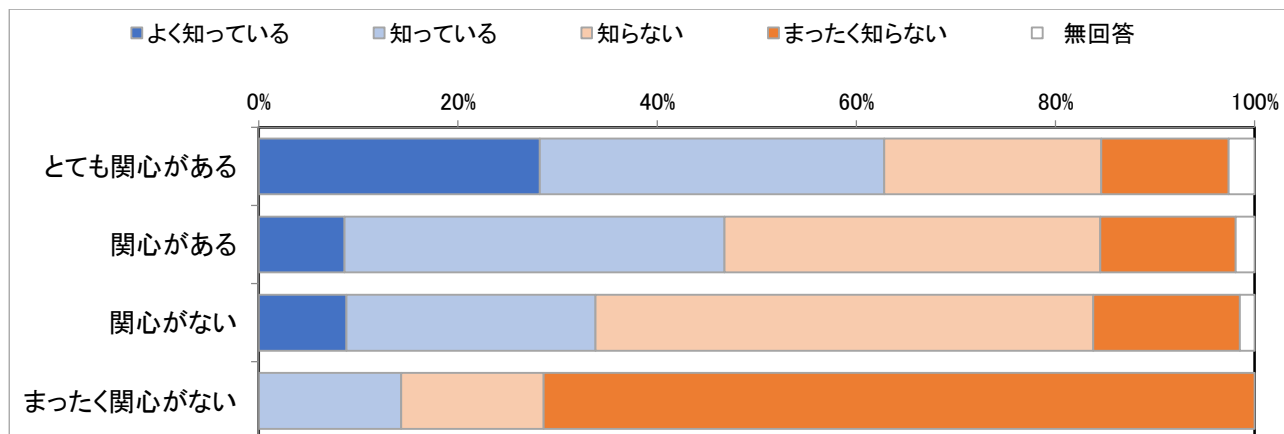
c 大人と子どもへの放射線の影響の違い



● 集計表

			大人と子どもへの放射線の影響の違い					
			全体	よく知っている	知っている	知らない	まったく知らない	無回答
関心の程度	全体	件数	425	38	113	201	58	15
		%	100.0	8.9	26.6	47.3	13.6	3.5
	とても関心がある	件数	78	21	19	27	9	2
		%	100.0	26.9	24.4	34.6	11.5	2.6
	関心がある	件数	257	11	77	128	31	10
		%	100.0	4.3	30.0	49.8	12.1	3.9
	関心がない	件数	68	5	13	37	12	1
		%	100.0	7.4	19.1	54.4	17.6	1.5
	まったく関心がない	件数	7	-	-	2	5	-
		%	100.0	-	-	28.6	71.4	-

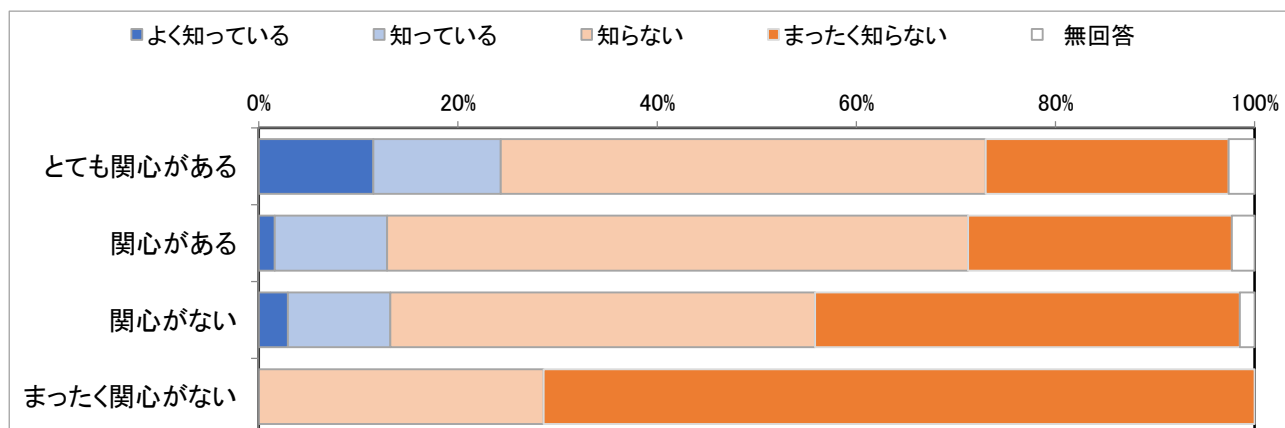
d 放射線から身を守るための三原則：距離・時間・遮へい



● 集計表

			放射線から身を守るための三原則：距離・時間・遮へい					
			全体	よく知っている	知っている	知らない	まったく知らない	無回答
関心の程度	全体	件数	425	53	145	156	61	10
		%	100.0	12.5	34.1	36.7	14.4	2.4
	とても関心がある	件数	78	22	27	17	10	2
		%	100.0	28.2	34.6	21.8	12.8	2.6
	関心がある	件数	257	22	98	97	35	5
		%	100.0	8.6	38.1	37.7	13.6	1.9
	関心がない	件数	68	6	17	34	10	1
		%	100.0	8.8	25.0	50.0	14.7	1.5
	まったく関心がない	件数	7	-	1	1	5	-
		%	100.0	-	14.3	14.3	71.4	-

e 身の回りの放射線量



● 集計表

			放射線量					
			全体	よく知っている	知っている	知らない	まったく知らない	無回答
関心の程度	全体	件数	425	15	48	225	126	11
		%	100.0	3.5	11.3	52.9	29.6	2.6
	とても関心がある	件数	78	9	10	38	19	2
		%	100.0	11.5	12.8	48.7	24.4	2.6
	関心がある	件数	257	4	29	150	68	6
		%	100.0	1.6	11.3	58.4	26.5	2.3
	関心がない	件数	68	2	7	29	29	1
		%	100.0	2.9	10.3	42.6	42.6	1.5
	まったく関心がない	件数	7	-	-	2	5	-
		%	100.0	-	-	28.6	71.4	-

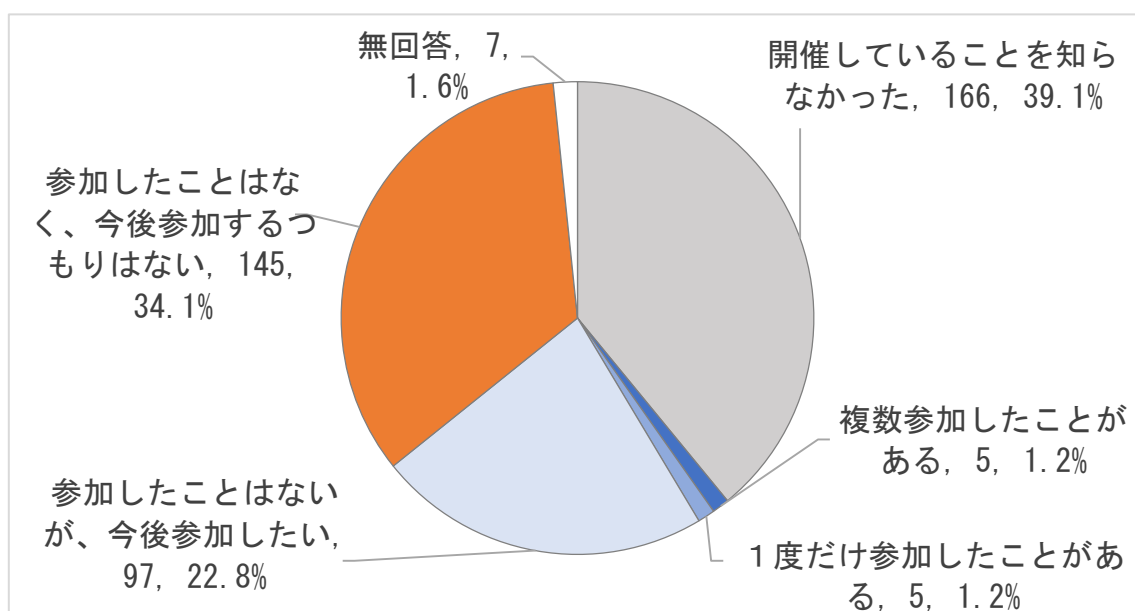
2.5 市や大学からの情報提供

問25 福井大学附属国際原子力工学研究所では、東日本大震災からの10年間防災に関するシンポジウム(年1回)を開催してきましたが、参加したことはありますか(○は1つ)。

◆ 単純集計結果

● 結果の概要

- ・ 「開催していることを知らなかった」の回答率が最も多く、39.1%であった。次いで、「参加したことはなく、今後参加するつもりはない」の回答率が34.1%、「参加したことはなく、今後参加したい」の回答率が22.8%であった。



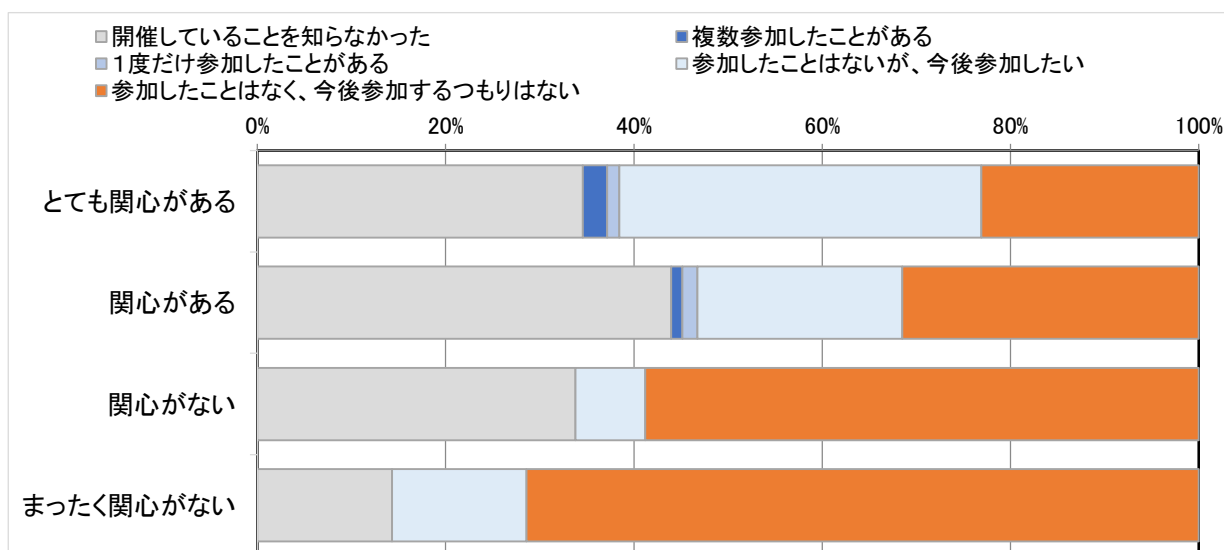
集計表

分類	件数	%
開催していることを知らなかった	166	39.1%
複数参加したことがある	5	1.2%
1度だけ参加したことがある	5	1.2%
参加したことはないが、今後参加したい	97	22.8%
参加したことはなく、今後参加するつもりはない	145	34.1%
無回答	7	1.6%
調査数	425	100.0%

原子力防災の関心の程度

● 結果の概要

- ・ 原子力防災の関心の程度別に見ると、「とても関心がある」「関心がある」と回答した方（関心層）ほど、参加経験や今後の参加意向がある方の割合が多かった。しかしながら、関心層であっても、「開催していることを知らなかった」や「参加したことはなく、今後参加するつもりはない」と回答している方も少なくなかった
- ・ 「関心がない」「まったく関心がない」と回答した方（無関心層）は、「参加したことはなく、今後参加するつもりがない」の割合が高かった。



● 集計表

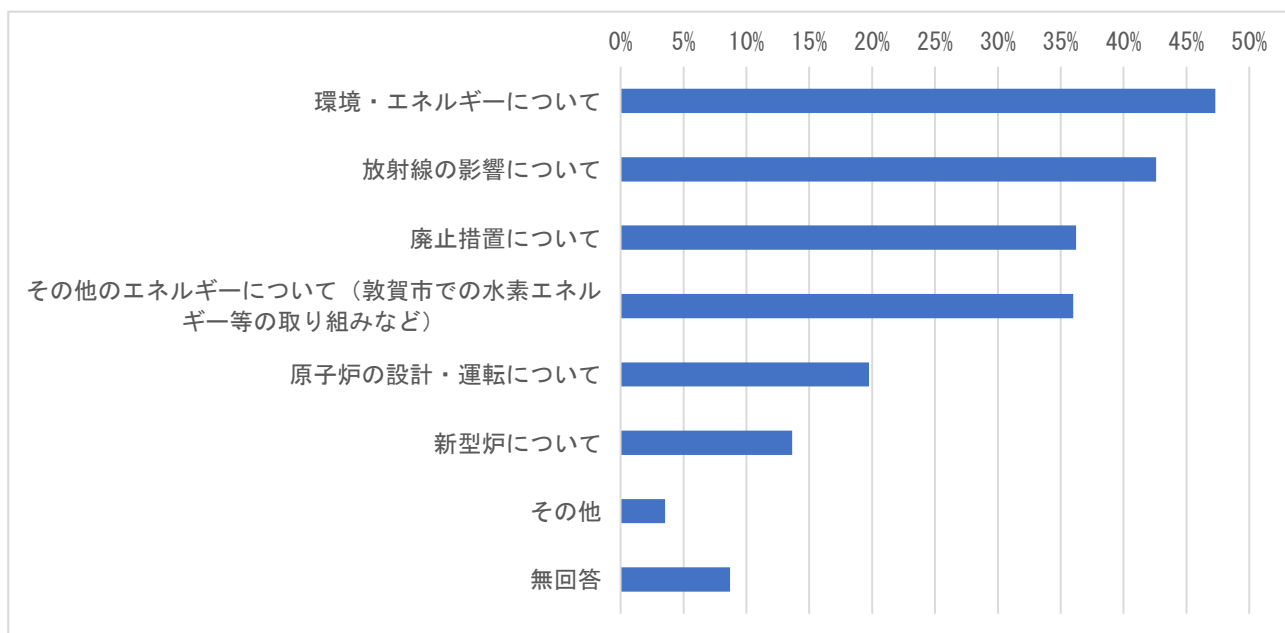
			シンポジウム参加経験					
			全体	開催していることを知らなかった	複数参加したことがある	1度だけ参加したことがある	加したくないが、今後参加したい	参加したことはなく、今後参加するつもり
関心の程度	全体	件数	425	166	5	5	97	152
		%	100.0	39.1	1.2	1.2	22.8	35.8
	とても関心がある	件数	78	27	2	1	30	18
		%	100.0	34.6	2.6	1.3	38.5	23.1
	関心がある	件数	257	113	3	4	56	81
		%	100.0	44.0	1.2	1.6	21.8	31.5
	関心がない	件数	68	23	-	-	5	40
		%	100.0	33.8	-	-	7.4	58.8
	まったく関心がない	件数	7	1	-	-	1	5
		%	100.0	14.3	-	-	14.3	71.4

問 2 6 敦賀市に立地する大学の研究所として、福井大学附属国際原子力工学研究所では原子力防災以外にどのような研究を行うことが重要だと思いますか（あてはまるものすべてに○）。

◆ 単純集計結果

● 結果の概要

- ・ 「環境・エネルギーについて」の回答率が最も多く、47.3%であった。次いで、「放射線の影響について」の回答率が 42.6%、「廃止措置について」の回答率が 36.2%であった。



● 集計表

分類	件数	%
環境・エネルギーについて	201	47.3%
放射線の影響について	181	42.6%
廃止措置について	154	36.2%
その他のエネルギーについて（敦賀市での水素エネルギー等の取り組みなど）	153	36.0%
原子炉の設計・運転について	84	19.8%
新型炉について	58	13.6%
その他	15	3.5%
無回答	37	8.7%
調査数	425	100.0%

● その他の回答

- ・ 放射線の無害化
- ・ 石油・石炭以外で将来のエネルギー開発(需要の安定)
- ・ 災害などで事故が起こっても、放射能による災害や汚染がおこらないような施設や設備の開発
- ・ 用済みの資材(清掃くず等も含め)速やかに撤去、市外へ
- ・ 防災・事故時の被害極限
- ・ 原子力発電所の廃棄物の処理
- ・ より安全に原子炉を運転できるための研究
- ・ 現場をよく知り現実的研究
- ・ 使用済燃料の処理
- ・ 廃棄物を無力化(早く)する研究をして欲しい
- ・ 加速器の開発(エネ研と共同して)
- ・ 特に行う研究はないと思います
- ・ 廃炉について。放射能の無害化について。
- ・ わからない
- ・ 人に安全なエネルギーを考えてほしい

◆ クロス集計結果

年代

● 結果の概要

- ・ 多くの年代で、「環境・エネルギーについて」の回答率が最も高く、傾向に差は見られなかった。
- ・ 30歳代では、「放射線の影響について」の回答率が高い。
- ・ 60歳代では、「その他のエネルギーについて」の回答率が高い。
- ・ 70歳代以上では、「廃止措置について」の回答率が高い。

● 集計表

			重要な研究								
			全体	環境・エネルギーについて	放射線の影響について	廃止措置について	その他のエネルギーについて	原子炉の設計・運転について	新型炉について	その他	無回答
年齢	全体	件数	425	201	181	154	153	84	58	15	37
		%	100.0	47.3	42.6	36.2	36.0	19.8	13.6	3.5	8.7
	20歳代	件数	24	13	10	6	7	5	2	-	5
		%	100.0	54.2	41.7	25.0	29.2	20.8	8.3	-	20.8
	30歳代	件数	54	24	30	20	19	13	4	-	4
		%	100.0	44.4	55.6	37.0	35.2	24.1	7.4	-	7.4
	40歳代	件数	64	30	28	18	19	17	13	3	4
		%	100.0	46.9	43.8	28.1	29.7	26.6	20.3	4.7	6.3
	50歳代	件数	66	35	32	22	20	15	6	4	6
		%	100.0	53.0	48.5	33.3	30.3	22.7	9.1	6.1	9.1
	60歳代	件数	117	56	43	43	50	19	14	7	8
		%	100.0	47.9	36.8	36.8	42.7	16.2	12.0	6.0	6.8
	70歳代以上	件数	99	42	37	45	37	14	19	1	10
		%	100.0	42.4	37.4	45.5	37.4	14.1	19.2	1.0	10.1

問 2 7 原子力防災に関して、敦賀市へご意見・ご要望がありましたら、ご自由にお書きください（自由記述）。

住民への情報提供(平常時・緊急時)等について		
年代	性別	自由記述
40 歳代	女性	RCN で実際、原子力の事故がおきた時どのような行動をとるのがいいか防災ビデオを作成して、何度もながしてほしい。実際にあつたら、この様に行動しようと市民が情報を共有しておちついた行動をとれるようにしてほしい。
40 歳代	男性	理解しやすい説明、幅広い周知
60 歳代	女性	実際、避難しなきゃいけないなくなった時、スムーズに行動できるか心配。言葉、文書の説明だけではイメージしにくい。
60 歳代	女性	東北の震災を教訓にして同じことを繰り返さないようにすることは大事だと思います 今後も地震は必ず来ます 必ず 早く うそのない情報をお願いします 災害を防ぐことはムリです でも減災しなくてははいけません 敦賀は今までの災害が少ない所ですから 備えが不十分で被害は大きくなるかもしれません
60 歳代	男性	情報発信元、内容の信頼性について何が一番いいのか？手段とその対策
60 歳代	女性	防災ラジオは電波が悪い地区の為、受信ができないので、、スマホや TV でお願いします。
70 歳代以上	男性	広報手段が弱い印象です。
60 歳代	男性	情報は、どこで、何を見て知れば良いですか？
30 歳代	男性	毎月、広報誌などでの情報周知活動、他団からの標的にされる可能性高いが、震災ではなくこうした外的に対する対応についての市としての考えや団との連携はどうなっているの？
50 歳代	女性	敦賀市民と原子力防災は切っても切れない問題です。今一度、市民が理解して内容がよくわかるような場を、住んでいる地区ごとに開催してみるといいと思います。その時はぜひ参加したいです。
60 歳代	男性	情報公開、啓発・公報活動
60 歳代	女性	防災訓練はいつも原子力に係わっていらっしゃる方やその(立地地域)場所に生活している方がほとんどだと思っていて、一般人は参加するすべを知りません。できるのなら地域ごとにやった方がよいのではないのでしょうか。原発が止まっても稼働してもリスクがあるのであれば、電力の下支えの意味で動かすことを必要性をもっと発信していいのではないのでしょうか。火力や自然発電には限界があると思います。CO2 を出さない安全性をもっと発信して将来廃棄にもっていく。
60 歳代	男性	・原子力防災の市民への周知徹底 ・避難先の見学・交流 ・消防力の強化 ・避難専用道路の確保または専用電車
30 歳代	男性	このアンケートで初めて知った内容が多々あるため、もっと情報を頻繁に発信してほしい。
70 歳代以上	男性	市から各世帯への情報(コミュニケーション)が不足していると思う。実際に問題が発生した時の具体策をもっともっと密に！
50 歳代	女性	頭が悪いせいか、広報誌、テレビ等媒体を問わず、発信される情報がわかりずらいです。私見ですが、専門家による発信したい情報ではなく、受け取る側にもわかりやすい情報を希望します。
40 歳代	女性	10 月に転入してきましたが、原電はあることは知っていても、どういう場合に避難が必要か、何を知らなければならないか、まったく案内されていません。転入時に説明いただく必要があります。
70 歳代以上	男性	原子力防災は大切だが過度の対応は原子力への不安を煽る。分り安く誰でも対応を理解してもらえる手帳を配布してはどうか。
30 歳代	男性	災害が起きた際にどう行動すればよいのか全く知らない 敦賀市に転居した際にパンフレットなど情報を頂けるとよいと思う。
70 歳代以上	男性	各事業所には防災ラジオがなく勤務中放送が聞けない。又外仕事の場合も同じく原子力災害がわからないので屋外スピーカー等で周知するとよい。
50 歳代	女性	原子炉を抱える市として、住民の安全な生活を守る事を優先して、正しい情報を伝えていただきたいです。
70 歳代以上	男性	・発信がない？知らない人が全んどでは。 ・原子力防災について、情報を得てないので、市への要望・意見など具体的にできない。
30 歳代	男性	防災に関して簡潔にまとめられたリーフレット等の配布があれば目に通す機会が増えると思うので原子力防災について周知がある程度は見込めると思う。
60 歳代	女性	発電所内でのちょっとした不具合や事故等が起きた場合、市民にはすぐに解かりやすく伝えてほしいです。
60 歳代	女性	コロナの事がおちついたら、話を聞きたいと思います

30 歳代	男性	訓練の様子をニュース等でもっと周知・宣伝したらよいと思う。
50 歳代	男性	敦賀市には原子力発電所の仕事に係わりを持つ会社や人が多い割に原子力防災に対する意識や関心が高まっていないと感じる。(現状や計画の賛否に関わらず) 行政や原子力防災に係わる各機関はいろいろな工夫や努力をして頂いていると思うがもっと身近で気軽に体験や理解ができる機会を増やすことも必要ではないでしょうか。
70 歳代以上	女性	今後とも正しい情報提供をお願いします。
30 歳代	女性	災害が起きた後の対応について、確実に安全な方法と、そのまま、ここの敦賀に住み続けていくために、どのように考えているのかを考案、提示してほしい。被ばく、汚染地域となり住み続けることは不可能です！とならないために。
70 歳代以上	女性	以前漏れた時に、3時間後くらいに、市民に伝えたように思う。それでは遅すぎて逃げる時間がなくなる。 ①何分以内に伝える訓練をしっかりすべき◎ ②誰が曾於のときの風向きを調べ、どの方向へ逃げるのが一番良いかを調べさせて、判断して決定し、伝達する責任者を決めておき、それを市民に伝える訓練をやるべき◎ ③当然、ヨウ素剤は前もって本人一人ひとりに手渡しておき、〇〇の時はすぐに服用するように伝えて配るべきで、世帯主だけではなく、子供にも学生にも持たせておくこと。
60 歳代	女性	RCN で情報を周知して下さい(具体的に)
30 歳代	女性	原子力関係の仕事に就いてから、原子力関連について身近に感じることができました。他県で発生した原子力事故で反対する方が多くいます。その方たちが少しでも理解していただけるように防災・安全性について広めていってくださるようお願いしたいです。
50 歳代	女性	危機感を煽ることはいけないと思うが、全く危機感がないことが多い気がするので、原子力の防災意識は他県の地震等の天災にプラスされていることを、もっと持たなければならぬことを伝えてほしいです。
70 歳代以上	女性	毎月発行の市の「広報つるが」に関連記事の掲載があれば、目に止まるが、原子力関係の別紙面では、難解と敬遠しがちです。
70 歳代以上	男性	防災パンフレットについて、目に留まるどころ、フックに吊り下げてありますが、機会がないと忘れてしまっており、読み返しました。
30 歳代	男性	敦賀市の安定的な財源として、原子力が必要なことは理解している。エネルギーの安定供給のためにも、原子力は必要。ただ、危険なものでもあり、国として敦賀市として、しっかりと守ってほしい。市民生活を守るためにも、もう少し発信力を磨いてほしい。
40 歳代	女性	11 年前に敦賀に転居しましたが、原発があるのに市民の原発に対する意識の低さにおどろきました。原発や防災についてもっとオープンに話し合う方がいいと思う。
30 歳代	女性	原子力防災について全く理解ができていない事が分かった。原子力関係の便り等が難しいイメージがあり、読む気がなかったが、それではいけないと感じた。子供でも分かり易い原子力防災のパンフレットはあるのでしょうか。

防災訓練・避難訓練の実施に関して		
年代	性別	自由記述
60 歳代	男性	一時避難施設への避難訓練は必要だと思う。
70 歳代以上	男性	防災訓練の実施(避難先まで)
60 歳代	男性	避難訓練の充実
60 歳代	女性	防災訓練のあることは知っているが、避難訓練への参加をしようと思うところまでいかない。もっと地区毎でも小刻みな感じで実体験(家族の1人でも)することが大事と思う。キキ感がないことが問題。
60 歳代	男性	新型コロナ拡大の中、できる場所で防災訓練等の実施をお願いします。
60 歳代	女性	原子炉に近い住民に対する訓練だけではなく、各学校区ごとに避難訓練を行うべきと考える。
60 歳代	男性	町全体で取り組む防災訓練(避難訓練)の実施。 現在行っている訓練は、関係機関・地元地区の参加者がメインで有り、市民の意識が薄い。
30 歳代	女性	高齢者の多い地区の訓練などをしっかりやってほしい。
50 歳代	女性	実践的な防災訓練を行ってほしい。
70 歳代以上	男性	・敦賀市全区の防災訓練だけではなく、各地区別にこの防災訓練も必要かと思うのです。年に分けて数区別に実施しては？
70 歳代以上	男性	年1回(9月)は、各地区毎に、避難施設やスクリーニング場所まで行く訓練は計画的に行うべき
70 歳代以上	女性	その時に従うことだが、一辺は避難訓練を経験しておくことが大事なのかなと思います。
60 歳代	男性	簡単な訓練では何も意味はなく実践さながらの訓練をやらないと効果がないと思います

脱原発・再稼働に関して		
年代	性別	自由記述
70 歳代以上	男性	無し クリーンエネルギーの原子力発電はやめないでほしいです。
50 歳代	男性	水力や風力発電、安全性の高いものと思う。 原子力は安全に廃止してほしい。
60 歳代	男性	原子力の利用は停止すべきだ。無用な心配をする必要がなくなる。
60 歳代	男性	古い物をいつまでも運用していないで、最新の技術で、あらゆる災害を想定して、より安全・安心な物を作って、活用していったほうが市民も安心できるのではないかな？
70 歳代以上	男性	安全安心で始めた原発、今は防災と廃炉、使用済燃料の始末を並行して考えてほしい。東日本大震災から 10 年、現在も後始末ができていません。安全なエネルギーに考えるべき。安全安心を考えるなら、原発はやめるべき。
60 歳代	男性	一日も早い廃炉を希望します。
60 歳代	女性	原発を運転しない、原発を増設しない
60 歳代	男性	原子力発電所が 3 基？とも稼働していないので、早く燃料棒を抜いて処分してください。これでは発電しているときより危険ですので！！
60 歳代	女性	40 年以上の原子炉は廃止
50 歳代	男性	原子力 P/S も長期停止、今後も再稼働する見込みも遠いことから、訓練も力が入らない。環境からも原子力 P/S 重要性をもっとアピール説明し新型炉含めて、経済性についても検討してほしい。
20 歳代	男性	個人的には安全管理を徹底した上で原子力の再稼働して欲しい。
70 歳代以上	男性	私は熱烈な原子力推進派です。だから日本の原子力発電には絶対的な信頼をよせています。そのために原子力規制庁があるのです。安心して安全で安い電力を日本国民に提供していただきたい。
70 歳代以上	男性	・原子力災害は、事態、状況が広範囲(EAL1～EAL3、OIL1～OIL～2)と幅広い検討が現在考えられている。 ・今後は、論理的検討をより現実的、具体的、実質的な状況に絞り、検討を進めるべきである。
60 歳代	女性	エネルギーとして原子力が必要なのか市内外の理解を求める
40 歳代	回答しない	原子力推進ありき、(具体的に廃炉しても放射性物質はずっと残って管理しつづければならない)、ただ推進する方向のみで検討していて一方的な市政であると思う。市役所職員の面接に原子力について面接するのはやりすぎです。廃炉にしたらごみはどう管理していくのでしょうか？
60 歳代	男性	原子力災害による避難をしなければならないような施設、原子力があること自体がおかしいです。だめです。敦賀市のふるさとに帰れない、住めない、放射線災害であり、敦賀市として原子力関係はもっと厳しく言ってください。

避難方法、体制等に関して		
年代	性別	自由記述
60 歳代	男性	1.可能な避難経路に海上、空路を使うことを考えて下さい。 2.核シェルターを作ること。 3.避難経路、手段に陸路、車は使用しない。 4.病院船を用意、準備すること。
70 歳代以上	男性	県外避難の際、北風の場合南の方向(奈良県)へ避難するのはかえって危険と思うが、県外避難の場合の奈良県以外の他府県への避難も検討すべき。
70 歳代以上	男性	実際に事故が起きてから避難開始までの時間が、どの程度なのか、すこぶる不安であるのと同時に、疑問です。ステージの違いでかなりの差が出るのではないのでしょうか？
50 歳代	女性	原子力防災のみならず、他の災害時においてもペット同伴で避難出来る場所をしっかりと確保してほしい。
60 歳代	女性	①外部被ばく低減と汚染防止のために、トンネルの活用 ②高性能フィルター付のバスを設置、あるいは換気装置の取付をできるようにすること。 ③風向き、風速を即座に判断できるように、スピーカーによる呼びかけ、避難方向を的確にする。

事故防止に関して		
年代	性別	自由記述
60 歳代	男性	事業者への指導とチェック(安全と意識)
60 歳代	女性	<ul style="list-style-type: none"> ・正しい指導があるか不安(問 21 選択肢 3 のコメント) ・先ず”敷地内に保管中の放射能含むものを全て市外に出すよう、要求すべき ・放射能含む物に、重い税金をかけ、搬出を促す。 ・原子力発電所を動かせば、その分”放射能のゴミが出る”このゴミを早く敦賀市から撤去すべき ・大気中に放出すべきでない！！
70 歳代以上	女性	福島での事故は原発がある地元として、本当に胸が痛い思いです。安心安全を第一に考えて、進めていってほしいと思います。
60 歳代	男性	敦賀市への要望はほとんどありません。寧ろ日頃から原発をかかえる市として、良くやって頂いていると思っております。ただ、東北震災時の事、それ以降を見ると国の施策で原子力発電を広めてきたはずですが、事故に関し全て、その反省が無い様な、責任は民間に有る様な態度に今後の不安を感じます。国が一元管理して、将来的な計画を立て、行動していくべきではないかと思えます。
60 歳代	男性	私は昨年4月まで福島県相馬郡飯館村にて放射性廃棄物(可燃)の黒色フレコンを焼却場へ運ぶ作業を請負った工事業者の労務担当として約4年間赴任しておりました。当初は「帰還困難地区」として住むこともできず人が住んでいない集落にいのししや猿が走り廻っているという状況や作業員の放射線量管理、特殊健康診断等、起ってしまった災害の後しまつにどれだけの費用がかかるのか二度とこの様なことが起きないことを祈るのみです。

安定ヨウ素剤に関して		
年代	性別	自由記述
60 歳代	男性	安定ヨウ素剤についての知識があまりない。学習する必要がある。
20 歳代	女性	実際、安定ヨウ素剤を服用しなくてはならない時に常用薬と一緒に服用していいものかわかるようにしてもらいたいです。
50 歳代	女性	ヨウ素剤を配ってほしい(希望者だけでも)

学校教育に関して		
年代	性別	自由記述
40 歳代	女性	原子力防災及び原子力と共存していくことのメリット、デメリットを子ども達(中・高校生)に指導、啓発等し、子ども達がこの先を敦賀で生きていく時の判断基準とできるようにしてほしい。
30 歳代	女性	小・中・高校生などにも分かりやすく授業があるとよい。 高齢者や一人暮らしの人たちの避難、小さな子供がいる家庭への防災をスムーズにできるようにしてほしい。
70 歳代以上	男性	<ol style="list-style-type: none"> ①小学生、中学生に放射線リスクについて危険性のみではなく、リスクに対して前向きに取り組めるような教育をして下さい。 ②一般市民に放射線リスクセミナーを定期的に行い、放射線リテラシーの向上を図ってほしい。

その他		
年代	性別	自由記述
60 歳代	男性	いつ、何が起こるかわからない？普段から緊張感を持って原子力防災に取り組んでもらいたい。想定外の事は起こる可能性があると思ってほしい。お世話になります。かしこ。
70 歳代以上	女性	防災基本計画がしっかりしてても。急に災害が起こると、あわてて今までの準備等できないと思う。それに、毎年安全委員会も変わり、整理して見直しが大事で、防災基本計画を必要な措置をしなければいけないと思う。
60 歳代	男性	本アンケート等も、ネット管理下で実施されるべき内容と思う。
30 歳代	女性	防災グッズを提供してほしい。それか、安価でこ入できるといい。
50 歳代	男性	コロナで行動規制している割には、こっそりお店(飲食店)を貸切したりして、飲み会を行っているような会社(電力)の行っていることは信用できない。
20 歳代	女性	本人が障がい者のため、母が訪ねて代筆しました。
40 歳代	女性	もしもの時は指示をよろしくお願いします。
40 歳代	女性	事故があつてからの対策ではなく、なくて当たり前の意識であっていただきたい。
70 歳代以上	女性	防災グッズをまとめて買っておくため、必要な品物を安く買えるよう、業者に売りしていただきたいと思います。
40 歳代	男性	昨今、川のはんらんに対する危機感が増えてきていたが、原子力災害に対しては楽観的になっていた。美浜原発も再かどうするので、災害を想定した、敦賀市の防災対策内容をしっかり確認していく必要があると感じた。
70 歳代以上	女性	原子力災害は、おこらないのが一番でしょう。原子力に対する知識が低下しているとききます。技術者も減っているとか、レベル UP しては…
60 歳代	女性	このアンケートで原子力防災パンフレットを見直しました。家の片すみに置かれていましたが、アンケートを書くのに勉強になりました。
50 歳代	男性	日本原子力発電所という会社と慣れ合いにならず、悪い所は悪い。直せと強く言える体制で市役所はあつて欲しい。
50 歳代	男性	これまでの知見を活かして更に対策を高度化していただきたい
70 歳代以上	男性	原子力災害は、大地震や大津波と同じく滅多には起らないが「万一生じても適切な防災行政によって必ず助かる」との信念で対策の充実に務めて下さい。(いたずらに不安を煽らず、着実に判断下さい)
70 歳代以上	男性	このアンケートを機会に「原子力防災パンフレット」を読み直しました。危機感がなければ読むこともなかったかと思うと、勉強になりました。ありがとうございました。
60 歳代	女性	廃炉ばかりで、原子力防災に対しての気持ちを持ってなくなっています。残念です。
50 歳代	男性	市民の安全を考えて行動してください。
30 歳代	女性	知らない事がたくさんあつた。

問 2 8 原子力防災に関して、福井大学附属国際原子力工学研究所へご意見・ご要望がありましたら、ご自由にお書きください（自由記述）。

実施すべき研究・活動等に関して		
年代	性別	自由記述
60 歳代	男性	原子力に変わる安全なエネルギーの開発。
60 歳代	男性	廃炉の研究を早急にすべきだ。
40 歳代	女性	もしもの時のため研究をよろしく願います。
40 歳代	女性	原子力に代わるエネルギーの開発を今後も願います。
60 歳代	男性	<ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物の適切な処理方法 ・新型炉の研究 ・高速増殖炉の研究
60 歳代	男性	燃料棒の処分方法の研究を進めて！！
70 歳代以上	男性	具体性を持ったシミュレーションをお願いしたい！
60 歳代	男性	近年自然災害が多く発生し、加えて原子力災害の可能性があるのはリスクが高過ぎます。将来を見据えて防災より廃止を含めた災害をゼロにする研究を切望します。
50 歳代	男性	その他エネルギーで H2 エネルギーに取り組んでいるが、原敦3・4号機跡地・電池・風力などの取り組みも必要ではないか。
60 歳代	男性	住民に対しても、社会に対しても安全でかつコストパフォーマンスの良いエネルギーの研究を原子力に限定せず、研究して頂ければと思います。10～20 年スパンでの研究をし続けられる様な体力をつけて頂き、有益な研究を期待しています。今の子供達の為に、更に明るい未来の為に。
50 歳代	男性	<ul style="list-style-type: none"> ・更なるご活躍をお願いします ・加速器の利活用、高度化に力を貸して下さい
30 歳代	男性	福井県として、大学として、しっかり対応してくれ。研究をしっかりしてほしい。

研究体制・スタンス等に関して		
年代	性別	自由記述
40 歳代	女性	市と県とも協力して専門の方の説明や、市長や市民に危険な状況な時は正直に話してほしい。
60 歳代	男性	次世代の育成
70 歳代以上	男性	当該研究所には地元民を最大限採用して頂きたい。
60 歳代	男性	有益な人材の育成
70 歳代以上	男性	市民との交流を密にして身近な存在に感じてもらうことが必要と思う。
40 歳代	男性	原子力の利用は、今の日本にとっては、まだ必要であると思うが、事故が起こっても放射能が広がらないよう、また設備の外に出ないような施設を作ってほしい。
70 歳代以上	女性	原子力災害対応の実効性向上に向けた取組重点化 対応力の強化訓練、研修訓練の拡充強化 避難計画の具体化等、何度訓練していても、さあとなったら、何%できるのかわかりませんが、..した方が少しでも良くなると思います。
70 歳代以上	男性	<ul style="list-style-type: none"> ・市民へ物理的、精神的に開放すべきでは？ ・現実的、具体的な研究を進めてほしい。
50 歳代	女性	原子力に関わってくれる人材の教育、育成に頑張ってください。
40 歳代	女性	発電所をもっと有効に使えるようにしてください。逆に動かさないなら、もう閉めちゃってください。みんなの税金を無駄にしないでください。

情報発信・情報公開・広報等に関して		
年代	性別	自由記述
40 歳代	男性	・広報をもう少しして欲しい(情報が入ってこない)
60 歳代	女性	情報がまったくない なにをしているかわからない
60 歳代	女性	研究成果を広く広報してもらいたい。
60 歳代	女性	オープンキャンパス
70 歳代以上	男性	貴研究所への認知度が低いような気がします。更なる PR が必要なのでは？
60 歳代	男性	何をしているのか良く分からない。
30 歳代	男性	そんな機関があったことすら知りませんでした。
60 歳代	男性	啓発・広報活動
60 歳代	女性	正直、どのような研究所なのかわかりません。市民にもう少し分かってもらえると、原子力への関心も、いろんな研究もわかると良いですね。
40 歳代	女性	市民の理解を仰ぐための説明会
70 歳代以上	男性	どんな学校なのか知らない。これも内容等周知してほしい。
70 歳代以上	男性	当研究所が何をしているのか知らないので、意見などできない。
30 歳代	男性	相互連結協定締結は知っているが実際にどう取り組みをされているのか分からないため手軽に読める簡潔にまとめられたリーフレット・パンフレット等があればよいのかと思います。
60 歳代	女性	どこで何の研究をしているのかもっと市民にわかりやすい情報提供
50 歳代	男性	敦賀市に「福井大学付属の原子力に関する学部がある」といった認識しか持っていない市民が多いのでは。 もっといろんなことを PR すべき！！
70 歳代以上	男性	放射線リスクを前向きにとらえられるような教材を開発し、問 27 の教育やセミナーに使ってほしい。
70 歳代以上	男性	・市の防災行政・計画策定に必要な基本情報提供に停まらず、原子炉とりわけ新型炉の設計や研究の中核施設として今後も積極的な情報発信に注力下さい。 ・又、若い研究者、学生達にも上記意識を共有して下さい。
30 歳代	女性	被ばくから身を守るためにはどうすればよいのか。研究所から情報発信を増やし、市民の防災意識を高めてほしい。難しい言葉を並べられたり、専門用語ばかりだと、市民へは何も伝わらないので、誰でもわかりやすい資料・情報がほしい。
60 歳代	男性	原子力災害による避難、放射線の影響など、研究所でどのような研究を行っているのか、全く知りません。もっともっとオープンに行ってください。文書とかではなく、NHK テレビ、福井テレビで行ってください。
60 歳代	女性	RCN で活動内容を教えてください
70 歳代以上	男性	年 3～4回くらいは、エネルギー、原子力発電について関連するシンポジウム、パネルディスカッション、フォーラム等を行政(国、地域)とコラボして行ってほしい。国際的な原子力事情が全くわからない。

その他		
年代	性別	自由記述
60 歳代	男性	あまり良くわからない。別になし！！
70 歳代以上	女性	海外の国々へも誇れる、防災地域になりますようお願い致します。
60 歳代	女性	もう少し短いわかりやすい名前にしたらどうですか
60 歳代	男性	何が問題か？ 災害(市民への影響)時の対策(対応) ①バス移動←ダメ(移動出来ない) ②災害の概要(どのような災害なのか、また時間的余裕について)
60 歳代	男性	通常の大学とイメージが異なり、研究所のイメージが強く感じる。
60 歳代	女性	現在、防災は不可能でしょう。一日も早く解体して、本社へ持ち帰るべき！！40 年以上負を敦賀市が受けてきた。もうこの辺で区切りつけるべき
50 歳代	女性	大変重要な研究をされている事に大いに感謝します。敦賀市民のみならず、全国の人たちが安心して原子力と共存できるような環境のために、今後もよろしく願います。
70 歳代以上	男性	福井大学付属国際原子力工学研究所さんには、日本の原子力防災は、私は世界一だと自負しています。これからも自信と勇気を持って、原子力防災の仕事に励んでいただきたい。
40 歳代	回答しない	原子力は流すところのないトイレのようなもの。 つくるだけでなく、無害化できる方法を探ることができなければ、子供たちに有害なごみを残すだけです。 研究者が大人ならば、子供たちにごみをばらまいたまま、放っておくことはできません。 あなた方の死後も何十年後も残っていくのです。
70 歳代以上	男性	原子力防災進展のため、頑張ってください。
70 歳代以上	女性	一度動かしたらやめるにやめられない。何事も止めること(後のこと)を考えて行動しなければならぬ。廃炉、はうまくできるのかな？不安です。
30 歳代	女性	研究所の存在を今回初めて知りました。原子力防災は、原子力が存在する限り必要なことです。終わりが無いような事業ですが、必ず成果が出る時がくるので、これからも研究お願いします。
50 歳代	女性	研究が安全でより地球の環境をよくするように、敦賀から世界の原子力をひっぱっていただけるように、頑張ってもらえることを応援しています。
50 歳代	男性	今後、敦賀原発は廃炉になると思いますが、市民が安全かつ健康でいられるよう努力していただけるとありがたく思います。